

# 奥羽トヨタ自動車販賣株式會社

【所在地】 青森市大字濱町五一  
 【電話】 青森 三二五〇番

【營業項目】 一、自動車及同部分品附  
 屬品販賣並に修理加工業  
 一、石油代用燃料機販賣並  
 に取付、修理加工業

【資本金】 金十八萬圓  
 【拂込金】 全 額  
 【積立金】 金三千七百圓  
 【決算期】 十二月  
 【前期配當】 年七分  
 【現在役員】 取締役社長 横内 忠作  
 取締役支配人 小野彦之丞  
 取締役 横内 忠一  
 監査役 横内 瑞 穂

【出張所】 八戸出張所  
 八戸市大字二十八日町五番地  
 弘前出張所

弘前市大字和徳字松ヶ枝十四番地  
 大湊出張所

下北郡田名部町大字田名部字川尻二  
 十一番地

【沿革一斑】  
 青森縣下の産業界を通観して、横内氏の活躍の眼見しいことに何人も先づ眼を瞠くであらう

各種の事業に非凡なる經營能力を發揮してゐるが、就中、顯著なる業績を展開してゐるのは交通機關に關するものである。彼の國産自動車として最高峰を占めてゐる「トヨタ」自動車の奥羽一回に亘る販賣普及を目指して設立せられた當社も、亦横内系事業の有力なる代表的一翼をなすものと云はねばならない

現在當社は前掲列記の通り、自動車及び同部分品附屬品の販賣並に修理加工業を主

とし、戦局の進展に隨從して燃料國策の見地から、石油代用燃料機の販賣並に取付、修理加工をも營み、これ又最近夥しい販賣成績を獲得しつつある現況である

全額拂込済み金十八萬圓の資本金は、必ずしも巨大とは云ひ得ないが、然し時局柄資本の統制に依つてこれは餘なきことであつて、積立金を準備してゐるほど餘裕綽々たる資力を示してゐるのである

從て事業成績は頗る良好であるが、最近に於ける株主配當は年七分に止めて置き、利潤を専ら社礎の強化と來るべき大増資大發展への用意に振向けてゐるところなどは、流石に堅實第二主義を標榜する横内系事業の面目を遺憾なく發揮したものと云ひ得るではないか  
 時局は益々深刻化しつつある戦争の現段階に照らして、當社の産業的使命は更らに二段と重加したものと云はねばならぬ

# 秋田代用燃料機株式會社

【所在地】 秋田市大工町五一  
 【電話】 秋田 二二三三番

【營業項目】 一、石油代用燃料機及部分品販賣  
 一、發生爐取付  
 【資本金】 金三萬圓  
 【拂込金】 金一萬三千五百圓  
 【決算期】 十一月  
 【前期配當】 年六分  
 【現在役員】

取締役社長 加藤 豊 治  
 取締役 横内 忠 作  
 取締役 藤本 新之助  
 監査役 横内 瑞 穂  
 同 三浦 久 藏

【支店所在地】  
 一、秋田市茶町梅ノ丁  
 一、秋田市花立町  
 一、秋田市寺内町八橋  
 一、秋田縣北秋田郡大館町御成町

一、秋田縣北秋田郡大館町  
 【沿革一斑】

戦ふ日本に執つて目下最も喫緊な物資は何と云つても燃料であらう  
 第一線の軍事行動に於ては無論のこと、銃後に於ける生産面に在つても燃料問題が常にその消長を支配してゐるのである  
 然るに我が日本は元來燃料の太宗たる石油に對して甚しく恵まれぬ國である、その不足を克服して今回の如き有史以來の大戦争を敢然と遂行するのであるから、石油に代る燃料の研究が必要であり、その燃料機の製作が必要であるのは當然である  
 當社は斯る國家的要求に應へて創設せられたもので、その設立趣旨に於て既に國策の線に沿つてゐるのである  
 東北五六郡市の一たる秋田市を營業的基地として、精巧にして効率の高い燃料機及び部分品を販賣し、年を逐うて大發展を遂げつつある代表的會社である

製品は單に燃料機ばかりでなく、發生爐の取付をも營みこれ又噴々たる好評を博してゐるのである

斯くの如く創設以來、益々好調を呈してゐる所以は、先づ製品の卓越性と効用價値の絶對的である點に在ることは勿論であるが、經營主腦の重役陣容が整然たる堅固を以て築き上げられ、良計善謀の總帥が控へてゐること

も決して忘れてはならぬ  
 何となれば取締役社長の加藤豊治氏は社會的信用厚い有力者であり、氏を中心として重役陣容を構成してゐる横内忠作氏、藤本新之助氏、横内瑞穂氏及び三浦久藏氏等の重役諸氏が何れも同地方に於ける徳望家であり、或は新しい秋田産業界を背負つて起つ新進氣鋭の士であるからである  
 秋田市内各所を初め同縣下の樞要地に特設せる支店頗る多く、本社と常に緊密なる連繫を保つて銃後生産力の擴充に貢献するところ、堪大である



株式 吉井屋自動車販賣部

【所在地】 山形市宮町二〇〇二  
 【電話】 山形 一〇七〇番  
 【營業項目】 一、トヨタ自動車並用品販賣、修理  
 【資本金】 金十九萬九千圓  
 【拂込金】 全額  
 【積立金】 金一千六百五十圓  
 【決算期】 十月  
 【前期配當】 七、二分  
 【現在役員】 取締役社長 鈴木吉助 事務取締役 鈴木修助  
 常務取締役 遠藤榮次郎 取締役 鈴木修吉  
 同 箕浦正雄 同 鈴木吉郎  
 監査役 高橋徳彌

【營業所々在在】 鶴岡營業所 鶴岡市荒町十番地

【沿革一斑】 山形市に於ける産業を語る者ならば、東北一圓に於ける交通機關に甚大なる貢獻をなしつつある株式會社吉井屋自動車販賣部の名をあげざるはなし。

それ程、當社の事業は當地方の交通工業に重大なる使命を帯びて居り、將來への輝しき進展が今から期待せられてゐるのである。運輸報國の聲喧しき現下の時局に鑑み、當社の活躍こそ刮目して俟つべきである。

針 木 吉 助

【生年月日】 明治三十八年十一月二十八日生  
 【出身府縣】 山形縣  
 【原籍】 山形市六日町六九七  
 【現住所】 同上  
 【電話】 山形 七一〇番  
 【學歴】 中學校卒業  
 【現在職業】 一、株式會社吉井屋商店社長 一、山形縣燐寸販賣株式會社社長 一、株式會社山形交通株式會社社長 一、山形縣燃料株式會社社長 一、株式會社山形安全自動車株式會社社長 一、各種商業組合理事長(約十種)

【趣味】 弓道  
 【家庭】 二女、二男  
 【經歷】 山形の事業界を一瞥して吾人の最も矚目する新銳の意氣發刺たる俊英は、何と云つても摠指を先づ本欄の主人公に屈せずには居られまい氏は明治三十八年十一月二十八日山形市六日町に於て呱呱の聲をあげ、土地の中學校を卒へると直に業界の人となつたのである。今や前掲出の如き幾多の有力會社に社長の重責を擔ひ、且又、幾多の商業組合の理事長に推戴せられて、殆んど席の温まる進まないほど活躍してゐるその絶倫の精力と、旺盛なる奮闘精神と該博なる信望は正に驚嘆すべきだ。

宮城縣石油配給株式會社

【所在地】 仙臺市東四番丁五五  
 【電話】 仙臺 三二〇六・二、一一三  
 三、八八九番  
 【營業項目】 一、石油類及び其代用品の賣買  
 一、前號に關聯する事業  
 【資本金】 百萬圓  
 【拂込金】 金五十萬圓  
 【積立金】 金八千二百五十圓  
 【決算期】 三月 九月  
 【前期配當】 年六分  
 【現在役員】 取締役社長 龜井 運 藏  
 專務取締役 安藤 林兵衛  
 取締役 板垣 金造  
 同 高橋 幸市  
 同 菊池 長吉  
 同 岩城 清之助  
 同 目黒 安松  
 同 監査役 三井 善作  
 同 阿部善右衛門

【沿革一斑】 同 伊藤 巨次郎

青葉城下の仙臺は郷土史傳の豊かな東北の大鎮であることは、敢て説明を俟つまでもないところだ。

その奥洲切つての大鎮にも、近代的産業的企業形態の出現は、これも進み行く時代の懇求といふべきであらう。

當社は即ちそれである。元來、石油の需要は時代の進歩と同一歩調を執つて昂まつて行くものであるが、事變より戦争といふ時局の激變に伴れて、石油の需要の増加するのは必然的結果である。斯る時局の波に順應して、眞に産業報國の實踐者となつてゐる當社の使命は、正に時代の寵兒と云つてよい。

資本金一百萬圓(内五十萬圓拂込)を擁して、劈頭に提出した通りの石油類及び其の代用品の賣買と、これ等に關聯する事業

を營み、驚嘆すべき好況を傳へられてゐる所以は、何と云つても事業その物の時局に不可欠なる重要性を有してゐるからであるが、それと同時に、その事業を運営する人物にその人を得たことが主要原因と云はねばならない。

何となれば、取締役社長龜井運藏氏の對社會的信望と、同氏を輔佐して餘すところのない專務取締役安藤林兵衛氏を初め、板垣、高橋、菊池、岩城、目黒、三浦、阿部及び伊藤の諸氏が渾然一體となつて強力な團結をなす重役陣を形成してゐることである。

今や時局は大東亞戦争第二年度に移行して益々勝ち抜く決戦態勢を強化せねばならぬ未曽有の難局に在る現在、東北の大鎮を中心として燃料の太宗たる石油類を取扱つてゐる當社の使命は極めて大なるものがあると云はねばならない。



# 池田 江東 男

【出身地】 瑞濱市  
 【出生】 明治三十九年七月四日  
 【現住所】 東京市世田谷區羽根木町一七四二  
 【現在職業】 日本エタニットパイプ株式會社重役  
 【家庭】 妻ひで子、長男義行

日本エタニットパイプ株式會社の重役として非凡の才幹を遺憾なく發揮し、戦時日本の銚後産業界の爲めに、献身的活躍を展開しつつあるのは、即ち本欄の主人公池田江東男氏である、氏は生來剛毅の氣性の内に、脈々として拍すべき情味を湛へ、頭腦明晰數理に長じた特色を所有してゐる斯界の新鋭である

今日、我が生産界にエタニットパイプの需要大なるは敢て贅言を要しないところであつて、斯業界に氏の如き稀に見る材幹を有することは、洵に力強き極みと云はざるを得ない

續つて現下の戦局を顧るに、緒戦に惨敗を喫した米英は、種勢の挽回に厄鬼となつて狂奔し、或は航空機の製作に、或は艦船の建造に、老なる數字を誇示してゐるが勢ひ長期化する消耗戦に移行するのは免れ難い情勢である、斯る際に、本邦斯業界の爲め氏の如き産報精神の磅礴たる新鋭の一層の活躍に俟つところ甚だ大なるものがある

# 東京既成服小賣商業組合

【所在地】 市内神田區須田町二ノ二五  
 【電話】 浪花 一六四二・五五八三番  
 【現在組合員數及出資口數】 本年度末現在(昭和一七) 三、三  
 (一現在)

一、組合員九七九 一、出資口數七、五〇二

【現在役員】 理事長 高橋貞治、副理事長 柿沼得次郎  
 常務理事 安富善吉、佐藤多十郎、成毛壯夫  
 理事 廣瀬久光、長島辰五郎、奈良福太郎、羽生吉朗、清塚勇、田中啓一郎、杉山三之助、阿由葉龜義、高橋勇造、山本宗太郎、岡部源作、島村吉之輔  
 監事 竹内勇、矢本平藏、小平清次郎、高橋福太郎、布河谷善三郎

【沿革一斑】  
 國民生活の必需品たる戦時衣料の適正なる配給の爲に、その責任を完遂せんとする燃ゆるが如き産報精神と固き決意と護の如き結成を以て、戦時下、既成服の配給を適正ならしめてゐるのは即ち當組合である。大戦が愈々長期化するに伴れて、當組合の使命は益々重きを加へつゝあることは云ふまでもない處であるが、高橋理事長、柿沼副理事長、安富、佐藤、成毛氏等三常務理事の首腦者を初め理事監事諸氏の強固なる堅陣は力強き極みである。

# 富山縣大割ネジ製作所

【所在地】 市内足立區千住末廣町一八  
 【電話】 足立 二一三六番  
 【營業項目】 一、航空機部分品 一、兵器部分品 一、電器、自動車、諸機械用ボルト及リベット  
 【代表者】 大割 豊太郎  
 【生年月日】 明治三十一年三月五日  
 【出生地】 富山市  
 【略歴】

富山縣出身者で帝都に成功して産業界に活躍する新進氣鋭の士は必ずしも尠くない、が然し我が大割ネジ製作所長大割豊太郎氏の如く、眞に自力自成、今日の如き目覚ましい立身發達を収めたのは甚だ稀である、明治三十一年三月五日を以て富山市に呱呱の聲をあげた氏は、郷里に在つて學修を完了すると大志を抱いて上京疾くも志を立て、將來工業界に雄飛せんと斯界に身を投じたのである、生來勤勉にして頭腦明敏なる氏は、瞬く間に斯業の秘訣を體得し技術大に進んだ、依つて大正十五年には逸早く本所區吾妻橋々畔に獨立して大割ネジ製作所を創設、成功の第一歩を踏み出したのである、爾來逐年發展し昭和六年現地に移轉大擴張したのである、現に各所に下請負工場を有し、製品は日立、日産等の大會社に納入好評を博してゐる又自治公共に活躍し現在町會長に推され且つ又大政翼賛會壯年分團長として信望隆々たるものがある

# 日本金網工業組合聯合會

【所在地】 日本橋區兜町一ノ七(角メビル)  
 【電話】 茅場町五〇七四番  
 【設立趣旨】 本會は所屬組合の連絡協調を計り金網の円滑なる配給を期する爲共同施設を爲し併て所屬組合事業の改良發達を圖るを以て目的とす

【設立年月】 昭和十六年四月十日  
 【現在役員】 理事長 薮木由太郎、副理事長 伊藤松太郎、専務理事 吉川重夫、理事 藤泰房男、同 岡田勝次郎、監事 佐野亮英、同 西島卯一

【沿革一斑】  
 昭和十六年四月十日設立認可せられ、同年七月三日改正變更せられ現在に至つたものであつて、本邦金網工業界の大同團結の有る力なる機構として、戦時下、生産力擴充の爲め國家總力戦に寄與するところ甚大である。その組合聯合會結成の範圍は内地一圓とすし、本會の事務所は東京市に置き、左の業者の組合を以て組織してゐる。

第五條 本會は金屬線を材料とする金網の製造又は加工に關する工業組合を以て組織す

而して結成以來、年々強固なる團結と圓滑なる業務の運営を以て所期の目的を達成しつつあり。



# 株式會社滿洲戶田組

【所在地】 滿洲國奉天市大和區、町二九  
 【電話】 (三)二七〇九・四二七六番  
 【營業項目】 土木建築請負業  
 【資本金】 金二百萬圓  
 【拂込金】 金二百萬圓  
 【現在役員】 取締役社長 戶田利兵衛、事務取締役 熊谷恭治  
 【創立年月】 昭和六年十月  
 【出張所々在在】 大連、新京、吉林、哈爾濱、錦縣  
 【沿革一斑】  
 昭和七年三月、東京所在の戶田組出張所として開設せられたのがその權輿である。開設以來、滿洲國は非常なる意氣込みで各種の諸機關が建設せられ、諸官衙の整備と相呼應して民間に於ける諸會社、諸事業は年毎に増設發展したのであるが、これ等官民諸機關の整備の間に在つてその根柢を作りその運営を助成したものは云ふまでもなく土木建築事業である。従つて、これを春秋の筆法を藉りて評するならば、滿洲國の建國を輝やかに育成したものは土木であり建築であると云つても、敢て差支へない。殊に邦人活躍の斯界の貢献した功績は、建國十年の滿洲國を語る場合に、斷じて忘れてはならぬ。昭和十四年十月獨立して滿洲國法人となつたもので、熊谷恭治は戶田社長の義弟、大正十五年東大出身の新進氣鋭の士である。

# 沖上工務店

【所在地】 滿洲國撫順市西十條通九四  
 【電話】 撫順 二九九三・五七八〇番  
 【營業項目】 鑛山用機械  
 【資本金】 金七萬五千圓  
 【工場所在地】 西十條 新撫順鑛物工場 奉天工場  
 【創業年月】 昭和七年  
 營業の本據を撫順に置き、精巧にして性能卓越せる鑛山用の諸機械を製作し、主として滿洲に納入、經營的信賴を蒙つてゐるのは即ちこの沖上工務店である。店主沖上氏は遼寧縣八幡市の人で明治三十年を以て生れ、本年四十有六歳の働き盛りで胸裡に張切つた事業的熱意は、正に烈々たる闘志と燃え沸つてゐる典型的實業家である。夙に雄圖を抱いて渡瀋し、最初、奉天市航空廠に入社して、約一ヶ年間精勵勤務したことがあり、着實勤勉を以て同僚の間に令名を々にして居たのである。然し、生來持つて生れた旺盛なる獨立心は奮然燃頭して獨立の機會を窺望した。  
 果然、昭和七年にその巨機到來したので氏は同職を同滿辭職して工場を開設し、滿洲省屬の工場として信用第一主義を堅持した爲め忽ち大發展を遂げ、今日の成功を收めた立志傳中の白眉である。切に健闘を祈る所以である。

# 滿洲原田商事株式會社

【所在地】 滿洲國奉天市大和區千代田通二〇  
 【電話】 (三)六九一一(四)  
 【營業項目】 一、鐵鋼、機械工具の販賣  
 【資本金】 金一百萬圓  
 【拂込金】 金五十萬圓  
 【前期配當】 年一割  
 【創業年月】 昭和十三年二月  
 【現在役員】 代表取締役 原田啓八郎、事務取締役 原田恵三、常務取締役 大浦徳身、取締役 小川邦雄  
 【支店並出張所】 新京支店、哈爾濱出張所  
 【沿革一斑】  
 滿洲國は日本を親邦と敬稱し、日本は彼の國を善隣として慈しみ一億一心の道義的精神を以て固く結ばれてゐることは、何人も知悉の通りであるが、今次の大東亞戰爭勃發以來、この連繫は益々固く、益々その密度を増して來たことは疑ふべき現象である。これにはその間に在つて經濟的に或は又産業的に兩國不可分の關係を樹立し、力強い紐帯となつてゐる幾多の在滿邦人の事業的功績を決して不問に附する譯には行かぬ。當社は其の顯著なるもの一つで、日本法人原田商事株式會社の奉天、新京、哈爾濱の支店、出張所を分離し昭和十二年創立し、その修理社名に變更したものである。

# 株式會社 滿洲西松組奉天營業所

【所在地】 滿洲國奉天市秋町三〇  
 【電話】 (三)五四五四・四五八三番  
 【營業項目】 土木建築請負  
 【資本金】 金二百萬圓  
 【決算期】 十二月  
 【創業年月】 庚辰七年四月  
 【本所所在地】 新京、牡丹江、虎林、密山  
 【出張所々在在】 吉林、牡丹江、虎林、密山  
 【沿革一斑】  
 西年秋、建國滿十周年の記念すべき祝典を擧げた滿洲國は、十年の歲月といふ時間的觀念を超越した素晴らしい育成振を示したのである。これは一に滿洲國々民の新興の實氣に燃えた學國一致の成果に相違ないが、それと同時に在滿邦人の産業的活躍とその功績とに依らずんば、決して爾く短時日に斯の如き好成绩を獲得出来るものではない。新京に本社を設置する滿洲西松組の如きは、この輝しき滿洲建國十年の間に多大なる貢獻を挙げた功勞者の一人と推すに吝かでないのである。當出張所は東京西松組の出張所として昭和十一年の開設に係はるものであるが、滿洲國法人西松組新京支店の設立に依り、本社も新京支店の出張所となり今日に至つたのである。尙く迄、精勵勤勉、日進一歩となつて來るに邁進する今日、當出張所の負うべき産業的功績は甚が大である。



## 秋元工務所 秋元圭介

- 【生年月日】 明治二十二年七月二十九日
- 【生身府縣】 東京府
- 【原籍】 東京市本所區芝平町八ノ三
- 【現住所】 滿洲國哈爾濱市道裡街三二
- 【電話】 哈爾濱 四五九一番
- 【營業項目】 一、土木建築請負 一、各種工事、製造設計
- 【創業年月】 大正十年
- 【沿革一斑】

隣邦滿洲國は大東西戦争勃發以來、單なる隣邦ではなくなつた率直に云へば日本本土の延長であり、國土保衛の第一線である。この意味から滿洲國を觀察する時に、在滿邦人の分擔すべき役割は平時とは全く異り、根本から覆されて來た。即ち個人主義的な考やその行動、活動は全然清算せられ、何業何職でも國家觀念を基底としなければならぬ。餘るところ國家保衛の二翼である覺悟が第一條件である。秋元圭介氏はその思想といひその事業と云ひ、正にその好個の典型的人物だ。東京本所に生れた氏は兵役に入るや鐵道隊の一兵となりシベリヤのチタに駐し、汎くも大陸の大氣を呼吸して雄圖を養つた。大正十年愈々業界の人たらんと哈爾濱に渡つて直に現業を創始したので、今日まで既に二十餘年の尊い沿革を有し信望、名譽、四隣を賑するものがある。

## 滿洲進和商會

- 【所在地】 新京特別市豊樂路二一〇
- 【營業項目】 一、鐵鋼、銅等各地金 一、各金物 二、土木建築鑛山各用品
- 【資本金】 金二百萬圓
- 【拂込金】 全額
- 【決算期】 三月、九月
- 【前期決算】 年一割
- 【創業年月】 昭和十二年五月
- 【現在役員】 代表者 高田 友吉
- 【支店所在地】 奉天、哈爾濱
- 【工場所在地】 奉天
- 【沿革一斑】

滿洲進和商會は進和商會が滿洲國內に設置してゐた幾多の支店を統合し、これを二丸となして昭和十二年五月、資本金二百萬圓（全額拂込済）の獨立會社として經營したものである。事業は既に基礎を確立し汎く信用を興え付けてある關係上着々進展し好況に次ぐに好況を以てする感天振りに發展したのである。こゝに於て翌十三年六月には倍額に増資を行ひ今日の如き陣容を完備するに至つたもので、奉天工場は内容整然として諸設備を誇るものがあり、又、奉天支店、哈爾濱支店は本社と相呼應して齋報精神に基き目覺しい實績を收めてゐる。

## 八戸製鐵所

- 【所在地】 青森縣八戸市小中野町折本五〇
- 【電話】 八戸 二二四・八八七番
- 【營業項目】 一、特殊鐵鑄製造
- 【現在役員】 所長 工學博士 井口庄之助 尾崎 準
- 【沿革一斑】

世界の二大強國米英を向ふに廻して戦ふ日本、勝ち抜く日本に執つて、何が大切かといふに鐵鑄ほど緊急の需要として大切なものはない。極言すれば鐵鑄即ち彈丸と云つてもいい、この戰爭に缺くべからざる彈丸に齊しい鐵鑄、分けても特殊鐵鑄の製造に全能力を擧げて邁進しつゝあるこの八戸製鐵所は、銃後生産戰場に於ける殊勳甲の功勞者と云つて差支へあるまい。昭和十四年十二月一日の創立に係はるもので、所長には斯界の最高權威たる工學博士井口庄之助氏を勲き、その輔佐役として達識、經營の才ある尾崎準氏を有することは、正に配するに好個の人材を以てせるもので、當製鐵所の隆々たる社運も當然の結果と云はねばならぬ。

大戦は愈々長期となり、漸次、消耗戦の様相を濃厚ならしめて來た今日、當所の分擔する國家的使命は極めて至大至重である。

## 北安建築公司 中村福造

- 【所在地】 滿洲國哈爾濱八區南馬路五五號
- 【生年月日】 明治二十三年八月十四日
- 【出身府縣】 靜岡縣
- 【原籍】 靜岡縣加茂郡
- 【學歷】 豆陽中學校卒業
- 【創業年月】 康徳元年一月二十一日
- 【營業項目】 一、土木建築請負 一、材料製造販賣
- 【資本金】 金一百萬圓
- 【沿革一斑】

靜岡縣加茂郡に於て明治二十三年八月十四日生誕した中村氏は生來の豪放にして毅然たる男性的氣象は、豆陽中學校時代から益々顯著となり、拔群の成績を收めて卒業すると他の學僥は進んで上級學校に學ぶ中に、氏は敢然とこれを廢し男子宜しく大陸に活躍すべしと、少年の胸に鵬志を宿らせながら單身渡滿したのである。時は大正七年十二月、當初哈爾濱の竹内商會に入つて精勵勤務すること多年、大に朋輩中の模範店員と仰がれるに至つた大同三年八月主家を辭して翌九月迅くも獨立して、事業を經營したのである今日まで完成せる代表的大工事は、左の如くである。一、滿洲電燈、電話の工事（建築局の仕事） 一、哈爾濱市公署の工事 一、滿洲拓殖公社の工事



### 合資 正榮ダイガスト工業所

【所在地】 市内品川區大井南濱川一七〇九  
 【電話】 大森 八九五八番  
 【營業項目】 一、ダイガスト製作  
 【現在役員】 代表社員 石澤幸三郎  
 【工場所在地】 市内足立區千住緑町二一  
 【沿革一】

茲數年來に於ける品川區の變貌は、正に瞠目に値するところである。何となれば往年漁村で、東海運最初の宿場であつた品川は、新市域として帝都に編入せられた前後より著しく工業地帯としての職業色を帯びて來たのである。殊に支那事變の直後よりは一段とその色彩を鮮かならしめ、新興工業地帯としての面目を完備するに至つたのである。斯る新興工業地たる品川區に於て、殊に異色を放つもの一つに、石澤幸三郎氏の經營に係はる合資會社正榮ダイガスト工業所がある。初め石澤氏の個人經營として多年經驗を積み、技術の優れたる良質良品と謳はれ、市場に喧傳せられてゐたのであるが、時局に即應する爲め昨十六年に組織を改めて現在の如く合資會社となし、一段と基礎を強化して今日に至つたものである。一家一門を以て組織し、極めて堅實第一主義を以て今日の體價を收めたもので、洋々たる將來を有してゐる。

### 大平農事株式會社大平牧場

【本社所在地】 市内墨町區永田町二ノ五五(大平館ビル内)  
 【電話】 銀座 八六九〇・八六九一・八六九二  
 【牧場所在地】 青森縣八戸市餘町  
 【電話】 八戸 七五一番  
 【牧場創業年月】 昭和十一年  
 【牧場役員】 場長 稻葉秀幸  
 【経歴】

牧場の創立は昭和十一年にして今日まで約七年の沿革を閲し、基礎は益々強固なるものがあり、先年、盛大なる五周年記念の祝賀式を挙げたのである。これは一に親會社たる大平農事株式會社が基礎固く社會的信用が汎く且つ厚い爲めに外ならない。牧場々長稻葉氏は大分縣の出身で、夙に北海道に渡り彼の有名な新冠牧場に勤務すること實に三十一年の久しきに及んだ。この勤續の事實だけに就て考へても如何に氏が實直忠誠の心の持ち主であり、練練に練練を重ねた能技の所有者であるか想像するに難くあるまい。斯る至練の士を迎へた當大平牧場が業績に於て他を壓倒するものあるのは云ふまでもない處であらう。果して氏を場長として迎へた本牧場は俄然活況を呈して來たばかりか、將來に發展する新しい躍進のコースを既に確立することが出來たのである。

### 康德膠皮工廠主 染川謙四郎

【所在地】 奉天市北陵區安民街段三一號  
 【電話】 (二) 四六四六番  
 【營業項目】 一、ゴム靴、地下足袋 一、工業用及び醫料用手袋 一、各種サツク類  
 【資本金】 金百萬圓  
 【拂込金】 全 額  
 【現在役員】 代表社長 染川謙四郎  
 【出身府縣】 廣島縣  
 【創業年月】 昭和九年二月  
 【沿革一】

日本人は海外へ發展する氣象に富んでゐることは周知の通りであるが、就中、その活動區域の廣く且つ遠いのは廣島縣人であると云はれてゐる。本欄の染川謙四郎氏はその特色を存分に發揮してゐる隨一人と云ふに吝かでない。郷里で學校教育を完修すると夙に滿洲國に渡り、堅實なる方針の下に斯業に携つて着々地歩を進めつゝあつたが、愈々、獨立の時機到來して現在の地に堂々たる工廠を構へて創業したのは昭和九年二月であつた。製品の優良にして耐久力に富み日滿兩國人の間に噴々たる好評を博してゐるが、現に氏は滿洲ゴム工業聯合會理事、康德業工廠社長、滿洲再生ゴム工業株式會社常務の重責を帯び台名喧傳せられてゐる。

### 榎村 四郎

【生年月日】 明治二十九年九月二十八日  
 【出身地】 茨城縣多賀郡高萩町大守高萩  
 【現在地】 茨城縣八戸市餘町七一九  
 【電話】 水戸 四三四番  
 【學 歴】 明治大學商科卒業  
 【現在職業】 一、關東食品工業株式會社社長 一、關東住宅株式會社社長 一、關東産業株式會社社長 一、有限會社日立印刷所社長 一、常盤食品工業合名會社社長  
 【名譽職】 水戸市會議員  
 【趣 味】 ゴルフ、繪畫鑑賞  
 【家 庭】 母いせ(七四歳)妻正子(四〇歳)長女榎子(二〇歳)長男定嗣(一八歳)  
 【経 歴】 水戸の實業界を語り、水戸市の市勢自治政を論ずる場合に、斷じて忘れてはならぬ俊材がある。榎村四郎氏が即ち其の人だ。茨城縣高萩に生れた氏は明治大學商科に學び卒業後、當陽銀行に入り業界進出の第一歩を踏み出した。それ以來、年と共に益々活潑なる雄姿をなし現在には前掲列記の通り數社の取締役社長として槍纒自在の敏腕を揮ひ、他業、市會議員として水戸市政に參與しこれ又辭譽するところ頗る甚大である。老母堂を中心にして正子令夫人又内助の功高く長女榎子嬢は東京MCA女子部を卒業した才媛、長男定嗣君は水戸中學校に在學中の秀才である。



# 小林 知平

〔生年月日〕 明治六年八月  
 〔出身府縣〕 山梨縣  
 〔原籍〕 山梨縣東山梨郡鹽山町  
 上於會二〇三〇  
 〔現住地〕 盛岡市下 川字平ヶ九  
 〔電話〕 盛岡 四四五番  
 〔公務、名譽職〕

- 一、日本土木建築工具組合聯合會理事
- 一、岩手縣土木建築工業組合理事長
- 一、株式會社新岩手社取締役
- 一、岩手縣木材株式會社取締役
- 一、盛岡市商工會議所議員
- 一、岩手縣義務轉國會議事長

〔經歷〕  
 岩手縣下の土木建築界を談ずる者ならば何人も先づ提指を屈する信望家がある。本稿の主人公小林知平氏が即ち其の人だ。山梨縣に於て明治六年八月生れたといふから來年は正に古柳の高齡であるが、老來益々精力旺盛で文字通り鑄造として壯者を

凌ぐ有様である。夙に土木建築界の人となり、凡ゆる苦楚を嘗めて修業に修業を重ね、盛岡市に移つてからは東斯界の雄鷹組の一翼として活躍すること二十有五年の久しきに及んだ。盛岡の鹿島組をして今日の隆盛を來たし、業務東西に伸展する威風を呈せしめたのは實に氏の努力と手腕とに依るものと云はねばならぬ。

昨年遂に事實上獨立名儀となし益々時下斯界の重大使命を達成せんと渾身の赤誠を傾けて挺身してゐる。

今、その代表的事業たる岩手縣土木建築工業組合の陣容を掲ぐれば左の通りである。

- 岩手縣土木建築工業組合
- 理事長 小林 知平
  - 理事 塚澤 虎五郎

- 同 榎内 吉兵衛
- 同 小 山 永 八
- 同 小 山 繁 造
- 同 小 山 清 治
- 同 田 中 政 吉
- 同 藥 池 彌 右 衛 門
- 同 瀧 田 金 太 郎
- 同 小 原 福 治
- 同 工 藤 仁 太 郎
- 同 工 藤 定 治
- 同 佐 々 木 哲
- 同 鈴 木 儀 三 郎
- 同 監 事 高 橋 清 司
- 同 佐 藤 勝 三 郎
- 同 吉 田 他 人

以上の諸氏は孰れも同縣下に於ける斯界の權威者のみで、その理事長に推されてゐる小林知平氏の人望と信頼とは推して知るべきであらう。

昭和十七年七月十日現在の組合員總數は三四三名に達し、その出資總額は實に十一萬九千圓の巨額に達してゐる。斯る多數の組合員と巨額の資金とを統率運営して今名噴々たる小林理事長の貫録こそ驚嘆に値する。

# 協和オフセット印刷株式會社

〔所在地〕 奉天市大和區信濃町二三號  
 〔電話〕 (三)五四三五・七九五八番  
 〔創業年月〕 昭和十一年八月  
 〔資本金〕 金四十八萬圓  
 〔營業項目〕 一、オフセット印刷  
 〔出張所々所在地〕 大連、新京、哈爾濱  
 〔沿革一斑〕

社名として冠せるに「協和」なる二字を特に擇定せしところは流石に文化的營業たるオフセット印刷業を営むたけあると云はねばならぬが、更らにその卓越せる精緻巧妙の技術を見るに及んで一種その感を深らせざるを得ない。

何となれば「協和」の二字は滿洲國に在つては不可欠の文字であつて、この社名の眞意が全社を一貫してゐる融和と渾一とを裏記するものである。

昭和九年二月、合資組織を以て創業せるもので、その後、事業の發展するに伴れて組織を改め資本金二十萬圓の株式會社に擴張したのである。

然るに五年後の同十四年に至り東京の共同印刷との提携に依り資本金を一擧に四十八萬圓に大増加を決定し今日見るが如き牢固たる社礎を築くに至つたものである。技術の優秀にして優雅鮮麗藝術的なる點では内地斯界でも多くその匹敵するものを知らない。

# 興亞印刷株式會社

〔所在地〕 奉天市錦西區嘉平街三號  
 〔電話〕 (三)八〇一一番  
 〔創立年月〕 昭和十年五月  
 〔資本金〕 金五十萬圓  
 〔營業項目〕 一、印刷一般  
 〔支店所在地〕 新京

印刷は文化の尖兵であり、思想の前衛であるから、その巧拙良否に就て見ればその國の文化の深淺、高低が直ちに判斷を下すことが出来ること云ひ得る。

故に滿洲國の如き新大陸の黎明を告げてゐる新興の國家を育成するものは、何より印刷がその先行を承はるべきは、文化進展の過程として必然的徑路である。

斯る見地からして考察すれば、當社の存在は滿洲國發展に擔ふべき文化的使命は極めて重且つ大なるものがあると云はねばならない。

昭和九年六月、奉天公署印刷局を買収して創立したものであるから、基礎の堅牢、信用の深厚なることは言を俟たない。當初は匿名組合であつたが、翌十年五月に至り株式會社に改組したものである。次で同十三年には滿洲國の新實社法に準據し社名をも亦現在の如く興亞印刷株式會社と改めたのである。

尙ほその翌十四年には現在の地に工場を新築落成を告げたので移轉と同時に、益々新時代の慾求に應ずる印刷文化の向上と發達とに寄與するところ甚大である。



# 堀 又 洋 行

# 鈴 木 計 男

【所在地】 奉天市大和區加茂町二五號  
 【電話】 (二一)二七七七番  
 【創立年月】 昭和十二年八月  
 【資本金】 金三十萬圓  
 【營業項目】 一、帽子並にフェルトの製造販賣  
 【工場所在地】 奉天市內鏡西區嘉士街一段  
 【共同出資者】 滋賀 近江製帽株式會社 兵庫 堀拔帽子製造所 大阪 株式會社百又 同 渡邊合名會社

### 【沿革一斑】

帽子は單なる裝身具ではない。衛生と美觀を兼ねてゐることは勿論であるが、それと同時に國民性を物語り、一種の國裝具として缺くべからざる必需品である。新興國家の息吹きに颯爽として元氣の滿ち溢るゝ國歩を踏み出してゐる滿洲國に於ては、帽子の需要は内地の想像以上である。これに應ずべく設立せられたものは即ち同社であつて、昭和十二年八月の創立に係はるもので當初は資本金十萬圓であつたが、二年後の同十四年に至つて一舉に三十萬圓に増加したるものである。

製品は材料の優良と耐久性に富み、技術の雅美にして時代粧に最も適しき新型を創案して時好に投ずるところは、流石に經營者關者の達見と云はねばならぬ。

【出生年月】 明治三十年  
 【出身府縣】 岐阜縣  
 【營業所々地】 奉天市大和區加茂町六號  
 【電話】 (二一)四一五二・一〇五〇・一五三三番  
 【創業年月】 昭和八年一月  
 【營業項目】 一、タイル衛生陶器販賣  
 【出張所々地】 鞍山、錦州  
 【沿革一斑】  
 由來、岐阜縣人は進取の氣象に富み、海外雄飛の願圖を懷く者が甚だ鮮くないと云はれてゐる。

この人文記者の言を裏記する事實は、幾多の例證に求めることが可能であるが、然に平生の奮闘記を叙せんとする鈴木計男氏の如きは、最もその色彩の鮮やかなる一人と云はねばなるまい。明治三十年に呱呱第一聲をあげた氏は、郷里で學修を卒へると内地で早くも實業界の人となつたが、男子宜しく大陸に雄飛すべしとの決意を担いて昭和七年渡滿し、奉天の中村陶器店に勤務した。精勵すること僅に一年にして獨立の機會を博得し、現在の地に店舗を經營して現在に至れるものである。將來の發展今より刮目して俟つべきである。

# 八 戸 市 役 所

# 加 茂 製 作 所 田 口 謙 一

【所在地】 八戸市  
 【現在職員】 市長 神田 重雄  
 助役 齋藤 悟郎  
 収入役 石橋 宇吉

### 【現況概要】

東北六縣には幾多の樞要都市が在り、各々その特色を發揮してゐるが、最も鮮かにその特色を發揮してゐるのは即ちこの八戸市であると云はねばならぬ。何となれば漁業地として發展し、旁々工業地としても侮り難い實績を擧げてゐる。先づ如何にして要を得る爲め、當市の概要を項目として列記すれば左の如くである。

### 市 勢 概 要

- 一、漁業頗る殷盛を極め、他府縣よりの船舶の出入港數多く販賣高に於ては日本一と云はれてゐる
- 一、工業都市としても近年益々發達し職時下生産力擴充に力強き一翼をなしてゐる
- 一、事變前より町内會の組織が整備し、模範的との定評を擧げてゐる
- 一、生活必需品其他配給組織確立しこれ又模範的と云はれてゐる
- 一、これ皆々現市長神田重雄氏の時局認識と手腕とに依るもので、氏は三期に亘つて就任し、漁家として信望絶大である

【生年月日】 明治四十二年十月三十一日  
 【出身府縣】 秋田縣  
 【原 籍】 秋田縣仙北郡畑屋村  
 【營業所】 奉天市加茂町十三番地  
 【電 話】 (二一)一〇九七・二七七二番  
 【營業項目】 一、度量衡器、計量器 一、軍需用品、鐵道用品  
 品 一、航空用品、測繪機械 一、製圖機械  
 氣象機械 一、理化風光學硝子器、理化標本  
 一、金庫書庫、各種水平定規 一、光學器修理  
 學用品 其他各種  
 【工場所在地】 工場、瀋陽區一德衛三  
 出張所、新京、通化  
 【學 歴】 中學校二學年修業  
 【經 歴】 秋田縣出身で大陸に雄飛してゐる新興の人材は尠くないが、この加茂製作所主田口謙一氏の如きは甚だ稀である。郷里の學校を卒へると昭和七年五月關東軍野戰兵器廠に入所し技術の練磨に努めたが、生來の剛毅剛明なる氏は目覺しい進境を示し廠内の模範と仰がれるに至つた。

越えて昭和十五年十二月一日現在の加茂製作所を獨力を以て經營し今日の隆盛を招來するに至つたのである。



## 奉天第一商工金融合作社

【所在地】 奉天市大和區平安通四號  
【電話】 (三) 四二〇二・七六八二・五七八四・六九六八番  
【支社所在地】 大和區十間町 蘇家街昭和通 鐵西區  
【營業項目】 一、庶民金融  
【創業年月】 康徳七年四月  
【沿革一斑】

昭和三年十一月設立せられたる奉天金融組合の後身であつて、  
康徳七年四月、滿洲國政府經濟部の監督下に置かれ、勅令を以て  
都市金融合作社に改組せられたものである  
現在、營業してゐる金融の規定は左の通りである

- 一、個人貸付 最高額二萬圓
- 一、團體貸付
- 一、滿洲國各地都市間の爲營業務

以上の如きもので、何れもその利用者に對して利便を與へ好成績を收めてゐるのであるから、その設立の趣旨は着々として實績を擧げつゝあると云はねばならない

今や大東亞戰爭勃發以來滿一周年を経過したが、その間に於ける我が皇軍の赫赫たる戦果は全く全世界を震撼せしめてゐるのである、この時、皇軍の基地であり大陸防衛の第一線である奉天金融界に於ける當社の活躍こそ重大實務を帯ぶるものと云はざるを得ない

## 株式會社 滿洲間組

【所在地】 奉天市勸業區協和街五段第三八號ノ一  
【電話】 (二) 五八六五・五八六七番  
【創業年月】 康徳七年九月  
【資本金】 金二百萬圓  
【營業項目】 一、土木建築請負  
【沿革一斑】

本邦に於ける土木建築界の現勢に就て觀察するに、株式會社間組の地位とその眞價とは苟くも斯界に對して一隻眼を有するほどの者ならば、何人も推賞措かざるところだ  
斯る内地に於ける有力なる背景の下に在つて、新興大陸の土木建築界に潑刺たる業務を張つてゐるのは即ち當社である

抑も當社は、東京市赤坂區青山南町に本據を置く株式會社間組の子會社として創設せられたものである

昭和十五年二月、滿洲支店となつたものであるが、その後、全滿洲支店、出張所を綜合一括して總べてを統合し、愈々、本社より分離獨立したのが即ち當社である

斯る過去の経路を辿つて發展し來つたものであるが、大東亞戰爭勃發以來、滿洲國は我が日本の前衛基地として政治的にも軍事的にも將又産業的にも益々重大性を帯びて來た、こゝに於て當社の果たすべき使命は一段と昂められ、一段と深められて來たことは多く説明する迄もない。切にその發展を冀ふ所以である

## 前川 萬治郎

【出生年月】 明治二十四年四月六日  
【出身府縣】 東京市日本橋區富澤町  
【事務所】 日本橋區兜町二ノ三七  
前川計理士事務所、前川稅務代理事務所千代田橋事務所  
(電話 茅場町 七〇五六番)

小石川區大塚窪町三八前川計理士事務所  
(電話大塚五五八七番)  
日本橋區通二ノ二、東京會計事務所  
(電話日本橋二九五七番)

【住 所】 日本橋區富澤町八 (電話浪花八四八番)  
【學 歴】 東京高商卒、從七位、陸軍主計中尉  
【職 業】 計理士、稅務代理士、前川商店、前川機械貿易、  
鉄父自動車各社長其他  
【公 職】 東京市會議員、日本橋區會議員、帝國在郷軍人會  
東京師管聯合支部監事、同東京支部參事其他在郷  
團關係各種、大日本婦人會日本橋支部監事其他

【經 歴】  
學習院初等科及中等科に學び長き邊より、賜品拜受の光榮を擔ふはと秀才、東京高商に進學卒業後軍隊に奉公、その後嚴父前川太兵衛氏の家業たる織物卸業に従事したが、昭和三年計理士事務を開始小石川區大塚窪町三八に前川計理士事務所を開設今日に至る。現在主たる事務所を日本橋區兜町二ノ二七に置き稅務代理士の認可を受け絶對的信望を博してゐる。

## 奉天第一商工金融合作社

【所在地】 奉天市瀋陽區一心街三段  
【電話】 奉天 三四三九・二七六三番  
【營業項目】 一、庶民金融 一、爲營業務  
【創立年月】 康徳七年四月  
【現在役員】 取締役社長 喬盡郷 理事 山内恒信  
【沿革一斑】

日滿兩國の關係は二にして一、一にして二といふ不可分の盟邦であり一徳一心の間柄である。

この確乎不拔なる兩國の關係は、政治の面に於ても、國防軍事の面に於ても、更らに又産業、生産の面に於ても、それを助成する唯一の源泉たる金融關係の面に於ても何れの點からしても強調せられねばならぬのである。

この意味からして當社の事業は國家的意義と使命とを有するものであつて、日滿兩國の經濟的發展の爲めに寄與するところ甚大なるは云ふまでもない。

時局益々深刻化し、大戦は著しく消耗戰の様相を呈して來た現段階に照らせば、滿洲國に於ける金融事業の分擔すべき國家的使命は愈々重大化したといふべきである。



# 滿洲大倉土木株式會社

【所在地】 滿洲國奉天市大和區浪速通  
四六

【電話】 (代表) 二、三五二一  
【資本金】 金一千萬圓

【營業項目】 一、土木建築

【出張所々在地】 全滿洲國の樞要都市

【創立年月】 康徳六年九月

本邦に於ける土木建築界の王者と謳はれるのは大倉組であることは萬人の認むる處であるが、その縦横無礙なる事業的威力を新大陸たる滿洲國に伸張せしめてゐるのが即ちこの滿洲大倉土木株式會社である。

抑も當社は日本に於ける大倉組の土木建築事業を漸次滿洲國各地に發展擴張せしめる爲め、各樞要地に支店並びに出張所を設置して盛んに營業を經營しつゝあつたが、滿洲國の建國事業が濶刺として行進して行くのと相呼應して、各支店、出張所の營業が夥しく激増した爲め、これを統一整理することが大局から觀察して有利であり國家

的要望に應へる所以であるので、これが綜合化を企畫したのである。

即ち康徳六年九月、叙上の如く大陸各地に散在せる支店並びに出張所を統合一括して、滿洲國法人組織に改正し、現在の如き稱號を以て新生の大倉社たらしめたのである。

資本金は前掲の如く金一千萬圓の巨資を擁し、諸機關の整備は一として缺くるところなく整然として完璧を誇つてゐる。

これを要するに、建設途上に在る滿洲國に於ける土木建築は、その事自身の使命であるばかりでなく滿洲國の成生發展に寄與するところ實に尠くないのである。

故にこの滿洲大倉土木株式會社の使命は、多角性であり複雑性を帯びてゐるものと云はざるを得ない。

嗣つて創立以來今日までの營業成績を點檢するに、所期以上の好況を呈してゐるこ

とは種々の條件に恵まれてゐるに相違ないが究極の重點は經營首腦者の洞見と事業計畫の雄渾にして卓越せる一事である。

即ち經營首腦者たる重役諸氏は、先づ第一に私利私念を第二義的に置き、何よりも重點を國家の大局に置いてゐることである。といふのは我國と滿洲國とが緊密不可分の關係に在ることを念頭に置いて、同國を健全なる發展に導入することは取りも直さず我が日本の國力増強に資する所以であるとの觀點に立脚してゐることである。

昨年を以て滿洲國は建國十年を閲みし、早くも確固不動の國礎を大陸へ築き上げたのである。

この驚嘆すべき事實は、政治的にも軍事的にも或は又産業的にも有ゆる觀點から論議せられるけれども、その中でも産業的の條件に依ることは決して尠くないのである。

この意味で當社の使命の重大性は一層倍加せられものと云つてよい。

# 日本マグネシウム株式會社

【所在地】 市内板橋區志村長後町

二二二二

【電話】 赤羽 三〇五一・三〇五二番

【營業項目】

一、金屬マグネシウム製産

【資本金】 八百萬圓

【決算期】 五月 十一月

【現在役員】

取締役社長 高津 啓一

専務取締役 池尾 與一

取締役 大石 直次良

同 田中 弘

同 後藤 登喜男

同 齋藤 武五郎

同 監査役 齋藤 武五郎

同 市川 匡

【工場所在地】

東京工場 板橋區志村長後町二二二二

富山工場 富山縣上新川郡大澤曲町

【礦區所在地】 滿洲國大石橋

【沿革一斑】

戦争と金屬との關係の密接不可分であることは多く説明を俟つまでもなく分明してゐる通りであるが、就中、金屬マグネシウムの必要性はこれぞ絶對的である。

斯る戦ふ日本に執つて不可缺の金屬マグネシウムの生産に物心両面から全社の總力を傾投して、着々と國家の要求に應へつゝあるものは、當欄の日本マグネシウム株式會社と云はねばならない。

全額拂込済みの資本金八百萬圓といふ巨資を擁し、礦區を遠く滿洲國の大石橋に所有稼行してゐる當社は、諸設備が完全で寸毫も間然するところを知らない完璧振を誇つてゐるのである。

而して滿洲國より移入した礫石を精鍊施工する工場は、中央たる東京工場は本社所在地に隣接設置し、又、地方に於ては富山縣上新川郡大澤曲町を特に擇定してこれに富山工場を設置してゐるのである。

叙上の二大工場はお互に連絡を密にして絶えず相呼應して、生産能力の増強に萬全の努力を拂つてゐるのである。

従つて營業成績の良好なることは云ふまでもなく、着々として發展の一途を邁進しつゝある盛観は正に瞠目に値ひする。

これは主として社長高津啓一氏並びに専務取締役池尾與一氏を中心として大石、田中、後藤、齋藤、及び市川氏等の重役諸氏が相協力して産報精神の實踐に最善の努力を拂つてゐることに起因することは勿論であるが、又他には礫質が天恵的な良好を示してゐること、も決して忽諸に附してはならぬ。

論ずるに當社の隆盛と將來への洋々たる發展性は、人と事業との渾融一致してゐること、とが重大なる條件となつてゐるのである。

現下の持久戦に對處する餘後産業の擴充の爲め、特にその發展に期待せざるを得ない。



# 小笠原文三

〔生年月日〕 明治三十年七月十四日  
 〔出身府縣〕 東京市  
 〔原籍〕 仙臺市東七番丁三〇  
 〔現住地〕 仙臺市東七番丁三〇  
 〔電話〕 仙臺 二六八四番  
 〔工部部所在地〕 仙臺市東七番丁一五七（電話仙臺一三三三番）  
 〔現在職業〕 電氣工事  
 〔公職〕 宮城縣電氣工事工業組合理事長  
 〔家庭〕 妻ふで、長男正一、次男二郎、次女けい  
 〔經歷〕

青葉城下の仙臺に於ける電氣事業を語る場合に、是非、見逃がしてはならぬ俊英の士がある、本欄の主人小笠原文三氏が其の人である。生れは東京市の人で、芝區白金臺町二丁目五十七番地に於て産湯を使つた生群の芝ッ兒である、學業を完修すると、夙に斯界の人として活躍を展開したもので、當初、若尾電氣株式會社に勤務し、稀に見る精勵振りと、非凡なる敏腕とを以て大に名を轟かされた、然し獨立心の旺盛な氏は永く他の支配下に唯々諾々としてゐることを以て快しとしないかつたのは云ふ迄もない、その後敢然獨立して現業を創始したものであつて、土地に於ける信望は頗る厚く現に宮城縣電氣工事工業組合より推されて理事長の重責を帯び、専ら統後の産業報國の爲め挺身し功勞顯著である、因にふで夫人は内助の功多く令嗣正一君（二一）は現に海軍機關學校在學中の秀才である。

# 合資 明治商會

〔所在地〕 京内芝區田村町二ノ四  
 〔電話〕 銀座 四〇九三・六六一〇番  
 〔營業項目〕 一、自動車及該機械部分品  
 〔資本金〕 金十萬圓  
 〔拂込金〕 全額  
 〔積立金〕 金一萬圓  
 〔決算期〕 十一月  
 〔現在役員〕 無限責任社員 島村定義 同 松力男  
 〔創業年月〕 昭和八年  
 〔沿革一斑〕

譬へば一國の力強さは、それを構成する個人々々の力強さを必要とする、眞に力強き國家は力強き個人の集團であり凝結でなければならぬ、即ち斯くの如き個人の集團統合に於て初めて成立するのである、機械の性能に於てもそれと同一である、部分品が各々優秀なる技術が施され、性能が吟味せられて初めて一個の卓越した機械の出現を見ることが出来るのである。斯ういふ前提の下にこの明治商會の事業を検討するならば、自動車を始め該機械の部分品を製作して他社などの模倣を容さない優秀なる製品を取扱つてゐるのは、大に高く評價せられるべきで現に都下斯界に噴々たる好評を博する所以はこゝに在ると頷かれるのである、何よりも創業以來十年の尊い經驗と信用とが光つてゐる。

# 石油聯合株式會社

〔所在地〕 市内京橋區銀座西五ノ二  
 〔電話〕 銀座 七九七一・七九七二・七九七七・七九七八番  
 〔創立年月日〕 昭和十一年三月  
 〔營業項目〕 一、石油の賣買並に之に附帶する業務  
 〔資本金〕 金七百五十萬圓  
 〔拂込金〕 全額  
 〔決算期〕 三月 九月  
 〔前期配當〕 年六分  
 〔現在役員〕 取締役會長 橋本圭三郎 取締役社長 矢島富造  
 常務取締役 大關龍雄 同 宇山光二郎  
 取締役 小倉房藏 同 水田政吉 同 木村義雄  
 同 竹内俊一 同 千葉三郎 同 松村善藏  
 同 石澤善重郎 同 小柳牧衛  
 監査役 堀江平重郎

〔支店、出張所其他〕  
 支店 上 海  
 出張所 天津、廣東、海口  
 事務所 北京、青島、南京、漢口、三亞、西戶崎、長崎、臺北、文坪、大連、營口、嘉積  
 油槽所 天津新河、青島昌樂路、上海高橋、南京浦口、漢口黃鰲洲、廣東河南、海南島榆林、武豊、營口

# 東北配電株式會社 昌電社 古山丑松

〔生年月日〕 明治二十八年六月十五日  
 〔現住所〕 盛岡市大通り二丁目四  
 〔電話〕 盛岡 五七四番  
 〔出張所〕 宮古市幾久屋町二丁目（電話宮古四一四番）  
 〔趣味〕 大弓、寫眞  
 〔家庭〕 夫人キエ 長女榮子 次女愛子  
 〔經歷〕

遊信局公認といふ誇るべき榮譽を擔つてゐることが、この昌電社の最も特色であつて、東北方面では實際に見るところである。この特權は即ち古山 松氏の信望と人格美の反映といふべく、他に匹敵すべきものがないのである、現在、東北配電株式會社の工事委託店として絶對的信用を博してゐるが、これは決して近年のことではなく同社が盛岡電氣工業株式會社時代より盛岡電燈となり更に奥羽電燈と變更せられても終始一貫委託店として指定せられ來つた事實に照らしても、古山氏の信望の厚きこと、氏の營業的手腕に對する信賴の程が窺知せられると思ふのである。名實共に土地切つての斯界の第一人者であつて、併かも産報精神の磅礴たることを正に他の追隨を容さぬ處だ。令園キエ夫人（三十六歳）は内助の功多く長女榮女嬢（一七歳）次女愛子嬢（一六歳）の二令嬢あり和氣瀟々たる良家庭である。



## 阪東工業所 鈴木郁哉

- 【生年月日】 明治三十一年六月六日
- 【出身府縣】 群馬縣
- 【原籍】 群馬縣新田郡生品村
- 【現在地】 市内蒲田區矢口町三三
- 【學歷】 群馬縣立太田中學校卒業
- 【營業所々在在】 市内芝區田村町二ノ一七
- 【電話】 銀座 六九九六番
- 【工場所在地】 第一工場 市内目黒區中根町八五  
第二工場 市内芝區田村町三ノ二
- 【營業項目】 一、航空機用計器各種  
二、熱電式高度計各種  
三、以上附屬品一式

### 【經歷】

群馬縣は帝都に隣接してゐる丈に、帝都の槍舞臺で活躍する人物は頗る夥しい數に上つてゐる。その夥しい人材の中でも異彩を放つてゐる者の中に、木欄の鈴木郁哉氏の名をあげざるを得ない。群馬縣新田郡生品村に於て明治三十一年六月六日を以て生れた氏は、郷里に於て學修を完了すると夙に上京して北辰電機製作所に勤務、爾來、十五年の長年月に亘つて精勵して技術の練磨に精進し遂に材料課長に拔擢せられ社の内外に令名を馳せた。昭和十四年十月六日愈々獨立して今日の盛人を招來したもので正に立志傳中の一人たる資格充分である。

## 日本絹網工業組合

- 【所在地】 市内京橋區京橋三ノ二
- 【電話】 京橋 五六四五番
- 【事業項目】 一、絹網工業の發展と同業の統制を圖るを以て趣旨とする
- 【現在役員】 専務理事 菅原 章 理事 外村專五郎  
同 横井榮太郎 同 野口 榮 同 山本重次郎  
同 村川常吉 監事 市川萬太郎 監事 奥村豊治  
統制委員 伊藤増治郎 同 黒木宗三郎 同 都  
築鐵治郎 同 石原務 同 山田直一

### 【沿革一斑】

昭和十五年の創立に係はるもので、全日本に於ける絹網工業の統制を圖り戦時日本の産業力を整備増強せんとする趣旨の下に結成せられたものである。創立以來僅々二年餘に過ぎないに拘らず、事業の運営上に驚くべき夥しい実績を擧げてゐる。これは全く専務理事菅原章氏を初め外村、横井、野口、山本、村川諸氏の理事と市川及び奥村兩氏の監事、その他五人の統制委員諸氏の献身的奮闘精神の賜である。

## 岩手縣石炭株式會社

- 【所在地】 盛岡市仁王第四地割字大澤川原小路九八
- 【電話】 盛岡 一〇三七番
- 【資本金】 金十二萬圓
- 【拂込金】 全額
- 【現在役員】 取締役社長 帷子 康三  
常務取締役 佐々木 精二 同 高橋堅造  
取締役 關根豊太郎 同 八重樫 億平  
監査役 岩井 眞二 同 芳賀 亮三

### 【沿革一斑】

東北六縣中の雄縣たる岩手縣下に在つて、組織力の強固と經營の堅實と、豊かなる將來性とを以て異彩を放つものは即ちこの岩手縣石炭株式會社である。

昭和十六年八月に創立せられたるもので、國策の線に沿うて統制會社の使命を帯びて誕生したのである。翌十七年四月一日に至り社名と組織とを變更して現在に至つたものであるが、これが組織構成の内容を検討するに、縣内二十名、縣外三十名を以て組織せられ、これを又資本の分布上から見ればその過半数は縣内の提供に依つて構成せられてゐる。

今や大戦は愈々持久戦の段階に入つた、持久戦には統後の生産力を是非増強せねばならぬが、當社の活躍に期待する所以も茲に在るのである。

## 東方電機工業株式會社

- 【所在地】 市内大森區大森二ノ一五三
- 【電話】 大森 八〇七九番
- 【營業項目】 一、無線通信機器用部品  
二、無線受信機、放送受信機、放聲裝置
- 【資本金】 金七萬圓
- 【拂込金】 金三萬二千五百圓
- 【決算期】 五月、十一月
- 【現在役員】 代表取締役 西川 儀市  
【工場所在地】 新工場 川崎市神前町二ノ一五  
(電話川崎二四三八番)  
【西川社長公職】  
一、東京無線通信機器工業組合理事  
二、東京電氣機器加工修理工業組合常務理事

### 【沿革一斑】

現代は無線時代である。戦ふ世界は武器と武器の戦争であると同時に、無線と無線の戦争とも云ひ得る。爾く無線は戦争と不可分であり、その威力は戦争の成敗に決定を與へるものである。當社の代表取締役西川儀市氏が、渾身の精力を斯業に打込んでゐる所以は、實に斯る國家的大使命を念頭に置き、その使命を達成して國に奉公せんとする産界精神に基くものである。大正二年の出生、東京物理學校高等師範科卒業の一人材と云はねばならぬ。



# 東洋經濟新報社

【所在地】 市内日本橋區本石町三ノ二

【電話】 日本橋(代表) 自八三一 至八三三

【創業年月】 明治二十八年

【營業項目】

- 一、週刊『東洋經濟新報』オリエンタル・エコノミスト、統計月報
- 一、其他定期刊行物十三種の刊行
- 一、書籍出版
- 一、印刷事業
- 【資本金】 金三十萬圓
- 【拂込金】 全額
- 【決算期】 四月 十月
- 【現在役員】

社長 石橋 湛山  
 常務取締役 宮川 三郎  
 同 山田 秀雄  
 取締役 佐藤 伊兵衛  
 編輯局長 野澤 義朗  
 監査役 野澤 義朗

同 大野 鶴太郎

【支局、其他所在地】

- 關西 支局 (大阪市北區堂ヶ島)
- 神戸 支局 (神戸市神戶區京町通)
- 京都 支局 (京都市四條通柳馬場)
- 名古屋 支局 (名古屋市中區榮町通)
- 九州 支局 (福岡市片土居町)
- 京城 支店 (京城府明治町)
- 小倉 支局 (小倉市)
- 高松 支局 (高松市)
- 横濱 支局 (横濱市)
- 岡山出張所 (岡山市)
- 神田營業所 (市内神田區須田町二丁目)

【沿革一斑】

出版日本の刊行雑誌は玉石混濁殆んど數ふる煩に堪へない、然し眞に良心的に編輯し、眞に良心的に賣捌いて讀者の心の糧となるものは甚だ貧困である、その貧困の中の星の如き存在は我が『東洋經濟新報』である

明治二十八年の創立といふことから既に歴史的價値充分である、今日まで約五十年に垂々たる誌齡を有してゐる、人間に營ふれば思慮分別もあり、經驗も積み、洞察力も豊かな年紀に達してゐるので、毎號の編輯振りの垢抜けした手跡は流石に他の追隨を容さぬ鮮かさである

こゝで聊か過去を回顧する、初代の社長には町田忠治氏の名が擧げられてゐるのは明治文化史上に燦と輝くであらう、次で天野爲之氏、植松孝昭氏、三浦鐵太郎氏を経て現在の石橋湛山氏に及んでゐる

石橋社長は且大出身の異色ある才幹、夙に同社に入社して編輯に携はり獨得の識見を以て新機軸を創案し大に斯界を驚嘆せしめた、三浦前社長の後を襲つて社長の椅子を占めたことは當然のところである

昭和六年經濟俱樂部を創立し全國三十三都市に在るが氏はその中央會幹事長に推され信望を一身に吸集してゐる、現下の職ふ日本の代表的經濟雜誌たる矜持と使命とを自覺して、切に發展を希望して己まな

# 仁田工務店

【所在地】 仙臺市大町三丁目一五三

【電話】 仙臺 一三四・三三七二番

【營業項目】 土木建築設計、監督、請負一式

【個人資本金】 金五十萬圓

【決算期】 十二月末日

【現在役員】 店主 仁田 耕一  
 支配人 藤倉美彌次

【出張所々在り】

盛岡出張所 盛岡市木仗九十一番地 (電話盛岡九六六番)

主任 仁田 德藏

青森出張所 青森市安方町九十一番地 (電話青森三四七〇番)

主任 中山 治三郎

【沿革一斑】

先代仁田寅藏氏が明治四十五年に創業した由緒あり閑歴あり信用ある東北切つての土木建築業者であつて、信望甚甚、業務隆

々四隣を壓するの概があるのである、創業の主たる先代寅藏氏が昭和十二年に病歿せる爲め嗣子仁田耕一氏が家督を相続して店主となり、先代の遺業を繼承し益々大發展を遂げ、現下戦時日本の國防土木建築界の爲めに全店員を擧げて職域奉公に一路邁進してゐる

現在では中央の各本省を初め地方官廳等を主として大工事を請負ひ、年額約百五十萬圓の巨額に達する事業を營み絶對的信用を博してゐる

同店の支配人藤倉美彌次氏は栃木縣の人で明治三十一年六月五日を以て同縣安藤郡飛田村に生れ、早稲田大學商學部に學び大正十二年抜群の成績を収めて卒業した、然るに攻心心の旺盛なる氏は尙ほ母校の理工學部の校外生となつて専心斯學の研修に没頭する二年有餘に及んだ

學業全く完修するに及んで仙臺市の仁田

工務店より招聘せられ同店に入つて支配人となつたのは昭和三年であつた

それ以來、時の店主先代寅藏氏の信用を受けて能く店務の運営に精勵し、一身一命を捧げて殆んど私事を顧みざるほど忠勤を挿込んだのである

爲めに店主より益々信頼重用せられ、店務一切を獨りで切廻して店運の進展に功勞頗る顯著なるものがあつたのである、然るに昭和十二年先代の歿後當主が店務總轄の衝に當るに及んで、氏は益々重用せられ仁田工務店の藤倉として同地方の斯界は勿論、關係ある中央官廳に於てもその令名を誦はれ綱太なる信用を博してゐる

現在、仙臺市精部丁十二番地(電話仙臺三三七二番)に居住し、令夫人との間一男五女をあげ一家團樂の和やかなる良家庭を營んでゐる、氏は撞球は百五十點以上、マ將棋は二段の技能を有し趣味の方面に於ても青葉城下の斯界に令名を馳せてゐる



# 宮城縣土木建築工業組合

【所在地】 仙臺市大町四丁目一七六  
 【電話】 仙臺 一、二二三番  
 【營業項目】 一、工事の鑑定  
 二、統制  
 (イ) 工事統制  
 (ロ) 物資統制  
 三、共同施設  
 四、工事請負の斡旋  
 五、營業に必要な物の供給  
 六、營業に關する指導、研究及調査

【支部所在地】 仙臺、石巻、鹽釜、古川、佐治、梁館、大河原  
 同 塚田 宗興  
 同 澁川喜三郎  
 同 石堂 畢  
 同 石川雄三郎  
 同 矢崎宇三郎  
 同 加藤庄太郎  
 同 佐藤與太郎  
 同 永野 春治  
 同 監 事 五十嵐富藏  
 同 内田吉太郎  
 同 佐藤 義男  
 同 小野寺良助  
 同 三浦孫一郎

云へば先づ土木建築業に擬指を屈せざるを得ない  
 爾く土木建築業の負擔する國家防衛の責務は絶對的であるが、東北六縣中の雄都仙臺市を中心とする宮城縣の斯業界は戦ひ抜く現下日本の爲めに、最も力強い銃後の産業的威力を發揮しつゝあるのである、當組合は即ちその事業に關する綜合的、組織的團結である  
 昭和十六年一月十日の創立に係はるもので、同年四月二十三日宮城縣知事の認可を受け、更らに同年五月十五日工業組合設立登記を完了したのである  
 尋で翌十七年八月三十一日、組合組織變更し、部制を設けて、第一部、第二部に分ちその機能の敏活を圖つたのである  
 今や前掲列記せるが如く重役陣營内には多くの理事諸氏を網羅し、同縣下に於ける斯界の權威者は悉くこれを動員してある堂々たる陣容で、これを一瞥した丈けでも如何に斯界の先陣を守る強方且つ敏活なる機關たるか想像以上である

# 南滿產業株式會社

【所在地】 奉天市大和區千代田通三二  
 【電話】 (三) 四一六八番  
 【營業項目】 一、農産品の加工、運搬業  
 一、石炭の販賣  
 【資本金】 金十九萬五千圓  
 【拂込金】 金七萬八千圓  
 【決算期】 五月 十一月  
 【前期配當】 一割配當  
 【取締役社長】 和田 信也  
 【常務取締役】 和田 文雄  
 外 四名  
 【工場所在地】 奉天市大西關  
 【支店所在地】 天津  
 【出張所所在地】 名古屋  
 【沿革一斑】 大陸の農産物は單に該地の農耕を主體とし、大陸民族の生命を保持するに止まらず我が日本内地の國民生活補給に甚大なる役割を持つものである。この意味に於てこの南滿產業株式會社の

有する使命は内地外地を通じて双肩に懸つてゐるものと云はざるを得ない。  
 當社は和田商事株式會社の子會社として製造部門を擔當し、山口縣宇部系と共同投資により、埋藏量二千萬噸の錦州省北票の炭坑を採掘しこれが販賣に全能力を傾注してゐるのである。  
 當社の大株主は和田商事株式會社であつてその背景となる資本的基礎は頗る強固なるものがあるのは多く習言を要しない。  
 今、少しく詳細に亘つて當社の事業内容を探討するに、第一項に掲げられたる農産品の加工並に運搬業に就ては、豊富なる農産物に恵まれてゐる大陸の特産物に對して加工し、或はこれを消費地への運搬業をも營んで功績顯著なるものがあるのである。即ち加工技術の優秀にして滋養價高く味覺佳良なる上に、その量數の點から云つても驚くべきほど多量に達してゐることが、最も吾人の意を強うするに足るところである

次に第二項として掲げられてゐる石炭の販賣は、前に聊か述ぶるところありし如く二千萬噸といふ莫大なる埋藏量を有する錦州省北票の炭坑採掘に従事するものである  
 云ふまでもなく大陸の炭質は内地の夫れに比較して格段の優位に在るが、この北票の炭質は取り分け優良であるから當社の事業として重きを爲すばかりでなく、増炭計畫に全能力を傾けつゝある戦ひ抜く日本の現狀に鑑みれば、實に鐵壁の如き力強さを覺えずんばあらずである。  
 従つて營業成績は特筆大書すべきものがあるばかりでなく、將來の華々しい發展は期して俟つべきものがある。  
 これ實に社長和田信也氏、及び常務取締役和田文雄氏を中心として重役陣容が協心戮力よく戰時産業の國防的意義を自覺せる爲に外ならぬと思ふ。



# 福島電氣鐵道株式會社

【所在地】 福島縣福島市上町五〇  
 【電話】 福島 一三二〇・一三二一番  
 【營業項目】 一、鐵道及軌道並自動車に依る一般運輸事業  
 二、前項に附帶する業務

【資本金】 金二百八十六萬圓  
 【拂込金】 金二百十六萬圓  
 【積立金】 金九萬二千七百六圓  
 【決算期】 五月 十一月  
 【現在役員】 取締役社長 金子 與左  
 專務取締役 坪井 萬三  
 取締役支配人 下田 與吉  
 取締役 佐伯宗義、西形吉次郎、菅野善三郎、岩澤岩次郎、佐藤善一郎、内池隆  
 監査役 鈴木文七、宮村義一、大和田藤七

鐵道を敷設したのがその權輿である。越えて大正六年九月資本金二百萬圓を以て信達軌道株式會社を設立し事業一切を譲受けると同時に電化の實現に努め近代的交通機關の態容を整備した。尋で同十四年十二月現稱の如き社名に變更し翌年七月資本金百萬圓を一舉に増額總額百五十萬となし、昭和三年五月飯坂電車株式會社を合併するに及んで資本金三十六萬圓を増加した爲め、その結果總額百八十六萬圓に達したのである。今や當社の營業線路は次の通りである。

營業線路	
福島、長岡、飯坂間	一三九四九三米
長岡、伊達間	〇、五七七米
長岡、保原間	四、五七二米
保原、梁川間	六、六三九米
保原、織田間	六、二八六米
福島、飯島間	九、五四二米
合計	四一、一四一、一五米

以上は現在當社が運営しつつある線路であつて、名實共に東北地方に於ける交通機關の大動脈を爲すもので、戦時下に於ける生産力増強を喫緊とする現在の我が國の現狀に照らせば、東北一圓の交通運輸の大使命を帯ぶる當社の責務は誠に甚大なりと云はねばならぬ。

福島縣伊達郡伏見町	社長 金子 與左
福島市大町	專務 坪井 萬三
同市御山道下	取締役支配人 下田 與吉
同市世田谷區	取締役 佐伯 宗義
福島市本町	同 西形吉次郎
福島縣伊達郡靈山村	同 菅野善三郎
福島市早稲町	同 岩澤岩次郎
福島縣信夫郡清水村	同 佐藤善一郎
福島市榮町	同 内池 隆
福島縣伊達郡東湯野村	監査役 鈴木 文七
福島市置賜町	同 宮村 義一
同市兵庫田	同 大和田藤七

# 福島合同自動車株式會社

【所在地】 福島縣白河町宇野内三三二  
 【電話】 白河 四〇六・四二〇番 須賀川 四五八番  
 【營業項目】 一、自動車に依る旅客運輸事業  
 二、旅客運送事業及之れに附帶する一切の業務  
 【資本金】 金十萬圓  
 【拂込金】 全 額  
 【決算期】 三月 九月  
 【現在の役員】 取締役社長 館 滋治 同支配人 添田 喜也  
 取締役 大矢憲治 監査役 館 安則  
 同 岡崎桂次郎

【沿革一斑】 東北地方に於ける大都市として歴史的にも産業的にも著聞する白河町の運輸界を代表する當社は、戦時下斯界の爲め國家的奉公に専念して業勢隆々たるものがある。社長館滋治氏は稀に見る成功者の一人で現在は白河町を中心として同縣下の産業界に令名を馳せ、マツタヤ自動車商會、福島合同自動車株式會社社長、福南自動車株式會社常務取締役、福島縣乗合自動車運送事業組合副理事長、白河タクシー株式會社取締役、顧問等幾多の事業を営み、白河町切つての信望高い實業家である。同町宇野内三十八番地の自宅（電白河一九四番）には令閨サワ夫人長男重通君、二男義郎君がある。

# 東製精綿工場筑紫商店

【所在地】 市内豊島區高田南町三ノ七〇〇  
 【電話】 牛込 五七六四番  
 【營業項目】 一、醫用衛生材料製造（主として脫脂綿製造）  
 【資本金】 金十萬圓  
 【拂込金】 全 額  
 【決算期】 八月 月  
 【現在の役員】 代表者 筑紫隆太郎 同 筑紫 敏男  
 一、國局方脫脂綿統制株式會社常務取締役  
 其他數社重役

【沿革一斑】 國民體位の向上と保健とは戰ふ日本の底力を培養する温床であるが、それが確保には幾多の衛生材料の準備を必要とする。筑紫隆太郎氏の事業は即ち斯る國家的意義を包含する醫用衛生材料の製造であつて、就中、脱脂綿の製造には優秀なる技術を遺憾なく發揮してゐる。現在、家業は一切これを擧げて令嗣敏男氏（明治四十年八月生）に委ね、氏は専ら區政を初め各種の公益社會事業に主力を傾注し功顯頗る甚大である。因に敏男氏は現に脱脂綿工業組合幹事に推され新進氣鋭の士として將來に囑目せられてゐる。



# 高柳 宰 正

# 並木 久 松

【現住地】  
 【電話】  
 【營業項目】 一、ダブルヘッター 一、水壓機  
 一、外軍需部分品製作  
 【現在役員】 社長 高柳宰正 庶務課長 末永榮  
 工場長 佐藤慶治 營業係長 佐藤文治  
 經理係長 石川健一

### 沿革一斑

その製作品目として掲げるところのダブルヘッターを初め、水壓機、その外各種軍需品の部分品に於て中央地方を問はず斯界の一權威として絶對的信望を博してゐるのは即ち當社である

これは要するに多年に亘つて研究を重ね、科學的基礎の上に起つて製品の優秀化に専念勵心した成果が、今日の輝しい榮譽をかち得たものであつて、そこには筆舌の能く盡し得ざる粒々苦心の潜在するところを見逃がしてはならぬ

續つて現下の戦局を顧みるに、南太平洋の一角に蟠踞して我れに執拗なる反攻を試みる敵米軍は、今や必死の狂態を演じてゐるが、これを撃滅して彼等を百年の迷夢より覺醒せしめるには、此の際徹底的に武力の發揮を必要とするが、當社の事業的發展に期待するところ決して尠くない

【生年月日】 明治二十四年  
 【原籍】 埼玉縣入間郡所澤町在  
 【現住所】 市内杉並區馬橋町一ノ四五  
 【電話】 中野 六三二一番  
 【現在事業】 有限會社東京レンズ會社  
 【経歴】  
 隣接する關係上、帝都の産業界に於て生々潑地の活躍を展開しつゝある埼玉縣出身の鋭才は決して尠くない

本欄の主人公並木久松氏の如きは其の代表的一人と推すに足る人材と云つてよと思ふのである、明治二十四年の出生と云へば本年は正に五十有三歳の壯心勃々覇氣滿々たる男盛りである

郷里の學園で修學を完了すると十六歳の少年時代から早くも實業界の人となり葉茶屋の業務に携つたのである、その後、幾多の辛戦を嘗めて立身出世の一途を辿り、人生行路の闘士として幾多の困苦と闘ひ抜いた、が時代の進運を洞察する明ある氏は、義兄の肥沼新太郎氏の經營するレンズ工場に入り去て年間饑饉を忘れて斯技の練磨に努力した、生來の敏捷、勤勉の資はよくその難技を會得したので、愈々、獨立して斯業を開始したのは大正十三年であつたそれ以來今日まで既に二十年の尊い歲月を經てゐるが、事業益々盛大を極め現下我がレンズ製作界に貢獻するところ甚大なるものがある正に立志傳中の花形ともいふべき人物で、將來の發展は今より期して待つべきものがある

# 關根自動車商會

【所在地】 福島縣白河町郭内四〇  
 【電話】 白河 二五四・一四二番  
 【營業主】 關根 勝治  
 【營業項目】 一、自動車運輸業 一、貨物自動車運輸業  
 【營業所】 柵倉町字新町四九  
 【車庫所在地】 白河町郭内四〇番地 同町字貢町一九番地  
 【沿革一斑】  
 福島縣下に於ける史的背景に富んだ名邑白河町を中心として、縣下一より隣接各縣への自動車運輸業を營み、戦時下最 喫緊問題と目されてゐる運輸國策に協力し職域奉公を實踐しつつあるのは、即ちこの關根自動車商會主關根勝治氏である。  
 氏は當地方に於ける信望家で、斯業創始以來、多くの年處を閱してゐるが、その間に於ける氏の並々ならぬ奮闘努力は遂に今日の盛業を招來したのである。  
 現在、使用車輛は三千數臺を數へ、多くの技術優れた運轉手、其他従業員を便役して晝夜の別なく各方面から殺到する需要に應じ、東北産業開發の爲めに直接間接貢獻するところ甚だ大なるものがある。  
 氏は當地方斯業界の重鎮で現に同業組合の理事に推され、且又支部長として活躍するところ頗る多く單に斯界のみならず、一般町民の敬慕の標的とされてゐる。

# 株式會社 大場製作所

【所在地】 市内深川區平井町三ノ二  
 【電話】 深川 四九〇番  
 【營業項目】 一、航空機部分品 一、兵器部分品  
 一、精密機械並理化風機械製作  
 【資本金】 金十萬圓  
 【拂込金】 金六萬圓  
 【積立金】 金二千三百六十八圓  
 【決算期】 九月 月  
 【前期配當】 年一割  
 【現在役員】 専務取締役 大場武治郎 取締役 若田 邦輔  
 同 中里英一 同 近藤 正 監査役 小笠原勇雄  
 【工場所在地】 市内深川區平井町三丁目二番地  
 【創業年月】 昭和十三年十二月  
 總ての力を競争目的に集中してゐる現下の我が國情に於て、就中、最、急を要するものは兵器と航空機の製作補給である。従つて斯業に携る者は悉くこれ産業戰士であり奮闘精神の具は者であるが、當社の如きは其の技術に於て、その奮闘精神に於ても正に銃後生産戰線の殊勳者と推すに躊躇しない。  
 昭和十三年末の創業と云へば既に五年に垂々たる年月を閱して居り、従つて技術の練磨と研究とは製品に反映して當局の絶えざる信望を博してゐる。



## 工業組合中央會

【所在地】 市内麴町區内幸町一ノ一  
【電話】 銀座 四四九二・四四九四・四四九五番

【振替口座】 東京 七五六二番

【設立年月】 昭和八年六月二十七日

【設立目的】 本會は工業組合及工業組合聯合會の普及、發達及

聯絡を圖るを以て目的とす

【會員種別】 一、正會員 二、補助會員

【現在役員】 會長 卓雄 副會長 松井 春生

專務理事 岡地與四松 常務理事 野村 澗

本工業組合中央會は前掲の如く昭和八年六月二十七日、監督當局の設立認可を受けて設立せられて以來、昭和十一年四月以來毎年變更して現在の定款とせるものである

會員の種別は左の通りである

一、正會員 工業組合、工業組合聯合會及工業小組合

二、贊助會員 本會の趣旨に賛成して入會したる統制組合其の

他の工業者團體及個人

以上は現況を概略したに過ぎないが、要するに戦ふ日本の現段階に於て生産力擴充の國策運上、本會の寄與するところ甚だ鮮少なからざるものがあることを銘記せねばならない

## 有限八戸信用組合

【所在地】 青森縣八戸市八日町一八

【電話】 八戸 九八・八七九番

【創立年月】 大正十一年

【現在役員】 組合長 理事 河西又重郎 理事 高橋 正志

同 金入文吉 同 富岡新太郎 同 瀧澤三郎

同 夏堀源三郎 同 中島石藏

監事 高橋 保次郎 浪打 石丸 武尾 吾郎

北村 石太郎

【出張所】 鍛冶町、湊、白銀、鮫各出張所

【沿革一斑】

大正十一年の創立に係はるもので、東北地方に於ける市勢發達たる名譽八戸市を中心に、縣下の産業開發、民度向上の爲めに今日まで二十有餘年の尊き沿革を有する當組合の貢獻は實に顯著なるものである

これを組合員並に出金額の増加過程に就き検討するに、初年度には僅々一四九人、四四、五五〇圓に過ぎなかつたが逐年要進して昭和十六年第十九年度に於ては組合員二、三六四人、九五二、九五〇圓の巨額に達しその活潑なる業績を如實に物語つてゐる、河西組合長は昨年三月迄專務理事として多年挺身奉公せる功勞者で、つて、信譽藉甚、手腕力量兼ね有する地方の名流である

## 日本被服修理工業株式會社

【所在地】 市内下谷區上野櫻木町一

【電話】 根 岸二二三七番

【營業科目】 一、重服、官廳服、作業服修理 一、防空用暗幕  
工事及修理 一、天幕、カーテン工事及修理 一、布團打直並に  
洗濯修理

【資本金】 金十八萬圓

【拂込金】 三分ノ一拂込

【決算期】 四月 十一月

【現在役員】 取締役社長 清水菊一、取締役 木村龜吉 同  
高橋憲 同 吉良惠三郎、同佐藤 太郎、同神保

榮造、監査役 大下與四郎

【工場所在地】 市内下谷區上野櫻木町一番地

(電話根岸九二番)

各重役従来の自營工場と各株主の工場約百ヶ所あり

【沿革一斑】

昭和十七年四月十三日創立せられ操業未だ日淺きにも拘らず資  
源確保と廢品更生の二石二鳥を狙ふ時局必須の事業で軍部方面、  
遞信省、中島飛行機、日立製作、芝浦製作所、藤倉電線、大日本  
婦人會、各病院に納入絶對的信用を博する清水社長は長野縣の人  
明治十五年二月出生

## 株式會社日進合金鐵工所

【所在地】 市内大森區新井宿七ノ四一

【電話】 大森四四九二番

【營業項目】 一、各種合金製作

【資本金】 金十九萬圓

【現在役員】 取締役社長 志村喜多朗 專務取締役 渡邊優

高度の精密機械の製作には各種の合金を要とすることは世上  
知悉の通りであるが、今次の大東亞戰爭の進展に伴れて合金の需  
要頗る激増したことは、我が軍需並びに民需の工業が如何に高度  
の發達を遂げたかを無言に立證するものと云はねばならぬ、帝都  
の地圖の上に新興工業地帯として特色の工業色を鮮かに彩る大森  
區に、特異の存在として隆々たる業務を誇るこの日進合金鐵工所  
は戦ふ日本に執つて力強い後方生産陣の一翼と云ふを妨げない、  
現在、當社の重役諸氏は志村傳多朗氏を取締役社長に載き、渡  
邊優氏を專務取締役としてその他斯界の新鋭を重役陣營に入れて  
ゐるが、資本關係から云つても業務の實際的運営から見ても殆ん  
ど志村氏の個人會社同様と云つて差支へないのである従つて志  
村氏の責任は他の重役諸氏とは比すべくもないほど重大である、  
創業以來、今日まで氏の奮闘は目覚ましい限りであつたが、産報  
精神の旺盛なる氏の ことであるから、今後に於ける雄飛は今よ  
り刮目して俟つべきものがあらう、



# 日本航空補機株式會社

【所在地】 市内麴町區有樂町一ノ二〇 (三信ビル内)

【電話】 銀座七九〇五番

【營業項目】 一、オートクリン濾器製作販賣 二、航空機補機及内燃機補機製作販賣 三、前二項に關する附帶事業

【資本金】 金十萬圓

【拂込金】 全額

【決算期】 十二月

【現在役員】 取締役社長 宗像爲治 專務取締役 藤野隆三

取締役 粟津孝太郎 同、坂口徳次郎

監査役 宗像 英 一

【工場及營業所】 場 市内芝區芝公園第五號地十番

大阪 工場 大阪市東淀川區三國本町二四

大阪營業所 同市東區備後町二丁目(野村ビル内)

【沿革一斑】

航空萬能時代である現下の國情に照らし優秀なる技術と確固たる愛國精神とを以て、産業報國を實踐しつゝある當社は、昭和十三年十二月二十三日を以て創立せられた。當初、社名をオートクリン濾器製作株式會社と稱したが、社業の進展に伴れて内容の擴充を促かされると同時に昨十七年三月二十五日を期して現社名に變更、目下増資申請中であるから、これが實現後は刮目して俟つべきである

# 八戸市水産會

【所在地】 青森縣八戸市

【電話】 八戸 五二四番

【營業項目】

一、水産倉庫 一、共同販賣所 一、商工、漁組合の指導獎勵 一、漁船の貸付 一、漁船の縣外への出漁斡旋 一、水産關係書類整備斡旋 一、水産物の宣傳斡旋 其他

【現在役員】

會長 吉田聖造 副會長 石橋 要 吉 同 佐々木喜右衛門 評議員 濱谷辰之助 外九名

【沿革一斑】

本水産會は今より約五十年前三戸郡漆村の漁業者相寄りて水産業改良發達を圖り、その福利増進を目的として明治二十五、六年の交單なる申合せ程度の漁業組合を組織したが、これが即ち後年本會の基幹となつた漁業組合の發端である。後年各村の漁業組合設立せられたので茲に水産聯合團體の必要性を唱道し郡内千百五十四名の組合員を擁して三戸郡水産組合を組織し大正七年七月時の縣知事より認可せられたのである。爾來年と共に發展に次に發展を以てし、昭和四年五月市制施行と同時に現在の稱號に變更益々内容の擴充を實現したのである

# 東亞土木企業株式會社

【所在地】 奉天市勸島區協和街三段

二四號

【電話】 (一) 三四六三 三四七二 其他

【創立年月】 大正九年一月

【資本金】 金五百萬圓

【營業項目】 一、土木建築請負

【現在役員】 代表者 永社長

【出張所々在地】

大連、安東、新京、牡丹江、ハルビ

ン、チ、ハル、錦州

【沿革一斑】

大正九年一月の創立と云へば實に二十四年の歳月を閲してゐる、正に斯界の老舗格である。従つて業勢が大陸一回に亘つて擴充してゐることは、想像に絶するほどで、技術の卓越してゐることはこれ々贅言に値するところと云つていい。抑も當社は滿鐵の傍系として設立せられ

然るに昭和十二年當社が發祥の地大連より現在の地に移轉するに際し、入つて現職に招聘せられ就仕したものである

人格 識見 機略 手腕等何に一つ批の打ちどころのない材幹であつて正に大陸を背景とする土木建築業の總帥として恥ぢざる天分の持主と云はねばならない

これを要するに、大陸の事業開發は帝國の前衛基地として是非必要なるもので、その振否如何は延いて帝國の海外發展に影響するとこそ蓋し尠少なからざるものがあらう

我が清水社長はよく此の間の消息を會得してゐて、國家的信念を懷いて渾身の努力を拂つてゐるから、當社の業績は一私營會社として彼れ是れ論すべきでない、少くとも大陸經營の大局から洞察して論議し、評價すべきものである

時局は戦域の進むに伴れて益々重加しつゝある今日、切に清水社長の健闘を祈る



# 福島縣燃料機販賣株式會社

社長 金子與左

れない交通事業界の耆宿がある

その耆宿は誰かと反問するまでもなく福島燃料機の金子與左氏の名を異口同音にあげるに違ひない

何故かと云へば劈頭にその肩書を列記せる通り、同縣下の交通機關の事業に對しては悉く氏はその最高峰たる重責を帯びて居り、同業組合の理事長として斯界の發展と隆興の爲めに活躍するばかりでなく、縣會議員に選出せられて地方の縣治に貢獻するところこれ又甚だ天なるものがあるからである

福島縣伊達郡伏黒村箱崎字原の人で本年六十二歳の高齡であるが老來益々元氣旺盛で、鏗鏘壯者を凌ぐといふ文字通り活動能力の滿々たるところ、青年者流も大に傾負けする程と専ら噂せられ、敬慕讚嘆の標的とされてゐるのである  
氏が現在社長として主力を注いでゐる會

社は、前記の如く福島電氣鐵道株式會社と福島ニッサン自動車販賣株式會社と福島燃料機販賣株式會社の三社があるが、これ等は孰れも基礎は強固であり業況も逐年發展しつつある同地方に於ける代表的會社である

殊に福島燃料機販賣株式會社は、時局柄、最も注目し得る業勢を示してゐるもので、燃料國策が暗しく叫ばれこれが萬全を期することが即ち取りも直さず國家の急務に即應するものと思惟せられてゐる現下の情勢に照らせば、性能の優秀にして萬事時局的に考案施工せられ、他にその機能の較ぶべきものを知らない同社獨得の燃料機は、正に貴重なる銃後交通戰の精強なる武器と評しても強ち吝嗇ではあるまいと思ふ

これは一に氏が全精力を打ち込み、私利私念を一擲して一にも二にも國家本位の愛國的至誠に驅られて斯機の優秀化に没頭した結果に外ならないのである

今や頑敵米國は敗戦に目覺め厄鬼となつて傾勢挽回に狂奔し、反攻に努めてゐる際、我が本土防衛の完壁を期し、交通戰を確保せねばならぬから氏の活躍に俟つところ甚だ趣くないのである

# 高橋 佐太郎

〔生年月日〕 明治十八年一月七日

〔出身府縣〕 岩手縣

〔現住所〕 盛岡市仁王菜園二三

〔電話〕 盛岡 一〇五七番

〔現在職業〕

- 一、岩手縣共同自動車配給株式會社社長
- 一、岩手縣聯合運送事業組合理事長
- 一、株式會社新岩手社取締役
- 一、岩手縣自動車修理加工組合理事長
- 一、株式會社中央映畫劇場取締役
- 〔趣味〕 運動競技一切
- 〔家庭〕 夫人もと子 長男功 二男喜一 長女はな子

〔經歷〕

夙に東北六縣の振興策は國策として論議せられたばかりでなく、實際的にこれが施策が講じられて来たことは周知の通りであつて、今次大戰の勃發を契機としてこれが強化擴大は、増産計畫の建前から重點を置かれてゐるのである

斯る國策遂行の要請せられる重要地域たる東北六縣中でも最も要視せられるのは他ならぬ岩手縣であるが、同縣の交通運輸界を論ずるに方つて斷じて看逃がしてはならぬのは高橋佐太郎氏の事業である

何となれば、氏は同縣下に於ける斯界の牛耳を執り、聲望、信用共に他の比肩を知らざる勢力家であり活動家であるからだ

明治十八年一月七日を以て岩手縣鬼柳村に於て呱呱の聲をあげた氏は、夙に自動車界の人となつたが、燭眼にして商機を洞察する胡ある氏は、東京に活躍の舞臺を求めて上京すると明治三十七、八年の頃、疾くも獨立して麴町區富士見町に於てS.P.自動車商會なるものを創設經營したのであるが當時に在つては斯業が如何に時代の尖端を行く事業であつたかは、恐らく想はむところであらうと思ふ、それ程氏は先見の明を有し斯業の將來性に對して活眼を開いてゐた先覺者であつたのである

それ以來、彼の大震災災まで經營を持續し來つたもので帝都に在つても民間の斯業に於ては名實共に草分たる浮冠を擔ふべきものと云つてよいのである、震災の翌十三年には感ずる處あり、東京を引拂つて郷里盛岡市に歸還し事業を開始したのである

即ち同市に於てバス事業を開始して以來、二十年今日まで發展の一途を辿つて業域を擴大、業務を伸展せしめたもので昨年株式會社に改組するに及んで氏は社長の重荷を占め現在に至つたのである現に劈頭列記の如く同地方に於ける斯界の凡ゆる事業の樞機に關與し斯界の第一人者として隆々たる令名を刻してゐる

又市會議員及び商工會議所議員を共に三期に亘つて勤め功勞顯著である家庭には貞淑にして内助の功高い令嗣もと子夫人との間に二男一女を擧げ、長男功氏（二十八歳）は現に盛岡バスの支配人として新銳の氣を吐き將來に嚆矢を卒業して目下上級學校入學準備中である、令嬢才色兼備の譽が高い



# 大日本莫大小製造工業組合聯合會

【所在地】 大阪府北區堂島濱通一ノ一  
(堂島ビル)

【設立認可】 昭和十三年二月一日

【設立目的】

本會は所屬組合相互に連絡提携助業の改良發達を圖るを以て目的と爲す

【現在役員】

理事長 古畑 銀次郎  
外、理事八名、監事三名

【本會の事業】

一、生地、製品、原料材料及設備の検査並に取締

二、統制

三、營業に關する指導、研究及調査

四、其の他の施設

【沿革一斑】

抑も本會は昭和十三年二月一日を以て商工省指令一三工第一一五八號を以て認可せられたるもので、その定款の變更認可を得たる年月日は左記の通りである

- 一、昭和十三年二月二十八日
- 二、同 十三年八月二十五日
- 三、同 十三年十二月十七日
- 四、同 十四年六月二十一日
- 五、同 十四年十二月一日
- 六、同 十五年七月五日
- 七、同 十六年八月二十九日

以上は定款變更の年次であるが、今その總則中の主要項目を抄記すれば次の如くである

## 第一章 總則(抜抄)

第三條 本會の地區は内地一回とす

第四條 本會の主たる事務所は之を東京市に置き従たる事務所は大阪市に置く

第五條 本會は莫大小の製造に關する工業組合及同聯合會を以て之を組織す

第六條 本定款に於て組合と稱するは前條の規定に依り加入資格ある工業者

第七條 業組合及同聯合會を謂ふ  
本會の公告は本會の指示場し且「メリヤス日本」に掲載して之を爲す

尚ほ本會の出資一口の金額は金百圓とす  
第十六條に明記して居り、所屬組合の出資口数は一口以上五十口以下となし、出資第一回の拂込金額は一口に付金二十五圓と規定す  
次に本會は所屬組合の組合員の製造したる内銷向の莫大小生地、製品、其の原料及材料に付規格、品質及數量の検査を爲すもので、好成績を收めてゐる

更らに第四節に於て次の如く規定してゐる

第八十二條 本會は所屬組合の組合員の營業に關する指導の目的を以て左の施設を爲す

- 一、學識經驗ある者を招聘して行ふ講習
- 二、又ハ實地指導
- 三、参考品の蒐集
- 三、刊行物の發行

尚ほ研究及調査に關しても夫々萬全の施策を實踐してゐる

# 東京鑿泉株式會社

【所在地】 市内王子區豊島四丁目六ノ一

【電話】 王子 四五〇九番

【營業項目】 一、鑿井 一、ポンプ製作

一、配管

【資本金】 金五十萬圓

【拂込金】 全額

【積立金】 金一萬四千五百圓

【決算期】 五月 十一月

【現在役員】

專務取締役 松下 會登知  
常務取締役 榎垣 右衛門  
取締役 宗像 善雄  
同 石井 金一郎  
同 齋藤 周藏  
同 齋藤 秀資  
同 齋藤 正司  
同 齋藤 正吉  
同 今城 庄吉  
同 河崎 利市  
同 河崎 利文  
同 河崎 利文

【沿革一斑】

敢て巨資なりとは云はれども、充實した適額の資本力を擁し、卓越した獨得の技術と、低廉なる經費、施工期日の短小等の特色を有し、本邦鑿泉工業界の爲めに、萬丈の氣を吐くのは即ち當社である

昭和十三年三月の設立に係はるもので、今日まで僅々五年の歳月を経たに過ぎないが、内容の整備充實してゐることは正に嘆賞に値ひするところである

現在、當社の事業は前掲の通り、鑿井を初めポンプの製作、配管等の同一系統に屬する類の事業を營み、多年研究と經驗とに富む技術者を多く使用して官民各方面の需要に應じ、噴々たる好評を博してゐる殊に海軍方面には絶對的信用を獲得してゐるが、現に海軍施設協賛員となり軍國多事なる刻下の我々臨時營業界に貢獻するところ甚だたなるものがある

然らば、短時日の間に於て爾く優位を占め確乎不動の歩歩を把握し得た所以は、抑

も那邊に在りやといふならば、そは主として經營主腦者の協心、力と營業錫國の所産に外ならぬと云はればならぬ

即ち松下專務取締役は寛濶なる資性の持主であり、理智の明敏なるところは他に多く比肩すべきものがないと云はれてゐる

斯る、智の所有者を首班に戴き、精力綯備なる勤勉家で徳望の高い榎垣氏を常務取締役としてこれに配し、その他重役陣を構成するに、宗像氏、石井氏、齋藤氏、鈴木氏、今城氏、河崎氏等の斯界に精通せる諸氏を以てせるところは本社の強力にして將來性を物語るものといふべきである

想ふに刻下の如く國運を賭しての大戦争を繼續中に在つては總べての産業は各々その特色を十二分に發揮して生産陣の強化を圖らねばならない、斯る際に當社の分擔する國家的使命は決して抑少でない



# 株式會社 小槌屋塗料店

【所在地】 市内港橋區百人町一ノ三五  
 【電話】 港橋 二三一・一五九八番  
 【營業項目】 一、塗料、顔料卸商  
 【資本金】 金六萬圓  
 【拂込金】 全額  
 【積立金】 金一萬二千圓  
 【決算期】 五月 十一月  
 【前期配當】 年五分  
 【現在役員】 代表取締役 稻垣 茂雄  
 【支店所在地】 仙臺支店  
 仙臺市多門通り十二番地  
 【創立年月】 昭和七年十月一日  
 【特約先】 日本ペイント會社特約店  
 【沿革一斑】 塗料の重要性は今更ら彼れ是れ論議するまでもなく世上周知の如くであるが、殊に現下の如く戦ふ日本、勝ち抜く日本に執つては、可缺の重要産業と云はねばならぬ。當小槌屋塗料店はその規模に於ては或は

他に譲るべき多くの大會社、大工場があるかも知れぬが、何よりも商品の價値を先決する品質の優秀なる點に於ては、別底他の比類を見ない特色を有してゐるのである。これが當社の價値であり特色と云つてよい。  
 昭和七年十月一日の創立と云へば今日まで既に十有一年の尊い店歴を有する斯界の老舗株であつて、今日まで研究に研究を重ね、技術の練磨に練磨を積み、そして眞の卓越した品質の塗料、顔料等を創出することを得たのである。  
 斯くの如く過去の粒々辛苦の結果に成つた逸品であるから、軍官民の三方面に亘つて到るところ絶對的信用を博する所以は、宜なる哉と叫ばざるを得ないのである。  
 現在は、資本金六萬圓（全額拂込済）の資力は決して巨大なりとは云ひ得ないが、これを百%に活用せられ効用化されてゐるから、その資本運轉効率は頗る高いと云は

ざるを得ないのである。  
 併かも一萬二千圓の積立金を確保してゐる點を見ても餘裕綽々たること立證せられるであらう。  
 故に前期に於ける利益は相應潤澤であつたが、株主配當を僅に年五分に止めて置き、その他を専ら店礎の強化に努めてゐる。  
 この一事に徴して見ても當店の經營方針は甚だ堅實性に富んでゐることが想像するに難くあるまい。  
 これを要するに、現在の對米革撃滅の大戦中に際しては、殊に我が海軍方面に執つては缺くべからざる必要物資であるが、當店の商品の如く品質優良にして効用價値の絶大な逸品は、最も國家的重要性を有するものと云はねばならない。  
 切に當店の繁榮を待望して已まぬ所以は、この意味に在るのである。

# 社団法人 日本絹人絹輸出振興會

【所在地】 市内麴町區有樂町一ノ一四  
 【電話】 銀座 八〇八三番五〇六三番 七九二二番  
 【營業項目】  
 一、輸出振興對策の研究  
 一、會員相互間の連絡協調  
 一、販路擴張に關する施設  
 一、取引上に於ける紹介斡旋  
 一、輸出振興上の功勞者表彰  
 一、輸出絹物及輸出入造絹織物の組織加工又は其の組合若くは結合に關する考案の保護  
 一、内外に於ける輸出絹織物及輸出入造絹織物の展覧會の開催  
 一、座談會、研究會、講演會の開催  
 一、參考資料の蒐集、調査、其他必要なる事項  
 【現在役員】  
 會長 豊島 久七  
 専務理事 秋山 玉吉

理事 功力寅次、有井勘一、藤井松四郎、坂倉正造、上申信弘、宇治田英一、大久保基吉、久保義隆、井下辰雄、東徳太郎、永井得一、赤松小寅、鶴井信次郎、飯高富二、峰田喜兵衛、番井孝吉、新井正二、仙石襄佐々木元吉  
 監事 佐々木元吉  
 【創立年月】 昭和十三年五月  
 【沿革一斑】 抑も本會は人絹織物の輸出振興奨勵の普及を圖る爲め、關係團體により昭和十二年五月人絹織物輸出振興會として組織せられ昭和十四年十一月、日本絹人絹輸出振興會と改稱したのである。  
 次で、事業の内容を擴充して絹織物に關する輸出振興並に普及部門を加へ、更に昭和十五年七月二十四日に至り社団法人組織を採つて會の根柢を強固なるものたらしめ今日に至つたものである。

これを要するに日本絹は、優美、典雅にして美的要素と實質的要素とを兼備してゐる特産品で世界に冠絶することは敢て贅言を要しない處である、と同時に人絹に至つても亦世界屈指の生産國として日本の地位は斷然優位を占め、その織物類の優雅なることも同様世界驚嘆の的とされてゐる處であつて、これ等我が日本の矜るべき特産品の海外輸出は國富増進の見地からして最も重視すべき處と云はねばならぬ、斯る國策的見地に立脚して斯界の統制を圖り進歩發展を企圖する目的の下に結成組織せられたのが即ちこの振興會である。  
 故に當會の振否如何は單に當會の問題たるに止まらず、汎く全日本の産業界を左右する上に甚大なる影響を有するものであるから、當會の將來に於ける發展と隆興とに對して吾人は甚大なる關心を拂ふものである。



# 社團法人帝國發明協會東京支部

【所在地】 市内麹町區九ノ内三ノ一  
(府立東京商工獎勵館内)

【事業目的】

- 一、發明獎勵助長
- 一、發明の實施援助
- 一、發明思想の普及

【現在役員】

支部長 東京府知事 松村 光磨  
副支部長 東京府經濟部長 安積得也  
同 大塚 榮 吉  
同 東京市戰時生活局長 長谷川 昇  
【創立年月】 昭和十四年三月  
【沿革一斑】

發明は一國隆興の母であることは何人も認める通りである

凡ゆる人類生活の様式の上に、發明、發見が人智の進歩に寄與するのは、これを史實の上に徴するも極めて顯かなるところであらうと思ふのであるが、殊にその必要を痛感するのは、現下の如き世界の興亡を如

實に示してゐる大戦中である  
就中、近世戰は科學戰と云はれ消耗戰と云はれてゐるか、科學戰の根柢をなすものは學理と發明創見の成果に俟たねばならぬのである

従つて發明は單に人類生活の向上發展を促進するばかりでなく、實に戦時下に在つて一國の運命を左右し、その興亡盛衰を律するものと云はねばならぬ

本帝國發明協會は叙上の如き遠大にして國家的の見地に立脚して創立せられたものであつて、當東京市支部も亦本會の趣旨に基きその趣旨、企圖、事業等の地方的徹底化を圖つてゐるのは當然である

即ちその趣旨とするところは、前掲の如く一般市民の發明思想の涵養と普及に努めこれが獎勵とその實施に對して助長援助するに在るのである

この趣旨を基礎として創立せられたのは昭和十四年三月であつて、今日まで僅々四

ヶ年に過ぎないが擧げられた効果の實績に至つては實に驚かすべきものである

これは主として現任役員諸氏の協力一致と本會趣旨の徹底化に對して最善最良の施策を行つてゐるからに外ならぬと思ふ

即ち支部長たる人に現在の東京府知事松村光磨氏を推し、副支部長には東京府經濟部長安積得也氏、大塚榮吉氏、東京市戰時生活局長谷川昇氏の三氏が就任してゐる

叙上の如く行政機關の要職に在る各權威者と民間の權威とを網羅してゐる堂々の陣容は一見した丈けでも如何に強力にして對外的信頼をもち得るか、何人に感得せられるところと信ずる

今や西南太平洋に於ける戦局は我が勇敢鬼神をも慟哭せしめる皇軍將兵の壓倒的捷利に沸いてゐるが、執拗なる米英兩軍の反撃に對し徹底的殲滅を與へるには、尙ほ兵器軍需品の發明創見に俟つところ多い、切に本會の發展を切望して已まぬ所以である

## 櫻井節造

【生年月】 明治二十六年二月二十六日

【出身府縣】 群馬縣

【原籍】 群馬縣北甘樂郡富岡町大字富岡

【現在所】 東京市淺草區壽町一ノ一六

【學歷】 東京市立商業學校

【現在職業】 坂東工業株式會社取締役社長

【趣味】 神社參拜旅行

【家庭】 父、妻、長男

【經歷】

帝都に近接する關係上、群馬縣人にして帝都の各階各層に活躍しつゝある人物は極めて夥しい

然しながら、獨力獨行を以て今日の地歩を獲得し、戦時下の銃後産業の爲めに逞しい活動能力を發揮してゐる鬼才櫻井節造氏の如きは、寧ろ異數といふべきであらう

氏は群馬縣の士族たる名裔に人と爲り、明治二十六年二月の誕生といふから、本年は正に五十一歳の脂の乗つた思慮綿密、經

験裕かな分別盛りである

夙に東京市立商業學校に學び、卒業後直ちに實業界に身を投じたのである

迅くも一家を爲す成功を収め、大正十一年十月には日本錠釘株式會社代表取締役に就任したのである、次で昭和二年八月、帝國海軍の某機關に勤務し殊勳を樹て、同年歸還した

その心機一轉して藥物研究に主力を傾注し凡ゆる苦心と努力を拂つて研鑽に没頭すること數年に及んだ

果然、その成果は特許品として現はれるに至つたのである

即ち特許第一四一六九七號の完成となり彼の斯界の大買大木合名會社と共同實施をなしたが、現在、噴々たる好評を博してゐる陸海軍指定巴布劑『ビスメン』が即ちそれである

この『ビスメン』が藥種として如何に効能顯著なる良劑であるかは、陸海兩面の軍

部方面の指定劑である一事に照らして見ても顯然たるところであつて、これが氏の多年粒々辛苦の發明に成るものであることは驚嘆に値するところと云ふべきであらう

然るに多才にして多角的なる氏は、昭和十四年八月以來、中島飛行機株式會社の協力工場として重視せられてゐる坂東工業株式會社の取締役社長に就任し、爾來引續き今日に至れるもので、氏の事業が時局の閃光を浴び、産業帝國の爲めに貢献するところ甚だ多いのである

家庭には嚴父健在で内助の功多し令閨との間に令息をあげ、一家の和合は霽々として良家庭の範を示してゐるのである

氏は生來頗る信仰心の厚い人で、殊に敬神家として愛國の赤誠に燃えてゐる純日本趣味の人である、従つて旅行も單なる探勝を目的とせず、神社參拜を主として全國各地の神社に巡拜することを唯一の楽しみとしてゐる



# 高橋秀三

【生年月】 明治三十一年一月十五日

【出身府縣】 東京府

【原籍】 東京市本郷區湯島新花町三三

【現住所】 東京市王子區稻付庚辰町三〇

【學歷】 東京開成中學校、日大修

【現在職業】 日本事務用機械工業組合聯合會事務理事

【著書】

一、實用製本技術讀本

一、金の函讀本

一、新體制下の生活讀本

一、配給整備の實際

一、苦勞の平等

一、戰時版家庭醫學(近刊)

一、隨筆『顔』(同)

【趣味】 讀書、旅行、俳句(號、海戶)

【家庭】 母はつ 妻操 長女昌子

長男淳 三男謙三 次女淑子

【經歷】 多才にして多藝、併かも根柢を鞏固なる

工業に置いて、事務用機械工業の進歩發達の爲めに献替するところ甚だ大なる高橋秀三氏は、動もすれば無味乾燥なる我が工業界に在つて、一抹の潤滑味を提供するものと云はざるを得ない。

東京の人、明治三十一年一月、本郷區湯島新花町に於て呱呱の聲をあげた都會人であるだけに恬然にして寛容の氣質は稀に見るところである。

開成中學を卒へると日本大學に學び、その後、片山製本工場を経営して斯界に第一歩を進めし大に業績を示したのである。即ち帝都斯界の新知識として推戴せられ東京製本同業組合評議員に選ばれ、大日本製本業組合聯合會理事に推され、更に製本同業本和會長に推戴せられるなどその活潑活躍なる活躍、八擒七縱の才略は全く他に肩を比ぶべきもの知らざる處である。

更に東京適應研究所、温泉活用研究所等の經營に努め、現在にては専ら主力を日

本事務用機械工業組合聯合會事務理事として斯界の向上發展に注いでゐる。

生來、文藻に富み明快達意の行文を操つて著作するところ各方面に亘つて前掲列記の如き數冊あり、孰れも名著として洛陽の紙價を高からしめたものゝみである。趣味として深山溪谷の温泉地を探勝することを好み足跡到らざるはなしといふ、又、海戶と號し俳句を好くし感甚だ妙くないといふ、正に欣慕すべき風韻雅懷の人といふべきだ。

家庭には八十四歳の高壽を保つ老母堂はつ刀自を中心に、令蘭操夫人(四二)との間に長男淳君(二八)長女昌子嬢(一九)三男謙三君(二三)次女淑嬢(七)の二令息二令嬢があり一家の團圓は誠に他に羨望せられる的となつてゐる。戦局は日を逐ふて深刻化しつつある今日、事務能率の昂揚は増産の根基として重視せられる際であるから、切に氏の活躍に期待するところ甚大である。

## 特殊電機工業所

【所在地】 市内京橋區銀座八ノ三

【電話】 銀座 四三七六番

【營業項目】

一、電氣爐

一、機車機

一、其他、製鋼關係各種製作

【現在役員】 代表者 出石 廣吉

【工場所在地】

一、電氣工場 市内淀橋、同王子、同日暮里

一、合金總物工場 市内砂町

【沿革一斑】

今や我が國は總力を擧げて征戰完遂の爲めに、物心兩面を悉く傾注してゐるのである。

これは飽くまでも勝ち抜く爲めには、産業方面の増強とその確保とが先決問題であるのは、多く贅言を要しないのである。

斯る見地から都下に於ける工業界の種々相を検討して見るならば、規模は必ずしも巨大とは云ひ得ないけれども、その製品の優秀卓越性に於て斷然他を壓倒してゐるものは、即ち特殊電機工業所をその一つに推すことは何人も異存が無からうと信ずる。

即ち當社の製品は次の通りである。

一、電氣爐

一、機車機

一、其他、製鋼關係各種製作

右の如きもので、これ等は熟れも他社の追隨を容さざる特殊の技術を遺憾なく發揮してゐるのである。

即ちその製作機關が如何に完備してゐるかを一瞥しただけでもその間の消息が釋然たるところであらう、先づ電氣工場には淀橋、王子、日暮里の三ヶ所を設置して居り又、合金總物工場としては砂町に理想的設備内容を有する工場を設けてゐるなど間然するところがない。

從つて製品の優良なることは他に多く比較すべきものがないのであつて、日本特殊電機、鈴木金屬その他有力筋との取引關係を有し、網對的信用を博してゐるのはいふまでもないのである。

翻つて現下の對米英戰局は、彼を漸次西南太平洋の一角に追詰め、ソロモン諸島の海域に辛くも反攻の據點を死守する彼れ米軍に對して、徹底的擊滅を加へつゝあることは欣快に堪へない處である。

然しながら敵米國はその豊富なる物資と強大なる生産力とを恃んで艦艇、飛行機、その他の武器の増産を天文學的數字を誇示してゐることは決して無視すべきでない。

この敵米國の數字的誇稱に對しては、我れも亦これに對抗するに足る兵器、軍需品の増産に一路邁進せなければ、到底、彼を短期間に擊滅することが出来難いのであるが、この點から考察して當社の有する國家的使命は決して尠くないのである。



## 第一工業株式會社

【所在地】 東京市麹町區丸ノ内二ノ十  
 【電話】 丸ノ内 二、六三二番、九六七番、六四五番  
 五、三九六番

【營業項目】 一、煖冷房・衛生・給水・建築並建築附帶設備工  
 事の請負

【資本金】 金參十萬圓

【拂込金】 全額

【積立金】 金貳萬六千圓

【決算期】 三月 九月

【前期配當】 年六分

【現在役員】

代表取締役 篠原 史郎

取締役 津富賢一 同 豊田節三 同 福井信治郎

同 田島 喜録

監査役 阿波田覺太郎 同 村田三郎

【支店所在地】

大阪支店 大阪市北區會根崎水樂町八

【沿革一斑】

生活を快適ならしめ、衛生上よりも健康上よりも、將又、文化的意義よりするも煖房や冷房などの諸設備は必要欠くべからざる施設である。

續つて現下に於ける我が帝都の斯界を瞥見するに、技術の卓越せる點と施工上堅實且つ迅速なる點よりして當社はその代表的の會社と推すに躊躇しない。

## 日本青化曹達販賣株式會社

【所在地】 市内麹町區内幸町二ノ一（大阪ビル内）

【電話】 銀座 三、四二〇番

【營業項目】 一、青化曹達の統制販賣 一、金屬曹達より誘導せらるる化學工業藥品の統制販賣

【資本金】 金拾五萬圓

【拂込金】 全額

【決算期】 三月 九月

【現在役員】

常務取締役 立松 久雄

取締役 辰澤茂乙 同 佐野隆一 同 安西正夫

同 磯村乙巳

監査役 早野 廣

【沿革一斑】

營業の本據を我が帝都の都心にして事務所街の中心たる麹町區内幸町の大坂ビル内に設け、斯界の權威者を網羅せる重役陣を形成して潑刺たる業務を展開しつゝある當社は、戦ふ日本の統後産業界に於ける特異なる存在といふべきであらう。

全額拂込済み金十五萬圓の資本金は、快して巨大とは云ひ難いが、然し戦時下資本金統制の爲め己むを得ざるところで、當社の聲望と價とは實にその統制販賣に係はる青化曹達並に金屬曹達より誘導せられる化學工業藥品の優秀性に存するのである時局柄切に將來の大發展を期待して己まぬものである。



## 炭礦爆藥安全被筒株式會社

札幌市南二條西九丁目一番地

電話 六一五〇・六一五一番

工場 札幌市北九條東七・札幌工場

事業概要 炭礦爆藥安全被筒製造販賣

取締役社長	南 留 吉
専務取締役	深水 清 澄
取締役	辻村 榮 吉
取締役	川口 常五郎
監査役	山崎 金 藏
監査役	浦島 慶 正



る誇を備設の新最と史歴古

作製門專

目品作製

高壓瓦斯壓縮機  
 真空壓縮機  
 真空ポンプ  
 バルブシート  
 バルブプレート  
 各種スプリング・ガス  
 種(ケット・パッキン  
 鑽山機械・鑿岩機  
 附屬品一式

會社名東京特殊鋼具製作所札幌出張所

札幌市南二條西四丁目四番地

- ◎材料 嚴撰
  - ◎獨特の熱處理
  - ◎納期 嚴守
- 御用の節は御一報次第係員參上  
 致します

電話 三九四五番

本社 東京市城東區大島町二ノ三〇番  
 電話本所二四八二一〇四〇〇番  
 第一工場 東京市城東區大島町二ノ三〇番  
 第二工場 大阪市西淀川區大仁本町二ノ五  
 支店出張所 札幌・富山・大阪・九州・朝鮮



札幌市北二條西三丁目清水ビル内

北海食用油脂株式會社

電話 六〇八五番

工場 札幌市苗穂町一二五

電話 一〇八九番

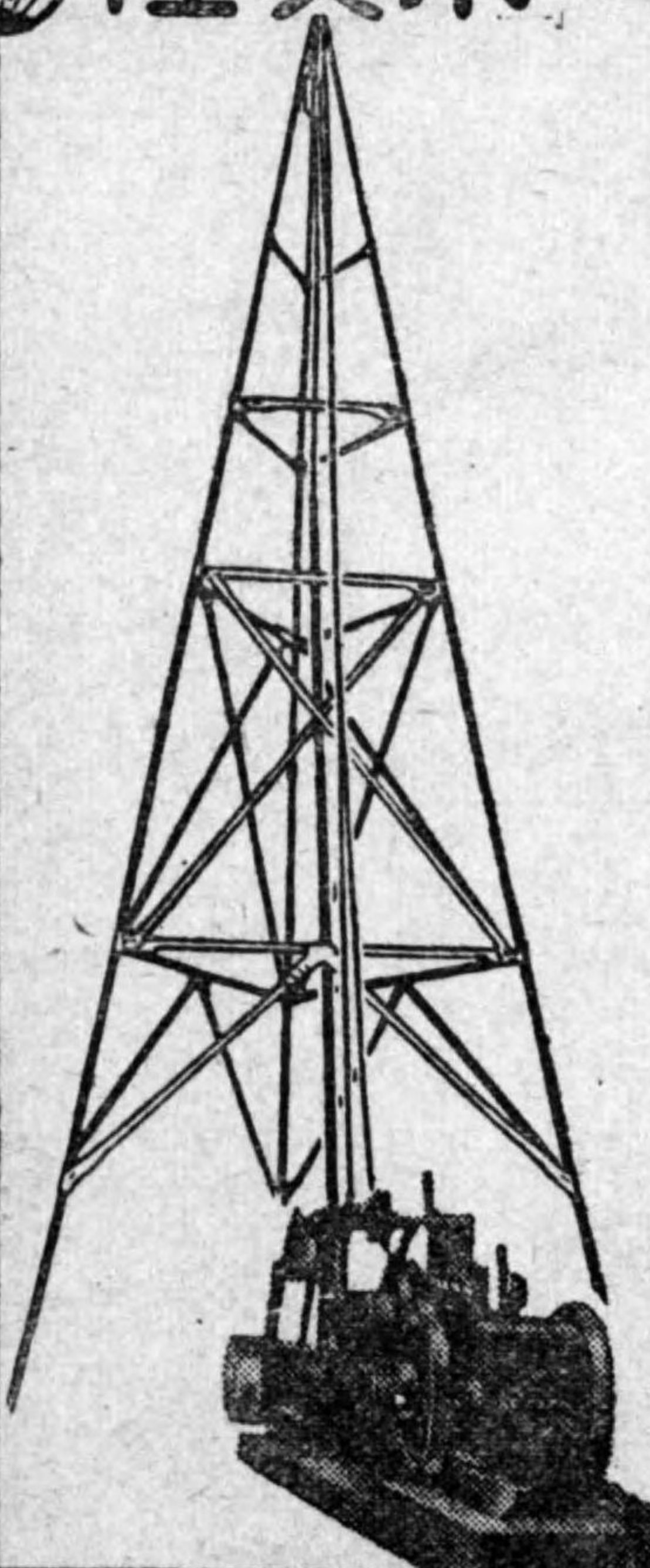




陸奥ボーリング

工 事 部

土木建築・基盤調査・鑛山探鑛・温泉掘鑿  
グラウチング工事・一般ボーリング工事請負



ゴリアボーリング  
探鑛用試錐機

陸奥ボーリング總代理店

大丸商會

札幌市南一條西十二 電話二三〇四番

北四

産業機械統制會員  
車輛統制會員  
日本鑄鋼協議會會員

合名 豊平製鋼所  
會社

札幌市豊平一條九丁目  
電話 代表六二二〇番 六二二一番  
六一六八番

倉庫 札幌市北三條東四丁目五番地・電話五八一五番  
東京出張所 東京市京橋區木挽町四丁目三(泰聖ビル四階)  
電話 京橋(56)五四一二番

北五



# HMC

シリンドリカル

スフェリカル



……主ナル納入先……

- 1. 東京芝浦電気株式会社
- 1. 同社三重工場
- 1. 三菱電機株式会社
- 1. 三井鑛山株式会社
- 1. 住友鑛業株式会社
- 1. 日本鑛業株式会社
- 1. 三菱重工業株式会社
- 1. 株式会社長崎兵器製作所

北海道 樺太 発売元

小樽市色内町三丁目九番地

## 電 商 會 小 樽 支 店

電話二〇七九・三一五八・一三八六・電信番号オタル・カメオカ

本店 東京・銀座

### 北海道再製タイヤー販賣統制株式会社

札幌市北一條東七丁目  
電話 六一二二番

取締役社長 岡平 岡島 勝俊  
 取締役副社長 正岡 田田 恒勝  
 取締役 福内 菊田 信市 太  
 同  
 監査役 賀村 重吉 澤信 市恒 勝俊  
 同  
 出木加鷺中高澤河菊内福正岡平  
 倉下谷田 橋木村地田田岡島  
 村  
 榮正政久 重吉澤信市恒勝俊  
 作行道吉勇雄郎吉義郎郎郎治武



札幌市北二條東七丁目十二番地

保證責任 北海道タイヤー再製工業組合

電話 六一二番

理事長	岡	俊	治
常任理事	福田	恒太郎	
常任理事	中村	澤吉	
理事	關口	澤雄	
理事	岩田	浩也	
理事	藤田	新平	
監事	今泉	貞一	
監事	山内	多一郎	
監事	市村	安三郎	

野村鑛業株式會社

本社 東京市日本橋區通一丁目一番地野村ビル内  
 札幌事務所 札幌市南大通西七丁目一番地  
 イトムカ鑛山北見國常呂郡留邊藥町

今井石崎滿俺鑛

今井作治

小樽市富岡町二ノ一六



土木建築請負業

# 成島組

代表者 土屋 己三男

札幌市南一條西八丁目・電話七八二・七七八・二七五・二六五六番  
營業所 上砂川營業所・電話 上砂川長七・二〇〇番  
美唄營業所・電話 美唄長一〇・二〇〇番  
下蘆別營業所・電話 蘆別三三四番  
出張所 東京市世田ヶ谷代田一ノ七七七・電話 世田ヶ谷 三二七二番

土木建築請負業

# 株式會社 鹿島組 札幌支局

本社 東京市京橋區橫町二丁目二番地  
電話 京橋(56)代表 六二二番(5)

札幌支店 札幌市南一條西十三丁目一〇地  
電話 一六二〇・(夜間) 二八四一番

土木建築請負業



# 菅原組

組長 菅原 正一

本店 北海道釧路市黒金町十三丁目三十二番地  
電話代表島五六四番・六一四・四三四・六六六番  
出張所 札幌市圓山南一條西廿二丁目・電話五〇六四番  
網走郡美幌町新町二丁目・電話 三五番  
北安省克山縣克山南大街・電話 三六一番  
火藥販賣所 北海道厚岸郡厚岸町眞龍町・電話 一六番

北海道岩見澤町五條五丁目



# 株式會社 川口組

取締役社長 川口 常五郎

電話 岩見澤 代表 三六四番  
長 二七二番 二六三番



製材機械・木工機械・機械工具類・製造販賣

日本製材木工機械工業組合員



# 有限 弓野機械製作所

代表 縮役社長 弓野 末吉

本社 札幌市北八條東三丁目八番地・電話三三五・三四五八番

振替 小樽 九七八二番・電略 (ユミ) 又ハ(エ)

工場 札幌市北九條東三ノ四〇・電話三四五八番

産業機器統制會員・車輛統制會員

鑛山・鑛道・土木・電氣・製紙・製材・水道・其他各種工場  
用機械製作販賣・工具類・諸材料品・諸機械油並計器類販賣



# 中山機械株式會社

本社並工場

札幌市苗穂驛前

電話代表 五〇一〇・五〇二二・五〇三三

九〇三三・四三二六・四九二六番

東京出張所 東京市芝區金杉四丁目一丁目・電話三田〇四五四番

出張所 樺太黒須取町本通七丁目十六番地・電話六二三番

鑛山用諸機械製作

産業機械統制會員

# 本多鐵工所

札幌郡琴似町

電話 一四二二三番

各種鑛山機械  
水力タービン

# 遠藤商會

札幌市北四條西十二丁目

電話 四八九一番

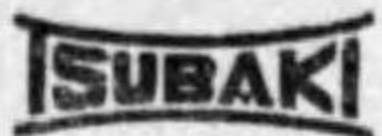


札幌市北四條西三丁目

# 札幌工業株式會社

社長 伊藤善如 豐次  
專務取締役 寺秀太郎

支店 函・札幌・旭川・室蘭・釧路・名寄・北見



チェイン傳動裝置・チェイン輸送機  
チェイン減速機・石油鑿井機  
瓦斯 倫機 關(重量牽引用)

## 株式會社 椿本チェイン製作所

札幌出張所 札幌市北二條西三丁目(越山ビル)・電話 三五・三七五・三六五九番  
本社 大阪市旭區鶴見町六二〇番地・電話 旭 35(六〇〇一)三・四九四八番  
三二一九・三九二四(六番)

札幌市南一條西十九丁目

# 帝國鑛業開發株式會社

札幌出張所

藤本修平

本社 東京市京區木挽町八丁目十番地  
出張所 電話 札幌 五四九七番

# 八田鑛山札幌出張所

札幌市南九條西四丁目四二五  
電話 三一四八番



札幌市北十條西十九丁目一番地

### 合資石山組

電話 四八三八番

強壯劑 才不肝精

北海道總發賣元

### 秋山愛生館藥局

札幌市南一條西六丁目  
電話 六一八〇番

北：一六

北海道廳  
樺太廳  
北海道產業報國會  
各囑託  
產報札幌地方鑛山部會

### 川島興業部

### 川島祥光會

札幌市南四條西二丁目  
電話 五二四一 一 番

室蘭市海岸町二九

### 株式會社 檜崎商店

### 株式會社 檜崎造船所

北海道帶廣 東三條南十丁目十一番地

### 日 北海道製糖株式會社

電話總代表 二七・二八・二九番  
受信登錄 (オビヒロ・ホクト)  
振替口座 小樽 一〇〇一四番  
電話 二六七番 甲  
帶廣工場 電話 標茶 二一 番  
磯分内工場

### 日本油肥販賣株式會社

### 北海道支店

札幌市北三條西七丁目一番地

### 北海道住宅株式會社

札幌市北一條西四ノ二  
札幌商工會議所ビル内  
電話 五〇二〇番

### 日本甘藷馬鈴薯株式會社

札幌支店

支店長 御村長太郎

札幌市北三條西三丁目

本社 東京市日本橋區通リ一丁目二

電話 日本橋五四六・五四七・五五五四  
(國分ビル五階)

北：一七



**工業窯業設計建築**  
**高級耐火煉瓦販賣**

店理代總社會式株瓦煉白川品  
**社會株式工業熱火洋東**  
**所張出幌札**  
番二六二四話電 八西一南市幌札  
北台・屋古名・海上・浜横・京東

**綜合木材工業株式會社**

本社 社長 伊東 羊治  
副社長 由崎 英三  
函館市時住町六十番地  
電話 一五二八番  
工場 札幌市北三條東十丁目  
電話 二二三三番  
十勝國本別驛前  
電話 一八八番  
十勝國中川郡足寄驛前  
電話 一八番  
斜里郡小清水村上札鶴  
驛前・電話 七番

送灰機及鑄山機械設計製作  
一般鑄山機械器具各種販賣  
**北辰機械工業株式會社**  
札幌出張所  
札幌市南一條西二丁目  
電話 一五五八番  
社長 中久木 潔  
本社 東京市日本橋區濱町二ノ三七

**脚氣と腎臓に**  
複合ウイタミンB剤  
**コルヒキス**  
液剤 錠剤 知名薬店にあり

船舶用諸機械鑄物  
船用内燃機械鑄物  
**合名(株)金森鑄造場**  
代表社員 金森 與太郎  
小樽市稻穂町西四丁目六番地  
電話 一五番・工場電話 四七二六番  
振替小樽 七二八〇・電略カヨ  
**△金森朝里第二工場**  
(北海道規格ストーブ製作所)  
小樽市朝里村町字山ノ上一四一  
電話 四二七四番

**國策燐寸軸木工業株式會社**  
社長 長 南條 徳男  
專務取締役 戸栗 實虎  
札幌市北三條東十丁目十八番地  
電話 二二三三番  
**北方興發株式會社**  
社長 長 南條 徳男  
專務取締役 戸栗 實虎  
札幌市南三條西五丁目  
電話 四八四番  
支店 函館市末廣町金森ビル  
電話 二二三三番

北一九

架空索道  
鑛山機械  
**吉岡商會**

札幌市大通西十丁目  
電話 三八三二番

ビクターローヤル映寫機總代理店  
泉商事株式會社 總代理店  
泉橋機株式會社  
日本防災工業株式會社總代理店  
東京芝浦電氣株式會社マツダ製管販賣所  
合資 **三雄商會**  
札幌市南七條西三丁目  
電話 四三七八・振替 小樽三三三  
取引銀行 拓銀札幌本店・道銀札幌支店  
出根所 豊原市東二條南三丁目  
電話 二九四四番

**碌々盤機株式會社**

札幌市北四條西四丁目(札幌驛前)  
電話 長 四八七四番  
本店 東京市京橋區銀座西三丁目一番地  
支店 大阪・吳・小倉・横須賀  
製作部 東京市 橋區新佃島西町一ノ一  
工業部 東京市本所區吾嬬橋一丁目八番地

北一八



機 能 優 秀  
國策ポンプ發賣元

三ツ元産業株式會社

小樽市稻穂町

親 鐵 會  
鉤根土木建築業協會事務所

北海道土木建築工業組合鉤路支部

鉤路市北大通十丁目一番地  
電話 七五三番

鉤山機械諸工具式販賣

旭川モーター株式会社

旭川市四條通十丁目左三三番  
電話 四〇九二・三六三番  
札幌支店 札幌市南條西五丁目  
電話 一六九四番

北海道印刷工業組合聯合會

札幌市南一條西九丁目一

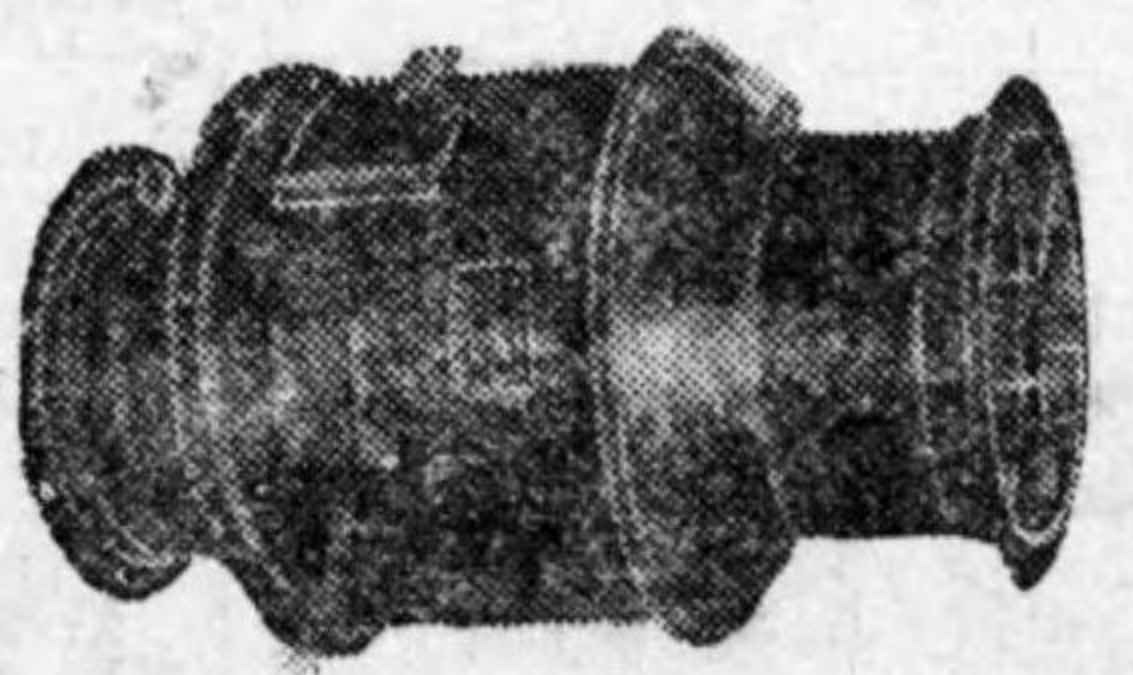
電話 一八六九番

北海道信用購買販賣

利用組合聯合會

會長 黑澤西藏

### 坑内耐爆型電氣機器



局所扇風機

耐爆電灯

株式會社 北都電機製作所

札幌、北3、東8

### 保證責任北海道自動車修理加工工業組合

札幌市北二條南二丁目一番地  
電話 二五九六番

- |      |       |
|------|-------|
| 理事長  | 田井直治  |
| 常務理事 | 片岡殖   |
| 理事   | 伊藤鶴太郎 |
|      | 小田良治  |
|      | 中村忠太  |
|      | 須田俊一  |
|      | 長谷川富造 |
|      | 高橋志智司 |
|      | 安齋源七  |
|      | 小川賢七郎 |
|      | 松山宗國  |
| 監事   | 小山國雄  |
|      | 岡島俊治  |
|      | 川岸久太郎 |

北海道セメント製品工業組合

理事長 川口常作  
專務理事 岡藤一

札幌市北二條西二十丁目  
電話 一一六八番



帝國滿俺クロム株式會社

札幌出張所

札幌市大通一四四ノ六

新東鑛業札幌出張所

所長 林文男

本社 神戸市神戶區播磨町四五澤山汽船内

電話三宮三〇七〇・三三四二・三三三

出張所 札幌市南二條西九丁目添田ビル内

電話札幌(呼)六一五〇・六一五一

事業所 膽振國新入鑛山・日高國振内鑛山

自宅 札幌市南八條西十七丁目

土木建築請負業

丹野組

組長 丹野孝太郎

本店 旭川市二條通五丁目右五號

出張所 札幌市南二條西七丁目・電話二三二三番

室蘭市幸町一一・電話二二二一番

建築請負業

指田組

代表者 齋藤博

札幌市南九條西十一丁目一二七〇番

電話 四五二九番

札幌市南二條西九丁目一番地添田ビル内

龍武鑛業所

鑛主 添田武源

電話 代表 六一五〇番

鑛區所在 北海道久遠郡大樽村字員取湖

鑛種滿俺 (本道屈指の滿俺鑛山)

鑛山業

田中敬造

小樽市富岡町三丁目十八番地

電話 四二一九番

造材・木材業

株式會社 三鑛商店北海道出張所

北海道空知郡砂川町

電話 三四番

有價證券一般現物賣買

北印 清水北次郎商店

北海道 見澤市二條一丁目

電話 二七五番



商工大臣 免許有價證券業

# 富久屋株式會社

店主 岩崎武雄

本店 札幌市南一條西四丁目

電話 二九八・五四五・四七四八番

支店 帶廣市大通西十一丁目

電話 八六六・七三三番

支店 釧路市錦町四丁目

電話 一七〇・一八七番

札幌市南六條西三丁目十番地

# 丸上證券株式會社

電話 一四九七三五六番

ヤンマーディーゼルエンジン製作元  
鑛山機械・土木機械・工作機械

# 山岡内燃機株式會社 北海道出張所

旭川市四條通七丁目

電話 四四二五八三〇

機械製造輸出  
煖冷房請負

# 株式會社 齋藤省三商店札幌店

札幌驛前札幌ビル  
電話 九五六・四六六一番

## 主要製品

△電氣鑛品一切△製紙及パルプ製造用機械△鑛山用機械(特に金山銅山精鍊機具・選炭機並に索道一式)△海陸汽罐及び汽機△海陸キヤタピラートラクター部分品一切△ゴム工業用機械(特にロール機)類△ベルトコンベヤー類・昇装置一切・エレベーター類起重機部分品一切・輸送機械一式△鐵骨建築及橋梁製作架設工事△鐵道機關車及貨車類△製罐及製材諸機械△上記一切の設計及施工

小樽市新富町一番地

# 株式會社 東亞車輛株式會社

(舊社名 株式會社 橋本鐵工所)

取締役社長 廣 戶 忠 吉  
常務取締役 菅 營

有價證券買賣  
株式會社  
金融債

# 富北證券株式會社

札幌市大通り西四ノ一  
電話 三〇五・七〇六番

有價證券業

# 株式會社 大盛證券商會

本社 北海道釧路市南大通り二丁目  
電話 長九五五六番  
支店 帶廣市大通り十一丁目  
電話 長二九一・七五二番

社長 佐木 政吉  
専務 太田 芳市  
常務 蛸子 辛一  
支店長 藥波 泰作



札幌市北一條西四丁目商工會議所内

### 札幌建具工業組合

電話 五〇二〇番  
理事長 河合美佐雄  
専務理事 後藤喜一

釧路市米廣町二丁目二十四番地

### 釧路市漁業協同組合

組合長理事 村岡民藏

### 北海道農機具工業組合

理事長 上村茂樹  
札幌市北一條西三丁目二番地

### 岩内郡漁業協同組合

組合長 岩井治二郎

旭川市一條通十四丁目右五號

### 旭川家具工業組合

責任 電話 三八二七  
理事長 青山千次郎  
専務理事 竹出源藏

創業 昭和十四年四月

## 有價證券業 帶廣證券株式會社

取締役社長 加納佐兵衛  
本店 帶廣市西一條南十丁目・電話一七・四七四・五〇九番  
支店 釧路市北大通り六丁目・電話七一一・二二五七番

有價證券業

## 共榮證券株式會社

眞生 本井 半一 三郎

本店 帶廣市東一條南十二丁目二十番地・電話一〇〇九・五一五番  
支店 釧路市北大通り五丁目・電話五六番



北日本製菓株式會社專務取締役  
北日本農事株式會社取締役社長

# 吉田 吉造

本社 柏崎市驛前  
電話三八・四五五  
農場 市外荒濱  
自宅 柏崎市本町四丁目  
電話四六番

北聯號三本繩復式編袋機製作元  
山岡發動機北海道支店札幌代理店  
各種農工機部分品及製作  
消米聯指定工場取付及修理

北海農機商會 平野武治  
札幌市北四條東二丁目・電話三八一四

# 吳研削株式會社 札幌出張所

札幌市北二條西四丁目(カメラハウス二階)  
電話四四二七番

北海道帶廣市西三條南六丁目<sup>十四、十六番地</sup>

# 株式 一△ 帶廣魚菜卸賣市場

最も有利堅實な貯蓄法

# 野村の投資信託

## 野村證券札幌支店

一口、五百圓  
説明書贈呈  
札幌市南一條西四丁目  
電話代表 六〇八〇番

北海道士木建築工業組合後志支部長  
後志勞務供給株式會社社長

# 講負業 中川久彌

事務所 北海道俱知安町北二條西一・電話一七六番  
自宅 札幌市北一條西十三丁目電話長二七三四番

# 帝國輕合金株式會社

【所在地】 市内豊島區池袋一ノ八〇二  
【電話】 大塚 二二一四・七一九八番  
【營業項目】 一、諸輕金屬部品製作  
【資本金】 金十九萬圓  
【拂入金】 全額  
【決算期】 三月(年一回)  
【現在役員】  
取締役社長 曾我 正雄  
取締役 齋藤 確  
取締役支那人 入江 矩夫  
取締役 宮澤 正康  
監査役 繁山 徳治  
同 幸塚 善五郎  
【創立年月】 昭和十五年二月  
【沿革一斑】  
戦ふ日本に執つて鋼鐵等の重要金屬が主  
流的地位を占むるものとすれば、その他の  
輕金屬類は、それを輔佐する重要性を有す  
るものと云つていい  
この意味から推してこの帝國輕合金株式

會社は、現段階に於ける我が日本の征露完  
遂の爲めには不可缺の分野を擔當してゐる  
ことを認めねばならぬ  
昭和十五年二月の創立に係はるもので、  
經營年数は未だ僅々三年に達したに過ぎな  
いけれども、内容の諸機構が瞭然として充  
實して居り、經營の主旨、方針も亦他の同  
業者間に多く比類を知らざるところと云は  
れてゐるのである  
偕て當社製品に係はる諸輕金屬の部品で  
あるが、孰れも練達せる技術工の手に依つ  
て精魂打ち込んで製作せられるもののみで  
あるから、技術の優れてゐることは勿論、  
その性能の卓越してゐることも、その耐久  
力の強靱なることも容易に他の追隨を容さ  
ないものがあるのである  
これは一に經營主腦者の協力一致してゐ  
ること、技術的識見が非凡であること、  
に因るのは云ふまでもないが、更に又多

くの技術者、工員諸君が産業興國の精神に徹  
して一致團結してゐるからに外ならないので  
ある  
云ひ換へれば曾我社長自らが工場内に常に  
見廻つて陣頭指揮を行ひ、如何なる微小の製  
品と雖も職ふ日本の武器であり國力であると  
の信念を以て懸命の努力を拂つてゐるからに  
外ならない  
曾我社長は資性豪快にして瑣事に拘泥せず  
寛容の人であるが、他面、翼々たる周到の注  
力を有し、所謂斷斷の技術家としても亦一と  
眼の地帯を開拓した稀に見る材幹である  
尙ほその他重役諸氏は何れも夫々特色を有  
してゐるが、取締役兼支那人の入江矩夫氏の  
如き新進鋭の人物が實際上重業演習の中心  
となつて挺身しつゝあるから當社の將來に於  
ける發展性は大に刮目して俟つべきものがあ  
ると云はねばならぬ  
國局の益々擴大深刻に迫いた今日、即ち健  
闘を祈る所以である



# 青森縣土木建築工業組合

【所在地】 青森市大字浦町字橋本五一

【電話】 青森 二六一二番

【目的】

一、本組合は土木建築工業の改良發達を圖る爲め共同の施設を爲すを以て目的とす  
 一、本組合の地區は青森縣一圓とす

【現在役員】

理事長 成田 文吉  
 顧問 藤田 重太郎  
 同 山崎 岩男  
 其 他

【沿革一斑】

東北地方の雄鎮青森縣の縣勢は、数十數年來實に目覚しき發展を遂げつゝあるは、刻下の如く國を擧げて聖業完遂に一路邁進しつゝある時局に照らして、誠に力強き極みと云はざるを得ないのである

こは一に縣下に於ける諸種の産業が蔚然として隆興して來たのに原因してゐるが、

各種産業を興せしめる抑もの根柢となるものは云ふまでもなく土木工業であり建築工業である、この同點よりすれば當土木建築工業組合は、隆々たる青森縣の縣勢を振起せしめた源動力であり推進力であると評しても強過當ではあるまいと信ずる

當組合は前掲の如き目的の下に設立せられたもので、組合員の資格は左の如く規定せられてゐる

第五條 本組合は地區内に於て包括請負に依り土木工事業又は建築工事業を業とし直接國稅年額百圓以上を納むる者を以て組織す

と總則に明記せられてゐる通りである、尙ほ本組合の役員も理事十三名、監事八名と規定せられて居り、紙幅の関係で遺憾ながら本欄にはその代表者のみヲ摘記するに止めて置くのである

理事長成田文吉氏は土地の名門で慶應二年六月十二日を以て生れ明治二十七八年即ち日清戦争の頃既に獨立して斯業を創始した

爾來、官廳、陸海軍、鐵道、學校、民間等凡ゆる方面の大工事を請負ひ堅實なる施工と優秀なる技術を膾炙はれ信用年と共に加はり來り現在に至つたものである

現在土木建築請負業成文組の統帥で、他に成文製材工場をも經營してゐるが、その人望の厚きこと、その業勢の潑刺たることは他に多く比肩する者がない

現に氏が關與挺身してゐる公務は左の通りである

- 一、青森縣土木建築工業組合理事長
- 一、青森縣製材業組合幹事
- 一、青森縣木材業組合評議員
- 一、青森縣製材協同評議員

以上の外尙ほ多數に及んでゐる、これを一瞥した丈けでも氏の絶倫なる精力と、隆々たる瞻望とを想するに難くあるまいと思ふ  
 目下時勢増進に邁進しつゝある際、切に氏の健康を祈らざるを得ない

# 近 藤 組

【所在地】 八戸市鍛冶町六四

【電話】 六、七九一

【營業項目】 土木建築請負、砂利、石材

木材販賣

【沿革一斑】

苟くも青森縣下の事業界を談する者で、土木建築請負の近藤組を口にせざるは恐らくなからうと信ずる。

それ程、近藤組の事業は縣下に於ける事

業界に異彩を放つものであり、その潑刺たる業勢は驚嘆に價する處である。

營業種目

一、土木建築請負

一、砂利、石材、木材販賣

右の如き二大項目に對して孰れも隆盛且つ廣汎なる營業網を布いてゐる、こは偏に組主近藤元太郎氏の雄渾なる精神力と、不結退轉の努力の品に外ならないもので、氏

は現に次の如き事業に餘力を割いて參與し

、夫々、非凡なる活躍を展開して功勞赫々

たるものがあるのである。即ち八戸自動車

有限會社々長、土木建築株式會社三八組社

長八戸商工會議所議員、八戸製材株式會社取

締役等の要職に就任し、その信望の厚いこ

と名名の隆々たることは名實共に八戸業界

の元老株である



# 布施幸藏

〔生年月〕 明治二十九年一月五日

〔出身府縣〕 新潟縣

〔原籍〕 新潟市上大川前通五番町

〔現住所〕 同上

〔電話〕 新潟 一二九二番

〔経歴〕

新潟縣は地域の廣大なる點に於ても、米産地であり雪の國である點に於ても甚だ有名である。

他而、近來に於ては又各種の工業勃興に依つて銃後産業の重要據點としても生々濠地の新興黨黨派が如きものがあるのである。

新潟市の布施幸藏氏の事業は、叙上の如く新潟縣の事業を論ずる上に於て決して看過してはならぬところであり、老舗株の隨一と云つて差支へないのである。

同家は土地切つての名門であつて、先代より土地の信望を一門に集めてゐる巨豪であつて、當主幸藏氏はその智を享けて生れたのは明治二十九年一月五日である、即ち本年四十八歳といふ男盛りの壯氣横溢たる年輩に達して居り、胸中に勃々たる愛國的至誠は父祖傳來の事業運営の上に顯然と現はれてゐるのである。

今や日本海は波濤かなりと雖も微妙なる國際戦局の推移に照らせば、極めて重要な水域と云はねばならぬ、その日本海最高の名港新潟市の分擔する國家的使命は誠に甚大なるものがある従つて布施幸藏氏の活躍に期待するところ又大なりと云はねばならぬ。

# 寶製藥化學研究所

〔所在地〕 千葉縣市川市下二六九四

〔電話〕 市川 九〇三番

〔營業項目〕 一、化學工業藥品 一、新藥 一、醫藥製品

〔代表經營者〕 山崎 敏一

〔個人資本〕 三〇〇、〇〇〇圓

〔出張所〕

大阪出張所 大阪市西區京町堀通四丁目

〔沿革一斑〕

帝都に近接せる市川市の産業的發展は、大東亞戰爭勃發以來、急旋回を以て一大進境を出現したことは、世人の周知する通りであるが、こゝに現況を概略紹介せんとする寶製藥化學研究所は、大戦勃發に先立つて創設せられた新興の意氣旺なるもの、隨一である。

抑も當研究所は、昭和十四年三月より『グリストリン』製造を開始したことに發祥してゐるのであつて、その後、製品の價値が一般に理解せられるに及んで益々その需要を激増し來り、遂に創業の地の狹隘を告げたので現在地を擇んでこれに移轉擴張したのである。

現に、醫藥及び工業方に『グリセリン』代用品として重視せられ、日を送ひ、月を送つて需要を増加しつゝあり、洋々たる前途の光明に光輝いてゐるのである。之一に經營者山崎敏一氏の良心的經營と産額精神の旺盛なる證左と云つて差支へあるまいと思ふ。

# 株式會社 上田梅三郎商店

〔所在地〕 市内四谷區坂町 二二三

〔電話〕 四谷 四五七三 四二二二番

〔營業項目〕

一、銅及鐵屑 一、鐵道用制輪工

一、其他礦物製品 一、窯業原料

(ベントナイト)

〔資本金〕 金十五萬圓

〔拂込金〕 全額

〔積立金〕 金二百圓

〔決算期〕 十月末日

〔現在役員〕

代表取締役 上田 一

取締役 小笠原 豊

同 辻井 克

監査役 上田 梅三郎

〔出張所々在地〕

大連市山縣通り五八四(正隆ビル内)

上田商店出張所

〔沿革一斑〕

戦ふ日本 勝ち抜く日本の現状に照らして

最も必要不可欠のものは何か、と云へば何人も銅であり鐵であり鐵屑であることは、異口同音に答へるところである。

今や日本は百年の宿敵米英を正面の敵として徹底的に撃滅の軍を進め、彌が上にも皇軍の武威は全世界を震撼せしめてゐるのは、一億國民の感謝感激に堪へないところである。

然しながら戦局は西南太平洋の一角ソロモン海域を中心として、愈々持久戦の様相を呈して來た事は周知のところであつて之を突破して米英を完全に東亞の天地より驅逐することは征戰完遂の最終的目的であるが、夫には尙ほ一段の成が前線銃三の一致團結を強化し生産力の増強を必要とする事は云ふ迄もない。

その生産力増強の基礎となるものは何と云つても銅、鐵及び鐵屑の必要を第一義とし、先決條件とすることは、これ又言を俟たざるところである。

當店は夙に斯業を創始して都下に於ける老舗的存在として汎く信用を博して居り、商取引の營業的範圍も頗る廣汎に亘つてゐる優良商店である。

従つてその營業の好成績は單に當店の私的發展を意味するばかりでなく、時局的色彩を多分に有してゐることは蔽ふべからざる事實であつて、當店が今日營業首腦者の重役諸氏を初めとして全社員から使用人の一人々々に至るまで、商業祖國の愛國的熱誠を以て減私奉公の實踐に、一致團結して邁進しつゝあることは、吾人の大に意を強うするところと云はねばならない。

時局は刻一刻と深刻の度を加へつゝある現下の諸情勢に鑑みると、當店の益々發展的活躍に負うところ甚だ大なるものがあるのである、切に新發展の開拓を待望して已まぬ所以である。



# 日商株式會社

【所在地】 本社 大阪市東區今橋三丁目  
三十番地日商ビル

【支店及出張所】

東京、神戸、名古屋、下關、八幡、吳、  
臺北、バスオ、京城、大連、新京、奉  
天、北京、天津、青島、上海、南京、  
蕪湖、漢口、厦門、廣東、孟買、甲谷  
陀、スラバヤ、倫敦、紐育、ロスアン  
ゼルス

【電話】 本社、代表北濱六一〇一―一九

【營業項目】

世界重要商品の交易配給金屬、纖維、  
機械、化成品工業經營投資、備船、保  
險代理業

【資本金】 七百五十萬圓（全額拂込）

【積立金及繰越金】 二百三十八萬圓

【設立年日】 昭和三年二月八日

【昭和十五年取扱高】 一億六百五十萬圓

【現在の重役】

專務取締役 高 畑 誠 一

專務取締役 永井 幸太郎

取締役 北濱 留松

同 下坂 八郎

同 楓 英吉

同 吉田 秀太郎

同 西村 政雄

同 監査役 小川 實三郎

同 多賀 二夫

同 森本 實

【工場】 織維工場

岡澤工場

愛知縣中島郡岡澤町大字高御堂一番地

高石工場

大阪府泉北郡高石町南四四一

同分工場

大阪府泉北郡高石町南一、〇〇〇番地

宮田工場

長野縣上伊那郡宮田村三、一三二番地

一宮工場

愛知縣中島郡今伊勢村新神戸

岡崎工場

愛知縣額田郡山津町大字鴨田字田起三三

番地

機械工場

株式會社東洋機械製作所

名古屋市昭和區花目町二丁目二六番地

【沿革一斑】

當社は神戸市鈴木商店營業部の機構及内外  
取引先を網羅繼承し併せて元鈴木商店の貿易  
部門中、棉花、絹糸布、毛類其の他諸織維の  
輸出入に従事せる元株式會社日本商業會社を  
改組發展せしめて設立せるものにして世界重  
要物資資源の輸入、各種重要商品の配給交易  
金屬、纖維、機械、化成品の製造其他事業  
の經營投資備船及保險代理業に従事するを目  
的とし資本金は當社創立當初金一百萬圓（全  
額拂込）なりしが、爾來、事業の健全なる發  
展に伴ひ、昭和九年二百萬圓を増資して三百  
萬圓（全額拂込）となり更に昭和十二年二百  
萬圓を増資して五百萬圓（全額拂込）となり  
次いで昭和十六年二百五十萬圓を増資して現  
在七百五十萬圓（全額拂込）となりたり

# 株式會社坂本商會

【所在地】 向島區寺島二ノ五ノ三

【電話】 墨田 一四一九、二四一九

【營業項目】

坂本式サツシュ、板金鋸工事請負、旭  
暗幕装置、波型天窓等

【支店工場の所在地】

第一工場 向島區寺島二ノ五三

第二工場 葛飾區本田町

支店 大阪市此花區吉野町二丁目

【沿革一斑】

帝都の江東一帯に於ける工業地帯が近來  
頓みに、活況を呈し來つたのは、固より事  
變の影響に依るものと云はねばならぬが、  
又一面には生産都市たる東京の自然的趨勢  
と看做すべきである。

而して斯る新興工業國內に於て、特異な  
る發展を遂げつゝあるのは外ならぬ坂本工  
業株式會社である。

社長坂本氏は同時に株式會社坂本商會を  
も經營し、兩々相俟つて氏の非凡なる活動

能力を遺憾なく發揮してゐる。

先づその經營種目を掲ぐれば次の通りで  
ある。

【營業種目】

一、坂本式サツシュ

一、板金鋸工事請負

一、旭暗幕装置、波型天窓

右の如きもので、施工の巧緻で且つ堅牢

なることは全くその専門的會社の名を辱し

めぬものがある。

抑も坂本社長は東京府の人で、明治十五

年十二月十九日を以て西多摩郡氷川村に生

れた、興修完了後、疾くも工業界に雄志を

舒べんと欲し、技術の練磨を終へると板金

鋸工事等を創業したが、爾來孜孜として研

鑽を重ね、遂に幾多の專斷特許を獲得する

に至つた。

これ固より氏の獨創性に富む天分の然ら

しめるところに相違ないが、又、一つには

氏の寸時も倦むところを知らない精勵振り

にも依ることゝ云はねばならぬ。

斯くして大正元年九月疾くも獨立して坂本  
商會を設立したのである、それから今日まで  
實に三十有餘年の久しきに亘り一意専心、事  
業そのものを自個の天職となし、終始渝と  
ころなく今日まで努力をなして遂げたのである  
その間、時代に即應すべく個人經營の組織  
を現在の如く株式會社に改めたもので、現在  
にては「坂本式サツシュ」の製造元として遠  
近に暗傳せられてゐる。現に氏は叙上二會社  
の社長たる外に、旭レール株式會社社長、旭  
暗幕株式會社社長等を兼ね、擔當自在の手腕  
を揮つて斯界に聲名を轟かしてゐる。

尙ほ坂本工業株式會社は左記の如く内外各  
種要地に代理店を特設してゐる。

【出張所々所在地】 札幌、名古屋、小倉

京城、大連、臺灣、泰國

以上は坂本社長の略歴を素描したに過ぎな  
いが、これに依つて氏が如何に活動家であり  
獨創家であり、且又自己の運命の開拓者であ  
るか凡そ推知するに、く方からと思はれ  
る。今や日本は内に外に極めて重大なる國  
際形勢に對して、日に日に堅固化してゐる國  
際形勢に對してよく國歩を過らざらんとな  
る。國民全體殊に産業人の奮起こそ要望せら  
れてゐる。



# 三興株式會社

【所在地】 大阪府東區北濱五ノ三五  
 【電話】 北濱 三六〇一、八、三二三  
 四、七三二一、二八七  
 三九八四

【支店工場の所在地】

東京支社 麹町區丸ノ内二ノ二八、岸本ビル

電話丸ノ内七二四二一五、六

二三八

支店 大阪市安土町西長堀、船場、本町

京極

【沿革一班】

昭和十六年九月十六日を期し、伊藤忠商事株式會社、株式會社丸紅商店及び株式會社岸本商店の三社は時局に即應して合併し新たに三興株式會社を設立するに至つた。其の事業とする處は輸出入及び國內販賣並に外國間の貿易に従事する他、諸種の重要産業に投資し、直接間接其の經營に參畫するにある。即ち營業種目を擧げると、物品販賣業、問屋業、運送業、仲立及び代理業、工業藥品、醫療藥品、膏藥、膏藥部外品及び毒物劇物の製造販賣、計器器、酒精及び酒精含有飲料の販賣、鑛山の經營並に鐵鋼及び其の製品の製造販賣等の廣汎多岐

【資本金】 三千六百萬圓  
 【拂込金】 二千八百五十萬圓  
 【現在の役員】 取締役會長 伊藤忠兵衛  
 取締役社長 伊藤竹之助、同副社長 岸本彦衛、常務取締役 藤野三二、功力寅次、三木謙吉、門田勝次郎  
 取締役 岸本吉左衛門、仁木次郎、伊藤茂八郎、矢守治太郎、奥村佐久三、小菅宇一郎、松井傑次郎、大山掛男、新室喜作  
 監査役 松岡潤吉、小林中、岸本金三郎  
 矢部豊次  
 相談役 平生三郎、松本丞治

# 厚型スレート株式會社

【所在地】 市内日本橋區室町三ノ一ノ四

【電話】 日本橋 二五七〇 五三六九番

【營業項目】 一、厚型スレート製造

【資本金】 金十五萬圓

【拂込金】 金十萬圓

【決算期】 五月、十一月

【前期配當】 年六分

【現在役員】

専務取締役 杉原 二郎  
 常務取締役 山内 平四郎  
 取締役 井上 房一郎  
 同 井上 昇  
 同 茂木 一治  
 同 井上 正三郎  
 同 井上 米三郎  
 同 井上 長次郎  
 同 丹羽 貞  
 同 戸塚 仁一

【沿革一班】

専門的多年の研究を以て厚型スレートの

製作に成功を告げ、而かもその製作に當つてこれ又積年の技術的練磨を遂げて優秀無比なる良質の厚型スレートを完成したのが即ち當社である。

何よりも當社としての強味と誇るべき特色は、粹一無難なる専門的工業であることである。

専門こそ最も強い技術上の戦略と云ふべきであつて、當社が創立以來、今日まで終始一貫して斯業に専念し、全社を駆けてそれが改善に總能力を動員してあることは、今日當社製品をして斯界の最高峰の地位を與へた最大の原因であると云はねばならぬと思ふ。

この不動不朽の社是を以て、一業に専ら精進し來つたことは、この一事に照らし見ても、如何に當社の營業方針が確乎として定められ、國家第一主義の産物精神に依るものであるかを想像するに難くない。

現取締役茂木一治氏は創業以來、専務取

に亘つてゐるのは、流石に從來の歴史を誇る伊藤忠商事、丸紅商店並に岸本商店を統合したものであることが肯づけられる。而して當社の主體たる伊藤忠商事の事業は丸紅商店と共に先代伊藤忠兵衛氏の遺業にして明治初年の創業、元個人經營なりしを大正三年伊藤家一族に依り組織せられたる伊藤忠合名會社の經營に移され、更に大正七年同社の業務の一部を分離して伊藤忠商事を設立したもので、當初は絹糸雜貨等を主としたが其後棉花、人織、バルブ等の織造工業用原料に其製品一切を取扱ひ、殊に車變前後よりは重工業及び化學工業への投資並に原料及び製品の取扱にも力を傾注してゐた。又丸紅商店は大正七年伊藤忠合名會社より伊藤忠商事會社の姉妹會社として分離設立したもので、當初は吳服羅紗の國內販賣を主としたが、次で販路を海外に伸長し取扱品も各種糸織物類の外織雜貨金物藥品食料品等に迄及んでゐた。次で岸本商店は明治維新期岸本吉兵衛氏の創業したもの、同家の個人經營なりしを大正七年株式に改組、以來鐵鋼其他各種鐵鋼其の製品等の市販及び直輸出を業として今日に至つてゐたものである。

締役として活躍し今日の社礎を築き上げたのであるが、昭和十七年七月第一線より退陣して杉原二郎氏にその地位を譲つたものである。新専務取締役たる杉原二郎氏は新進氣鋭の士で、茂木前専務に優るとも劣らぬ偉材であるから、當社の將來は洋々として多彩多偉が約束せられてゐると看做して差支へない。

これを要するに、膠ち抜く爲めに物心兩面より全國力を總動員してゐる現下の我が日本は、武力に於て最早や完全に米英兩國を擊破する態勢を整へたのである。

只、將來を爲測して一段と緊張せねばならぬことは、經濟戰に對する堅陣の構へである。この經濟的堅陣を築き上げるには、その根柢となるものは云ふ迄もなく生産機關の増産と改善でなければならぬ。

當社は營業日腦者たる各重役諸氏は勿論、製作に携はる一従業員に至るまでも産物精神が徹底してゐることは、時局の現状と照らし合はせて吾人の最も力強さを感ずる一事である。



# 株式會社 大 行 社

【所在地】 市内大森區大森九ノ四八三二  
 【電話】 大森 四二一五、八九六九  
 九二九五、九三〇六番

【營業項目】

一、TK新型超遠心噴霧乾燥装置  
 一、遠心清淨機、ミルク分離機、油分  
 分離機、油濾過機、酵母分離機

【資本】 金三十萬圓

【込金】 金二十六萬四千圓

【算期】 毎年十一月

【在役員】

取締役社長 岩井 宏藏  
 代表取締役 西山 順之助  
 同 山本 三之助  
 取締役 山本 十重松  
 同 竹森 壽造  
 監査役 岩井 千代

【沿革一斑】

本邦に於ける遠心界の先覺者であり遠心機  
 の創始者として雷名を馳せた偉材であつ

た故岩井社長は、不幸にして病魔の冒すところとなり、今春他界せられたのは斯界の爲め誠に痛惜に堪へないところである。然しながら新社長岩井宏藏氏の輔佐役として敏腕家であり識見高い西山順之助氏並に山本三之助氏その他の諸重役諸氏があり微動たもしない牢平たる社礎を築きあげてゐる。

資本金は三十萬圓を擁して餘裕綽々たるものがあり、當社獨得の多年研究を重ねた技術と、練磨した施工方法を遺憾なく發揮したの如き諸種の製作品を市場に提供し、嘖々たる好評を博してゐる。

即ち、主としてTK新型超遠心噴霧乾燥装置、遠心清淨機、ミルク分離機、油分分離機、油濾過機、酵母分離機等である。

叙上の諸種分離機は全く他社などの追隨を許さぬものがあり、本邦産業界の誇りと謳はれてゐる優秀品である。これは一に故社長にして創始者たる岩井

氏の發明創案になれるものであつて、我が工業史上に不滅の一頁を占むる殊勳を樹てた功勞者と云はねばならない。

故岩井社長の病歿は實に斯業の爲め一大損失として斯界の人々から愛惜せられてゐるところであるが、幸ひ現社長岩井宏藏氏はよくその遺志を尊重し、その遺業を繼承して聊かも營業上動搖を來たさざるばかりか、益々、事業の擴大發展を實現し當社の名譽を愈々昂めつゝあるのである。

斯くの如き社運の進展は、これ全く新社長の輔佐役として西山、山本兩代表取締役があり孰れも斯界の權威で高邁なる識見と燃屏なる事業經營力とを有するからである。

目下、我が日本が大東亞戰爭を大勝利の裡に完遂中であつて、米英百年の惡勢力を東亞の天地から徹底的に掃蕩し、東亞諸民族をして本然の姿に還元再起せしめたのであるが、これが完成には産業の開發こそ先決問題である。

斯る意味からして當社の如き特殊工業の分擔する役割は極めて大なるものがある。因に社長は産業機械統制會々員である。

# 株式會社 小 管 鐵 工 所

【所在地】 市内芝區三田四國町二

【電話】 三田 一〇一七・三八九四番

【工場所在地】 市内蒲田區萩中町六九二

【電話】 羽田 三五九 六六八番

【營業項目】 一、陸海軍方面用品製作

【資本金】 金十九萬圓

【拂込金】 全 額

【決算期】 毎年十二月

【現在役員】

取締役社長 中島 周雄  
 専務取締役 大竹 芳之助  
 取締役 小管 泰治郎  
 同 小管 幸夫  
 監査役 古山 武一郎  
 同 小谷 喜藏

【沿革一斑】

多年、小管泰治郎氏の個人經營として發展し來つたが、昨年來同氏は病魔の爲め第一線より退陣し、常務取締役中島周雄氏に社長の椅子を譲つたのは本年二月である。

叙上の如く、當社は小管氏の事業として年來牢平たるその基礎を築き上げたものであつて今後に於ける發展力も實にこの確固不動の社礎より生れ出づるものと見て差支へない。

次で本社の事業内容に就ては、陸海軍々部方面の用品であるから、明確には記述すべくもないが極めて精緻巧妙なる技術を遺憾なく發揮してゐることはいふまでもない處だ。

前述の通り、製作機關たる工場は蒲田區萩中に特設し、内容の設備は萬全を誇るほど整然たるものである。

併かも従業員は何れも熟練した技術の持主のみであることだ、それと社是の堅實主義が全工場に徹底してゐること、産物精神の燃屏なること、がその特色として大書すべきところである。

それと、今一つ是非記すべきことは芝區三田四國町の本社にも亦精勵家を以て聞え

てゐる多くの有爲有能の社員が晝夜の別なく社務を執つて、一意専念、職域奉公に邁進しつゝあることである。

この製作と營業の兩機關が全く渾然一致してお互に連絡を保ち、繁忙なる業務の運營に聊かも遲滞するところない、活潑な業勢を展開してゐる。

今や我が國は米英兩國を徹底的に擊破し、東亞の天地に百年來侵蝕した彼等の牙城を粉碎し、東亞本然の眞姿に還元せしめんとするのである。

この振古未曾有の聖業を完遂するには、銃後に於ける當社の如き精巧精密なる機械の製作が最も重大なる役割を持つことはいふまでもない。

斯る緊密なる關係に想到するならば、當社々運の如何は延いて我が國力の消長に至大なる影響のあることを知らねばならない。

幸ひに中島社長を初め大竹専務、兩小管取締役、古山、小谷の兩監査役何れも國家的意識と奮闘的精神の所有者であるから、公益優先、國家奉仕の赤誠を以て終始一貫してゐる處に吾人は力強さを覺えるのである。



# 合名 大洋カーボン製作所

【所在地】 大森區馬込二ノ西三ノ二五

五九

【電話】 大森 三九六七番

【營業項目】 カーボン製作

【現在役員】 代表社員 坂戸慶吉 同 熊倉三郎

【沿革一斑】

帝都にカーボン製作業者は、必ずしも少くないが、品質の卓越

性に於ても、技術の巧緻にして耐久力の強い點に於ても、更に價格の低廉なる點に於ても、斷然、一頭地を抜いて他を壓倒する優良品は、即ちこの大洋カーボン製作所の製品である。

謂はゞ、當製作所の製品は東都斯界のナンバーワンであつて正に最高峰を占むるものと云ひ得る。

然らば何故かくの如き優越的價値を昂め得たかと云へば、只にその専門的研究を重ね来たばかりでなく、不斷に科學的檢討

を怠らず、歐米諸國の該品を比較研究して、更らに獨創的技術を發表し、常に良心的な營業方針を堅持してゐるからに外ならぬ。

一體の工業は支那事變以來、専ら重工業

化し、一部の平時産業はおのづから隆昌を低調となつたのに比し、戰時色の濃厚なる

重工業は急用度を以て股脈を極むるに至つ

たことは、何人も熟知する通りであるが該カーボン工業に於ても事變の影響が極めて甚大であつたことは到底否まれない處である。

然るに能くこの變動期に際會して、善處し益々その價値を發揮し、斯業を通じて報國の一途に邁進しつつあるのは、流石に斯の白眉たる威力と信用と價値とに依るものと見て差支へないと思ふ。

# 井上内燃機興業株式會社

【所在地】 久留米市大石川三三

【電話】 久留米 二二〇五・四〇一九番

【資本金】 金十五萬圓

【拂込金】 全額

【決算期】 二月

【現在役員】 取締役社長、井上 氏

【工場設備】 第一工場 機械、航空エンジン加工製作

【沿革一斑】

久留米市の工業界を論議する場合に、是非見落してはならぬのはこの井上内燃機興業株式會社である

何となればその製作技術の卓越してゐることは勿論、その施工工程の整然として能率的なること、期日の厳守迅速なること等、一として他社を凌駕せざるはなからである

現在、本社及び第一工場の總敷地は八百餘坪を算し、第二工場はこれ又千七百餘坪に達する甚大なるもので總て新施設が完備してゐるのである、資本は目下のところ金十五萬圓であるが目下一擧に四十五萬圓増資の計畫中であるから、これが實現した暁に於ては實に總額六十萬圓に達する筈で愈々活潑にして強力なる業勢を展開することは火を賭するよりも明かな處である、これは偏に井上社長の献身的努力と奮闘精神の確固なる成果と云はねばならぬ

# 日向農園 西村春生工務所

【所在地】 宮崎市 中村町四の六九

【電話】 宮崎 一七五番

【營業項目】

一、機械考案設計製圖、水道、蒸気機、配管工事、各種機械、農具修理、一、浴室、屋内同保溫工事、一、西村式温室製作、一、汽機振動生設備、ダイヤル工事、各種風呂釜設計製作、各種設計煉瓦工事

【所長】 西村 春生

【所長略歴】

宮崎市の新興工業界として名を馳せつゝある西村所長は、昭和四年福岡縣立八女工業學校を卒業し、宮崎市共益舎鐵工所に二ヶ年間勤務し同六年には疾くも獨立して種子農具店日向農園を創立した程の獨立心の旺盛なる新鋭である、一方獨創力に富み温室ポイラー、鋸屑籠の研究考案をなし特許數千を得得してこれが製作販賣を開始した、尙ほ餘力を割いて高千穂製作所の囑託となり漸次重視せられて重需品部長の重荷を占めたが、同十六年五月辭して家業に専念した

尙ほ特記すべきは昭和十年陸軍特別大演習のみぎり、畏くも御幸に際し献上品御栽培所温室用として西村式温室の指定御採用の光榮に浴した、翌十一年には全國三百萬青年團員の最高名譽大日本聯合青年團優等賞を授與され、同十二年には宮崎縣第一回發明創案品展覧會に於て知事より最高表彰状を受く、又同十四年及十六年の二期に亘り帝國發明協會宮崎支部評議員に推薦せらるゝなど其他名譽表彰は一々枚舉に遑かない



## 樺太定置漁業水産組合

【所在地】 樺太豊原市大字豊原字東一條南四丁目一番地  
 【電話】 豊原 二二〇四番  
 【現在役員】 組長 片岡壽龜 副組長 畑木仁三吉 同 金澤  
 晋之助 評議員 佐々木魚種株式會社 同 株式  
 會社田中商店 同 荒田入吉 同 合名會社島崎  
 商店 同 武澤常吉

### 【沿革一斑】

當組合の發祥は舊幕時代松前藩當時に端を發し、今より二百五十餘年の往昔に溯る、然し業者が有機的に結合したのは今より約五十年前、即ち樺太の露館時代明治十三年に起り當時は薩摩島出稼漁業組合と稱した

爾來、幾多名稱の變更を経て大正十四年三月二十七日を以て現稱の如き樺太定置漁業水産組合と改稱したのである

今當組合の業務中の要點を抄録せば次の如くである  
 一、漁撈製造及養殖の調査指導に關する事項 二、漁業用鹽並收穫物の調査に關する事項 三、鮭、鱈、鱒、の養殖保護に關する事項 四、販路の調査に關する事項 五、功勞者表彰に關する事項

その他合計十項目に分れて居り、何れもこれを實踐に移して着々所期の目的を達成し業績顯著なるものがある

## 銚子鐵道株式會社

【所在地】 千葉縣銚子市新生二ノ二九七  
 【電話】 銚子 三三六番  
 【資本金】 金三十三萬七千五百圓  
 【現在役員】 取締役社長 大里庄治郎 取締役 山口 英九郎  
 同 土手伊平 同 吉原 隆治 同 松本 賢治  
 監査役 井上 保 同 渡邊賢造 相談役 濱口 儀兵衛

### 【沿革一斑】

當社は昭和十六年十一月三十日に於て第二十四回の考課狀を公表せるほど由緒ある私設鐵道中の白眉であつて房州に於ける陸路交通の動脈を扼する重大性を帯びてゐる

從つて當社の消長は單に一私鐵會社の盛衰を物語るばかりでなく、實に我が國全體の交通能力に至大なる影響を及ぼすことは何等疑ふ餘地を有しない處である今昭和十六年度に於ける營業成績を検討するに年六分の株主配當を行ひ、剩餘金は後期繰越金となし専ら社礎の強化に主力を注いでゐる點は特に留意すべき當社の特色である

今や運輸能力は謂はゞ國力そのものの如く緊要であつて、官私を問はず交通機能の國家の戦力増強に供さねばならぬ現狀に鑑み當社の堅實なる營業方針は大に吾人の意を得たるものと云はねばならぬ

## 長岡市役所

【所在地】 新潟縣長岡市大手通り二丁目  
 【電話】 長岡 二、〇〇一番  
 【市長】 松田 耕平  
 【沿革一斑】

長岡市は廣袤八百方里なる大新潟縣の中央信濃川の右岸に位し、殆んど新縣の中央を占め北陸屈指の名城である  
 昭和十六年現在の戸數は二一、三三六、人口男三二、二三一、女三三、七六四、合計六五、九九五人を算してゐるが年々増加の兆を呈してゐる

抑も當市の起源は明瞭でないが信濃川に依つて形成せられた岡で、沮洳の時代が最も長かつたもの、如く前身は今の藏王町である、茲は元股信大川端と稱し中古以來藏王神社を中心とした一落があり、吉野朝には兩軍の争點であつた、長尾氏初期以來藏王堂城が置かれ、相當なる市街を形成した事は今に残る古町の地名に依つて證せられ

る、降つて元和四年堀氏村上に移封せらるゝや代つて改野忠成頸城長より來り封せられ、以來、三百年七萬四千石の城下町は成立したのである

越えて明治三十四年十一月一日長岡町と改め同三十九年四月一日市制を布かれ長岡市と稱するに至つた、今や産業都市として充實せる施設を有し、官立長岡高等工業を初め幾多の縣立學校、會社、銀行櫛比し、又五藏文庫、縣社倉庫神社、縣社平瀨神社明治維新の快修河井繼之助等あり、縣下屈指の史的名都である

今、當市役所に於ける職員の設定を摘記せば左の通りである

### 市吏員定員

一、市長 一名 一、助役 一名  
 一、収入役 一名 一、主事 六名  
 一、技師 二名 一、書記 四三名  
 一、技手 一三名 一、書記補 七名

一、除掃巡視四名 一、掃除巡視心得一名  
 一、水溝巡視 四名 一、雇 二七名  
 一、タイピスト 一名 一、交換手二名  
 其他 合計 一五四名

以上は當市役所の人的構成であるが、市會は三十六名の議員を以て構成せられてゐる尙ほ名勝舊蹟として遠近に著聞するものを一二紹介せば次の如くである

寶田公園 長岡が今日の大を成せるは石油湧出に負ふ處大で昔て寶田石油會社の本社が置かれ大正十年日石と合同を轉機として本社東京移轉の際、その舊地を寄附せるを以てこれを改築したのが即ち當公園也  
 長岡城址 改野氏異代の居城で兜城又は八文字稱浮島城とも稱し今の長岡驛前が本丸跡である  
 公會堂 大正十五年旅館大野蔭松氏が二十四萬圓を寄附して新築せるものである  
 尙ほ名物として味噌及味噌漬、越の雪、大手假明、唐木細工、スキ、輸出木彫等、一々枚舉に遑かない



# 株式 安川電機製作所

【所在地】 八幡市藤田二、三四六番地

【現在役員】 取締役会長 安川 寛  
 専務取締役 安川 泰一  
 取締役 松本 兼二郎  
 同 竹尾 秋助  
 同 田中 嘉久三  
 同 山崎 徳太郎  
 同 佐々木 英彬  
 監査役 松本 幹一郎  
 同 小出 英男  
 相談役 松本 健次郎

き率平撥くべからざる泰山の如き基礎を確立したのである  
 近年、目覚しい業勢を挙げつゝあるが、最近に於ける業況を検討するに左の如きものである

### 第二十三期業況

自昭和十六年四月一日  
 至同十七年三月卅一日

### 利益金處分案

- 一、当期利益金 四、七三三、三一六・八五
- 一、前期繰越金 八七一、二八四・〇七
- 計 五、六〇四、六〇〇・九二
- 之を次の如く處分せり
- 一、法定積立金 二四〇、〇〇〇・〇〇
- 一、諸償却積立金 三〇、〇〇〇・〇〇
- 一、研究基金 一〇〇、〇〇〇・〇〇
- 一、社員退職手當基金一〇〇、〇〇〇・〇〇
- 一、社員福利増進基金一〇〇、〇〇〇・〇〇
- 一、設備擴張留保金一〇〇、〇〇〇・〇〇
- 一、税金引當金二、六二七、〇〇〇・〇〇

- 一、役員賞與金 三七、〇〇〇・〇〇
  - 一、社員賞與金 一八二、八七一・〇〇
  - 一、配當金 七五〇、〇〇〇・〇〇
  - (但し年一割一株に付五圓)
  - 一、後期繰越金 八八七、七二九・九二
- 以上の計數に依つて考察するに如何に當社は堅實なる業績を收めつゝあるか想像するに難くない  
 尙ほ現在に於ける當社の大株主を一瞥するに次の通りである

### 大株主摘記

- 一〇二、〇〇〇株 安川松本合名買社
  - 二五、〇〇〇株 佳方機械工業株式會社
  - 五、〇〇〇株 富士電機製造會社
  - 四、〇〇〇株 石橋 進一
  - 一、〇〇〇株 株式會社幸袋工作所
  - 一、〇〇〇株 川崎重工業株式會社
  - 一、〇〇〇株 株式會社在原製作所
- その他十株以上は明石製作所、石橋徳次郎氏、林莊治氏等である

### 沿革一斑

昭和十七年三月三十一日、第二十三期の報告書を公表するほどの由緒ある製作所であつて、本社を九州の鎮守八幡市に置くこと雖も全日本の斯界にその聲を昂め、隆々たる社名を擧げられつゝあるのは即ち當社である

創立以來、極めて順調なる發展過程を辿つて着々と基礎を固め、遂に今日見るが如

# 日本一般紙製器工業聯合會

【所在地】 市内京橋區京橋二ノ二三 (井尻商社)

【電話】 京橋 八八六一番

【設立目的】 本會は紙製品工業の一元化を圖り國策に順應するを以て目的とす

### 現在役員

- 理事長 黒田善太郎 (大阪) 専務理事 眞野目吉治 (東京) 理事 大島久吉 (同) 同中井悦三 (同) 同 小林長三郎 (大阪) 同 入野勝二 (同) 同 大橋常七 (名古屋)
- 監事 古澤古城 (東京) 同 坂本惠敬 (大阪) 同 野崎正三 (京都) 顧問 山根光次郎 (東京) 同 林文平 (大阪) 同 源田善右衛門 (京都) 同 藤彌誠之助 (石川)

### 沿革一斑

劈頭摘記の如き目的を以て創立せられたるもので、地區は内地一圓とし同地區内に於て凡ゆる紙製品の製造に關する工業組合を以て組織し、極めて密に固く多彩なる組合聯合會で、その基礎の強固なることは他に多く比肩すべきものを知らない程である  
 尙ほ統制委員は委員長藤野正太夫 (東京) 副委員長杉浦敬次郎 (大阪) 外十四名の委員を選任しこれ又堂々たる陣容を構成して

# 安藝鐵工合資會社

【所在地】 廣島市大洲町一四一

【電話】 中 五六二二・五〇二一・七五九六番

### 營業科目

- 一、兵器 一、船舶用諸補機關製作 一、諸機械、換機機械、鑛山用機械、機器類製作 一、船舶用通風筒「インゴットケース」製機、板金工事 一式 一、鍛造諸製品、型物一式

【資本金】 金十九萬圓  
 【投下資本金】 約八十萬圓  
 【代表社員】 秋田龜太郎

### 沿革一斑

明治三十四年四月難波千代松氏が個人經營たる難波鐵工所を起業せしに創まり爾來事業の進展擴大に伴ひ、昭和十年二月合資會社難波鐵工所に其の組織を變更し難波千代松氏その代表社員となり次で同十六年五月帝國工業合資會と改稱し海軍少將今泉哲太郎氏代表社員となる、更に事業擴大と革新の目的を以て同十七年一月尼ヶ崎市株式會社秋田金屬工業所常務取締役秋田龜太郎前帝國工業合資會社の出資額全部を譲り同時に投資者の總辭職をなし、現稱の如く安藝鐵工合資會社と改稱し秋田龜太郎氏代表社員に就き而目を一新現在に至つたものである  
 今や帝國は振古未曾の巨廠を遂行中で、生産力増進が第一條件である現狀に鑑みれば當社の發展こそ刮目して俟つべきである



# 樺太ツンドラ工業株式會社

【所在地】 樺太敷香町字佐知番外地

【東京事務所】 市内廻町區丸ノ内三ノ一二

【資本金】 金一百萬圓

【拂込金】 全額

【營業科目】

一、ツンドラを原料とする粘結劑、タンニン劑、活性炭素、食糧、無酒精、葡萄酒、保溫劑、蚊取線等一切の製造工業並に製品販賣

一、ツンドラの採取並に販賣

一、前各項に附帯する事業の經營又は投資

取締役社長 竹田儀一 専務取締役 金子三太郎

常務取締役 本間 勇兒

取締役 鈴木正、大關唯只、野村敬、淺野貞次郎

加藤一、樽谷勘三郎、笹記益三郎

監査役 松井元、米田幸吉、金子文蔵

【出張所及工場】

【出張所】 神戶市神戶區榮町通三ノ六 小樽出張所 小樽

【工場】 市色内町八ノ三 本工場 樺太敷香町字佐知番外地

【試験工場】 神戶市灘區味泥町三ノ一八

【研究所】 横濱市神奈川區守屋町一ノ三

【沿革一覽】

樺太に於けるツンドラは從來不可解の埋藏物として開採せられたる處なるも、永年に亘る研究の結果と當社の斬新なる考案とに依り、時局下有用なる各種製品を見るに至つたものでツンドラ報國の實踐に邁進してゐる

# 樺太惠須取町農信用購買利用組合

【所在地】 樺太惠須取町大字惠須取字南濱町一ノ一

【設立目的】

一、組合員に農業に必要な資金を貸付し及貯金の便宜を得せしむること

一、組合員に經濟の發達に必要な資金を貸付し及組合員と同一の家に在る者、公共團體又は營利を目的とせざる法人若しは團體の貯金を取扱ふこと

一、加入締約者の貯金を取扱ふこと

一、組合員の産業又は經濟に必要な物を買入れ之に加工し若し加工せずして又は之を生産して組合員に賣却すること

一、組合員の委託を受け其の生産したる物に加工し又は加工せずして之を販賣すること

一、組合員をして産業又は經濟に必要な設備を利用せしむること

【本組區域】 樺太名取郡惠須取町一圓

【組合員資格】 本組合の區域内に居住し且獨立の生計を営み主として農業又は商業に關係を有する者又區域内に主たる事務所を有する農工商行組合に限る加入締約者の資格亦同じ

【出資金】 出資一口金五十圓

【現在役員】 組合長理事 小田正作

叙上の如き組織を以て極めて強固にして進取的なる利用組合として樺太に於ける屈指の組合の第一位を占むるものである

# 王子製紙株式會社樺太分社

【所在地】 豊原市北二線東八番地

【電話】 豊原 自三一四一至三一四五

【營業項目】 一、製紙業一般

【工場所在地】

太泊工場 太泊町王子南七十五番地

知取工場 元泊郡知取町

泊居工場 泊居町

野田工場 野田町

眞岡工場 眞岡町

日本人絹バルプ株式會社敷香工場 敷香町

惠須取工場 惠須取町

落合 工場 落合町

【沿革一覽】

戰爭と紙とは不可缺のものであつて、今次の大東亞戰爭の勃發以來その進展に伴れて紙の使用量の増加は、實に眼撃しい限りであるが、従つて戰爭の様相は製紙工業の面にも著しく變貌を呈して來たのである。斯る情勢下り在つて我が日本の工業界を一手に引受けて、日本製紙の最高峰に位す

る王子製紙株式會社の持つ國家的使命は、極めて重且つ大であることは云ふまでもない

由來、日本の製紙工業の發展は彼の第一次歐洲大戰を轉機として加速度的に一大發展を遂げたのであるが、彼の滿洲事變より新興亞細亞を建設すべき新氣運の底流が漸次盛頭して、遂に支那事變となり、次で米革撃滅の一大世紀戦にまで擴大したのである。斯る際に於ける製紙業の分擔する使命、任務の重大なるは多く贅言を要せずして明かなるところであつて、軍需方面に於ても民需方面に於ても、紙の効用價值は百パーセントに昂揚せられたのである

即ち今日の赫々たる我が皇軍の戦果の蔭

に『紙』が如何に貴重なる役割を擔當し來つたかを検討したならば、何人もその偉大にして磨汰なるに一驚を喫せずにはゐられないであらうと思ふ

斯くの如く『紙』の効果は絶對的である、

それが平和産業の場合とは比較にならぬほどの重大性を帯びてゐるのである

従つて我が國斯界の王者王子製紙株式會社が貢献した皇軍の戦果は、これ又測り知るべからざるものがあるのであつて、今日當社が樺太分社に主力を注いで一路増産に拍車を掛けてゐる所以は、正にその國家的使命を達成せんが爲めに外ならないのである。戰爭は愈々長期化の一途を辿つてゐる現在、當社の責務は更らに一段と擴大強化せられたものと看做して差支へない



## 樺太溫牘獸理化學工業研究所

【所在地】 樺太豊原市東一條南五ノ二三  
 【電話】 豊原 二六四一番  
 【本 舗】 千葉縣市川市  
 【出張所】 東京市澁谷區  
 【營業項目】 一、オットホル (オットセイ・ホルモン酒)  
 『効能摘要』 オットホル効能特色  
 樺太廳中央試験所分析 樺太廳々病院分析  
 醫學博士 九鬼左馬之助先生推奨 醫學博士飯室進先生推奨  
 『オットホル』は日米英露四ヶ國條約に依つて協定せられ國家これを保護する國際的實験として、歴史が事實を物語る精力絶倫種慾旺盛なるノットセイの有効成分より抽出せる強力ホルモンに貴重寒帶植物と數種の高貴榮養劑及び漢方藥を配合して成れる本邦最初の大完成品にして現時最高の秘品である  
 その主要成分は

一、強力アウトホルモン 一、各種ビタミン 一、高級アミノ酸貴重寒帶植物の精 一、其他數種の榮養劑と漢方藥  
 而してその効用は精力減退、過度の倦怠疲勞、病後甦後の恢復期一般虛弱感病質、四肢冷寒、貧血、榮養障害、夏夏度、便秘等に特效があり汎くその價値を認められてゐるが、一週間量一・五〇錢十七日量三・五〇錢、一ヶ月量五・五〇錢である

## 株式 樺太機械製作所

【所在地】 樺太豊原市北三線東二番地ノ一  
 【電話】 豊原 二七三六番  
 【營業品目】 一、鑄山諸機械 一、汽罐汽機 一、鐵骨橋梁 一、土木機械 一、建築金物 一、ポンプ各種 一、消防器具 一、冷凍設備 一、冷藏庫 一、製材機械 一、諸器鑄製品 一、各種農具 一、其他諸機械 一、各種機械修理 一、機械設計

【資本金】 金二十萬圓  
 【現在役員】 取締役社長 木原豊次郎  
 専務取締役 瀧尾勇治郎、常務取締役 (工場長) 荒木田莊助  
 取締役 (技師長) 多田清、取締役 佐藤岩松、監査役 遠藤實、同 中村勝郎、庶務主任 伊東喜代治、會計主任 中松貞治、技術主任 長沼留吉

【東京出張所】 市内下谷區西町十二番地 (電話下谷八三三六番)  
 【沿革一斑】  
 昭和十三年八月の創設に係はるもので、本社を樺太豊原町に置き、工場敷地一萬坪、工場建物二四五坪七五の諸施設完備せる理想的工場で社運隆々として銚後生産力の増強に對し一大據點である

## 惠須取運輸株式會社

【所在地】 樺太名好郡惠須取町大字惠須取字惠須取三番地  
 【電話】 惠須取 四〇二番・七五三番七五四番・六六七番  
 【營業項目】 一、樺鑛石炭積取及び王子工場製品荷役 一、其他市中雜貨取扱  
 【資本金】 金壹百萬圓  
 【拂込金】 全 額  
 【決算期】 毎年十二月  
 【現在役員】 取締役社長 森田 達  
 専務取締役 吉田利和、取締役 扇田彦助  
 監査役 栗林友二、同 金森猛一郎  
 【出張所】 樺太名好郡塔路町大字糸音字藻糸音  
 【沿革一斑】

樺太が帝國の北邊を護つてゐる國家的重要性を有してゐることは何人も知悉の通りであるが、その國防的重要使命は姑く措き、産業的便命に於ても到底他に比較すべきものではないのである當社は斯る産業上の重要據點に在つて石炭積取及び王子工場製品荷役、其他市中雜貨取扱ひを行ひ毎期好況を傳へてゐる殷盛の業績を示してゐる會社である、而してその將來の發展に對して大に期待を寄せられてゐる

## 珍内海陸運輸株式會社

【所在地】 樺太珍内町山手町番外  
 【電話】 珍内 一八番  
 【營業項目】 一、海陸運輸業 一、貯業  
 【現在役員】 取締役社長 能登 勝正  
 専務取締役 笹井安一、取締役 池 康太郎  
 監査役 榎 喜作  
 【作業現場】 南珍田、珍田、小田洲  
 【沿革一斑】

四而環海の我が日本は海運の國であることは地政學的に、既に制約せられてゐるけれども、最も痛切に感ぜられるのは四圍の外國と一衣帶水の接觸してゐる地域であると云はねばならないそれは單に對内的であるばかりでなく、對外的に極めて重要性を帯びてゐるからであつて、わが皇土の北限を扼する樺太の如きはその最滴側の一であらう  
 當社は斯る樺太の對内對外兩面に亘つて海運の樞機を把握するもので、當社が北海一圓に及ぶ海域を活躍の舞臺として諸物貨の海陸運輸を司るばかりでなく、貯業をも兼營してこれ又著しい好況を展開しつゝあるのである  
 これ一に社長能登勝正氏を初め専務笹井安一氏、池取締役、榎監査役諸氏の協力一致の賜ものである



# 保證責任 泊居町漁業協同組合

【所在地】 樺太泊居郡泊居町大字泊居字入船町五ノ二  
 【電話】 泊居 一五八番  
 【加入金】 一口 金三十圓 總數 一、二六〇口  
 【現在役員】 理事 赤林 秀 同 能戸福治 同 三上東九郎  
 同 遠藤留次 監事 江刺家登末 同 河内長三郎  
 同 土屋直佐吉  
 【設立年月】 大正十三年一月二十四日  
 【組織變更】 昭和十年十一月十五日  
 【組合地區】 泊居町 自大字追手字追手 至大字唐緒字千帆間 (七里半)  
 【組合員】 一四〇名  
 【沿革一斑】  
 大正十三年一月二十四日に設立せられたもので、現在、組合百四十名を擁し、七里半に亘る地區に於ける漁業者が圓滑にして親睦なる協力を以て、鐵の如き堅き結束を固め、我が世界に矜る北海漁業の爲め挺身して銃後食糧問題の解決に努めつゝある組合員の奮闘精神は正に特記に値ひする

# 大 泉 長 太 郎

【生年月】 明治十九年八月十五日生  
 【生身府縣】 山形縣  
 【原籍】 樺太名好郡愚須取町字南濱町二ノ一  
 【現住所】 同 上  
 【電話】 本店 愚須取七七一番 木工場 同 七〇四番  
 【學歴】 埼玉縣蕨進計黨系學校卒業  
 【趣味】 讀書  
 【家庭】 家族十一名  
 【経歴】  
 山形縣下に生れて埼玉縣下に於て學修を完了し、今や帝國版圖の北嶺たる樺太に於て活躍してゐる大泉長太郎氏は、正に立志傳中に異彩を放つ第一人者といふも妨げない、大正三年四月樺太移民團長として渡樺し同年四月北樺太亞港に轉住し請負業を営み、同十四年徴兵適齡に達したのを轉機として現住地に居住を構へ、製材業及び請負業を営み漸次基礎を築きあげ、遂に今日の如き平拔くべからざる業績を打ち建てた成功者である  
 思ふに氏は進取的氣性に富み、大正の初期に於て早くも北邊開拓の壯圖を率先實踐したその意氣と先見の明とは、何人も一驚を喫せずにはゐられないであらう、家庭は十一名の多勢にて和氣霽々たるものがあり、現に次男は北濱に在營中の勇士で家門の名譽として郷黨より厚き信用を寄せられてゐるのである

# 中 野 常 太 郎

【生年月】 明治三十四年十一月二十六日  
 【出身府縣】 北海道  
 【原籍】 樺太真岡郡真岡町大字真岡字榮町  
 【現住所】 泊居町大字泊居字濱町  
 【電話】 泊居 四六番  
 【學歴】 函館工業補習學校卒業  
 【現在職業】 鋸工所經營  
 【家庭】 妻トメ外令息三名、令嬢五名  
 【経歴】  
 樺太泊居の産業界を語る場合に、是非見過がしてはならぬ新進氣鋭の士である  
 本欄の主人公中野常太郎氏が即ち其の人である  
 何となれば青年の意氣を以て鋸工業を営み銃後の生産力補充の爲めに悔り難い功勞を収めつゝあるからである、謂はゞ我が北邊に於ける鋸工業界の異色ある敏腕家であり、信用厚い徳望家であるからだ  
 北海道に生れ函館に於て學問の修業を完了すると、雄圖を抱いて明治四十三年に疾くも渡樺したのである、次で大正五年函館に至り當時安房久米商店(池貝鋸工所特約販賣)北海道出張所鶴田鋸工所に入所したのである、これが抑も氏をして今日在らしめた機縁である、大正十年十二月一旦歸國父を扶けて海運業に従事し同十三年泊居樺太工業會社原材料の海運送を請負ひ、その後、株式會社五共商會の取締役に就任、昭和七年十二月鋸工所を經營今日に至る

# 有 限 公 司 江 戸 川 造 船 所

【所在地】 市内江戸川區長島町三九〇五  
 【電話】 葛西 一〇番  
 【營業項目】 一、木造船建造 一、並に修理業  
 【創業年月】 昭和十七年六月八日  
 【現在役員】 取締役社長 藤代辰之助  
 取締役 山本健太郎 同 淺見房次郎 同 泉澤 松藏 同 佐久間直吉 監査役 飯塚三之助  
 【沿革一斑】  
 戦時下に於ける總ての企業形態は、統合と協力とに依つて強化せられて來たのは必然的結果であるが、殊に直接戦時態勢を敏活ならしむる業種に在つては、その重要性を痛感せざるを得ないのである  
 當江戸川造船所は市内葛飾區内に於ける二十五氏の業者が相合同努力して、強力なる結束を行ひ、資本の統合、諸設備の整備完了、艦力の増強等を斷行して新たなる有限會社を形成し、戦時下に造船國の爲め再出發をしたのは昭和十七年六月八日であつた  
 叙上の如き經過を辿つて出現した會社であるから内容が堅實で充實して居り、積極的性格を有してゐることは云ふまでもない處である  
 こは一に藤代社長を初め他の五重役諸氏が力を協はせて職域奉公に自己を没却して挺身せる爲めである







# 東洋理化學工業所 所主 正田 徳太郎

〔生年月〕 明治二十年三月八日生

〔出身府縣〕 鷹島縣

〔原籍〕 同上

〔現住所〕 大阪市北區菅原町一一四

〔東京營業所〕

市內京橋區木挽町三丁目五番地

〔電話〕 堀川 三三二七番

〔學歴〕 東京外國語學校卒業

〔現在職〕 一、東洋理化學工業所代表

一、國産洗滌液製造元

〔創立年月〕 昭和十年

〔經歷〕

大東亞戰爭は今や第二段階に移行して敵味方共に消耗戦の様相を露呈しつつあるがこれを勝ち抜く日本の決意は宛ら火の玉と燃えてゐるのは云ふまでもない

従つて總ての物心兩局に亘つてその保有する力が動員せられてゐるが、殊に化學工業の威力が第一線にも銃後の國民生活の面にも遺憾なく發揮せられつつあることも、

亦周知の通りである

斯く戦ひ抜く強國國家態勢の情勢下に在つて、性能の精確しく優れたる國産洗滌液の製造に全能力を傾注し、戦時日本の化學工業界の爲めに萬丈の氣を吐く人は、即ち本欄の主人公正田徳太郎氏である

氏こそ、戦時型の化學業界の異色ある才幹であると推すに躊躇するものではない

明治二十年三月八日を以て鷹島縣に呱呱の聲をあげた、本年正に五十七歳の脂の乗り切つた活動盛り、思慮あり、分別あり、信用ある正に男子の最高峰に達した實力充滿した新興工業人である

夙に郷里の中學校を卒へると東京外國語學校に入學し好成績を収めて卒業すると、業界に嚆々たる名聲を博してゐる彼の山

武商會に入社した

それ以來、精勵格闘すること十有五年の久しきに及び、その間、累次拔擢せられて要位を占め同社の爲めに渾身の努力を惜ま

なかつたから、功勞の藉甚なること又他に比肩を知らざる状態であつた

その後、鋼鐵の輸出入商を営み良成績をあげつゝあつたが、昭和十年、汎く我が化學工業界の實情に鑑み、國産洗滌液の製造に着眼してこれが完成に全能力を傾け盡して粒々辛苦の結末遂に獨創的優良液の製造に殊功を収めたのである

これ即ち今日日本邦の斯界に嚆々たる聲望を謳はれる東洋理化學工業所の事業である

現在、製造並に營業の本據を大阪市北區藤原町百十四番に設け、自ら製造及び營業の陣頭に起つてゐるが、東京營業所を京橋區木挽町三丁目五番地に特設し、大阪東京と東西相呼應して營業の發展に努め、益々好況を傳へつつあるのである

氏は斯業界に於ける信望厚く、現に大阪に於ける大阪油友會の主腦者として同會をリードし名望嚆々たるものがある

戦時多端の今日、氏の活躍に俟つところ頗る尠くないものがある

# 久保田 レンズ製作所 久保田 三郎

〔出身府縣〕 茨城縣

〔原籍〕 茨城縣筑前郡大磯村

〔現住所〕 市内足立區下沼田町二九七

〔營業項目〕 一、眼鏡レンズ 一、各種レンズ

〔沿革一斑〕

茨城縣出身者で帝都の工業界で活躍してゐる活人物は決して勘くはないのであるが、中でも異彩を放つ新興人物として久保田三郎氏を推すに吝かなるものではない

何となれば、戦ふ日本に執つて軍需民需の両面に亘つて最も必要欠くべからざるレンズを製作し、併かもその性能の卓越してゐることは全く驚嘆に値ひするからである

茨城縣筑前郡の大磯村で短湯を使つた氏は郷土の誇るべき仁侠の氣質、負けじ魂を所有してゐた、學修を完了すると義兄の經營に係はる大山レンズ製作所に入所し、一心不乱に斯業の技術を鍊磨すること實に十五年間といふ長年月に及んだ、この一に徴して見ても如何に氏が意志の強固な、初一念を飽く迄も貫かんとする鐵石心の持主であるかを裏記するであらう

愈々獨立の機會に恵まれたので昭和十五年四月、市内瀧野川區瀧野川町一〇二九番地に工場を設立して營業を開始したのであるが、同十七年四月事業の發展に促がされて新たに現在の足立區に新工場を建築し移轉大擴張したものである、將來益々好望視せられつつある

# 大部 二 男

〔生年月〕 明治三十八年十月七日

〔出身府縣〕 茨城縣

〔原籍〕 同上

〔現住所〕 名古屋市西區等取町四ノ一七八

〔電話〕 西 一五〇一・八八六番

〔現在職業〕 合資會社吉川製油所名古屋支店長兼工場長

如何なる艱難をも克服して、遇事徹すといふ強い意志の必要なことは、戦ふ日本の最も必須とする原動力である、これを自己の職域に顯現實踐したかが即ち吉川製油所名古屋支店長の大部二男氏である

茨城縣に生を享けた氏は、學修を完了すると大阪市港區北境川四丁目本社を有する吉川製油所に入社したのである、これ以來今日まで致々營々實に二十有餘年の久しき間職務に勉勵し、店運の伸展隆盛を念として懸命の努力を拂つた爲め店主の恩寵を一身に集め信頼他に較ぶ者がなかつた、爾來、年と共に重用せられて來たが遂に營業部長の要位に据えられた、昭和十一年十一月、名古屋工場の新設と共に氏は簡拔せられて支店長兼工場長となり今日に至つたもので、正に吉川製油所の至寶と推すに足る殊勳者である

現に同市西區築江町に一萬五千坪の廣大なる新工場を建設中であつて氏の將來に於ける活躍は今より刮目して俟つべきであらう未だ四十歳に達せざる青年實業家に將來洋々たる好運、好望に恵まれてゐる、趣味として觀世流の蕭曲を好くする



坂本商會 坂本郡造

【生年月】 明治二十五年三月  
【出身府縣】 廣島縣  
【原籍】 廣島縣豊田郡木谷村  
【現住所】 奉天市大和區南立町一六  
【電話】 (三) 四六六五番  
【現在職業】 窯業及炭礦業  
一、モルタル煉瓦 一、坂本式特許煉瓦  
(日滿兩國政府特許獲得) 一、本溪湖に鑛區を有す  
【出張所々在地】 新京、鞍山、牡丹江、平壤

【創業年月】 昭和五年六月  
【家庭】 子供二人  
【経歴】 日本生命線と謳はれ、大東亞共榮圈確立の基礎と重視せられるものは云ふ迄もなく隣邦滿洲國でなければならぬ。この重要な滿洲國の産業を開發し、日滿兩國の産業的發展を期することは、現下の如き大戦中には殊に喫緊缺くべからざる

國策であつて、これが國家的重要性を尙早く感得し、洞察し身を挺してその實現に當り、遂に隆々たる業勢を展開し得た坂本郡造氏の功績は、大に特筆大書すべきものであらう。

氏は廣島縣の人で、明治二十五年三月を以て同縣豊田郡木谷村に於て呱呱の聲をあげたのである。本年正に五十有一歳の元氣滿溢たる活動期の蔗境に達した人物である。夙に内地に在つて學修を卒へると疾くも實業界に身を投じたが、圖南の雄志を懷く氏は大陸の新天地にこれを伸長せしめんと固き決心を胸に秘めて渡滿したのが即ち大正八年であつた。そして當初、滿洲窯業會社に入社して勤務すること多年、生來の 智才腕を揮つて大に矚望せられるところ多かつた。

然し、大望を有する氏は獨立の機會を待望してゐたのであつたが、愈々その機會到來の時が見舞つた、即ち昭和五年六月であつて、初め合資組織で經營を開始したのであるがその後、事業の發展に伴れて組織の改善を促かされ、現在の如き個人事業に解消的發展をなしたの同十五年十二月であつた。

今や氏の事業は二大部門に分れ、第一を炭礦業とし、有名なる本溪湖に鑛區を所有して現に稼業しつつある炭質の優良、炭量の豊富なることは滿洲斯界に一隻眼を有するほどの者ならば、皆な知悉する通りである。次に窯業であるが殊に坂本式特許煉瓦は硬度と云ひ耐久力と云ひ効用價値の頗る高い良品で、流石に日滿兩國政府の新案特許權を獲得せる名に背かないものがある。その他モルタル煉瓦あり、出張所も前掲の如く新京を初め鞍山、牡丹江、平壤等の鮮滿要衝に特設し、奉天の本店と常に緊密迅速なる聯絡を保ち、戦ひ抜く日本の爲め、滿洲國の爲めに産業を通じて一意専心奉公の誠を揮けてゐるのである。

佐藤公司 佐藤秀夫

【生年月】 明治三十七年四月十五日  
【出身府縣】 岡山縣  
【原籍】 岡山縣小田郡中川村  
【現住所】 奉天市大和區彌生町三六  
【現在職業】 一、佐藤公司(個人經營)  
【資本金】 三十五萬圓  
【營業種目】 被服  
【創業】 昭和十四年十一月  
【工場】 奉天北關區  
二、山陽工作所(個人經營)  
【資本金】 十五萬圓  
【營業種目】 鞆工、鐵工、木工  
第一工場 奉天市北關區小北  
第二工場 同市北關區大北  
【創業】 昭和十六年十一月  
【學歷】 關西大學修業  
【經歷】 由來、岡山縣人は雄飛發展の氣象に富ん

であることは、多くの人國記や地方文化史研究者の均しく認むるところである。然し、大陸の新天地に於て、思ふ存分新興の意氣を、潑刺たる業績を收めて滿洲國に於ける邦人の爲めに、萬丈の氣を吐くこの佐藤秀夫氏の如きは、蓋し稀に見るところとして岡山縣の至寶と爲すに敢て吝かでないのである。岡山縣小田郡中川村の人で明治三十七年四月十五日を以て生れた。郷里の中學を卒へると關西大學に入學したが、青年の胸に鷲圖の燃え盛る希望は寸時も止まなかつた中途退學して滿洲の天地に雄圖を伸展すべく渡つたのが、即ち氏をして今日の成功を收めしめる抑もこの動因となつたのだ。渡滿以來の氏の奮闘振りは全く筆舌のよく盡すところでなかつた、その烈々たる熱と其の涙くましい努力、刻苦經營の足跡は正に懦夫をして起たしむるに足る一篇の立

志奮の活文學と云はざるを得ない。今や氏の事業は二大系統に大別せられてゐるが、その中心となるものは、三十五萬圓の個人資本を投じて隆々たる社運を誇つてゐる佐藤公司である。昭和十四年十一月の創業で營業種目は専ら被服製造であつて、工場を奉天市北關區に特設し多くの工員を使用して製品の卓越せる名聲を喧傳せられてゐる。又、同じく十五萬圓の個人資本を投ずる山陽工作所は、昭和十六年十一月の創業に係はり、第一工場を奉天市北關區小北に、第二工場を同市北關區大北に設け、鞆工、鐵工並びに木工を營みこれ又技術の優良を以て謳はれ信用厚く重需、民需の各方面に多量の供給をなし、潑刺たる業績を收めつつある。叙上は氏の事業を殆んど素描したに過ぎずこれを以て詳細なる氏の活躍真相を説明したとは固より云ひ得ないけれども、その全貌を彷彿せしめるに足るものがあらうと思ふ。現在、大戦の遂行中である現狀に鑑み、大陸に活躍する氏の今後に於ける活動の如何は大に注目すべきものと云はねばならぬ。



# 新潟市役所

【所在地】 新潟市一番堀通町

【沿革一班】

越の都新潟の名は餘りにも有名である。美人と港と橋とで遠近に喧傳せられてゐるが、これは風俗に失するならば、五港の一として幕末對外の要津として著聞するばかりでなく、滿洲國の獨立以來、日本海を通じて最も接觸の多い、國家的軍運性を帯びて戦ふ日本の地圖の上に、大きく浮彫の如く隆起して來たのは即ちこの新潟である。

人口十五萬有餘を有容し、年二百餘萬の豫算を以て市政運営する北陸屈指の大都會たる市勢は、戦時日本に執つて強力なる一據點と云はねばならない、各種産業の都として、新潟醫科大學、新潟高等學堂等の教育文化の都として、將又、近くは佐藤遠くは北鮮羅津への定期航海の港として、近來、市勢の激刺たることは正に驚嘆すべき程である。

明治二十二年初めて市制を希いたが當時は戸數一萬六千二百戸人口四萬五千五百十一人であつた、爾來五十有餘年の今日約四倍の大膨脹を遂げたのであるが、現在、市の吏員定數は市長一人、助役一人、収入役一人、市事八人、社會教育主事一人、體育主事一人、市視察二人、技師一〇人、主事補書記一〇二人、技師補技師二人、看護婦長二人、衛生監督吏員九人、合計一六六人である、又、文書課を初め庶務、經濟、學務、厚生、振興、青年教育、戸籍、兵庫、土木、稅務、水道及び會計に分れてゐる。

# 佐藤建築事務所

【所在地】 市内彌町區日比谷園二番地（東京市政會館内）

電話 三三五番

【創立年月】 大正二年九月

【創設者】 故工學博士 佐藤功一

【現在役員】 所主 工學博士 佐藤鐵夫

相談役 工學博士 佐野 利器

【九州事務所】 福岡市荒戸町二十八番地西公園ビル内

（電話福岡（西）二二〇一番・四九六三番）

【沿革一班】

本邦建築界の軍鎮として令名を著した故佐藤功一博士の遺業であり、その遺志を更に伸長し加ふるに獨巨の新境地を開拓せんとしてあるのが即ち當所である。

早大工科をして今日の驛價を獲得せしめ殊勳者故佐藤功一博士の名は餘りにも有名であつて、博士が大正二年に當所を創業して以來、今日まで設計、施工せる大小、官私の工事は一々均擧に違なき程夥しい數に上つて居り、みな孰れもその優秀にして巧緻、堅牢、耐久の諸特色を有してゐる爲め各方面から絶對的信用を博してゐるのは云ふまでもない。

故博士の良心が氏の遺業たる當所に脈々として傳はり、氏の三男鐵夫氏が早大卒業後それを繼承して今日に至つたものであるが故博士とは其逆の友たる斯界の權威佐野利器博士が相談役として除に陽に助力を惜まないことは、當所の價値を一段と昂めるものと云はねばならぬ。

# 日本乾燥機株式會社

【所在地】 市内瀧野川區上中里町三九

【電 話】 駒込 九三七番・二〇二四番

王子 二二八六番

【創業年月】 明治四十三年

【營業種目】

一、乾燥機 一、蒸溜器、蒸發罐 一、汽罐 一、其他化學機械製作

【資本金】 金三十萬圓

【拂込金】 全 額

【決算期】 九月年一回

【現在役員】

取締役社長 小松 重一  
専務取締役 土橋 彦衛  
取締役支配人 矢島 知男  
取締役 矢島 順一  
監査役 小松 豊二  
相談役 小松 豊作

【工場所在地】

田端工場 市内瀧野川區上中里町二九八

川口工場 川口市南町三八六四番地

池袋工場 市内豊島區池袋一ノ六四四

【沿革一班】

帝都の新興工業地帯として、瀧野川區の殷盛振りは行人の眼を奪ふ偉觀を呈してゐるが、その中に在つて古き傳統を誇り、多年栽え付けた地盤と信用を以て毅然他を壓倒して異彩を放つてゐるのは、この日本乾燥機株式會社である。

抑、當社の發祥せる沿革を尋ねるに、明治四十三年に早くも研究所を創立して乾燥機及びそれに關連せる送風機、放熱器等の研究に着手したもので、この一事に照らして見ても當社は三十數年以前に於て既に科學の良心を以て設立の端を發したと云はねばならぬ次で大正三年に至り愈々年來の眞摯にして不斷の研究を實際に企業化せんと

の意圖の下に、乾燥機の製作、販賣を目的として會社を設立するに至つたものである。従つて乾燥機の専門的製作會社として本邦に於ける嚆矢であると同時に、唯一無二のものとして云ひ得るのである。

故に技術の卓越せること、施工の綿密にして巧緻を極めてゐること、耐久性の素晴らしいことなど一として他の追隨を容さぬ特色のみである、現在では前掲に列記せる如く獨得の乾燥機を初め送風機、蒸溜器、蒸發罐、汽罐其他化學機械の製作に本社の眞價を遺憾なく發揮してゐるのである、今や日本は大東亞共榮圈の確立の爲めに米英國國を徹底的に擊滅せねば已まぬ固き決意の下に國民總力を擧げて戦つてゐる眞只中であるが、跡後生産部に於ける當社の使命は益々重大性を帯ぶるものと云はねばならぬ。



## 日本鞆商工組合聯合會

〔所在地〕 市内淺草區駒形一ノ一  
 〔電話〕 淺草 六二四番  
 〔設立目的〕 一、商工省告示第四百四十三號に基く鞆類の等級査定  
 二、商工省告示第四百四十三號に基く鞆類の等級査定

〔現在の役員〕 理事長 加藤國太郎、副理事長 長谷川辰藏  
 同 中西茂  
 査定委員會 中央査定委員長 吉川 善吉  
 地方査定委員長 鈴木 寔、同平潤俊一  
 同水野敬一、同石田長太郎、同石田良三

〔支部所在地〕  
 東京 支部 市内淺草區駒形町一ノ一  
 大阪 支部 大阪市南區安堂寺通一ノ三三  
 名古屋支部 名古屋市中區東角町十三ノ二  
 豊岡 支部 兵庫縣豊岡町寺

〔沿革一斑〕  
 本聯合會は昭和十五年十二月十五日、鞆業者を一九として全國的統合体として創立せられたものである。爾來、戦時下物價政策の國家目的に指針を置き、一般鞆類の査定機關として今日に至つたものである。  
 時局が益々深刻化しつつある今日、當組合聯合會の分擔すべき職域奉公の領域は汎くその責任は甚だ大である

## 日本合成樹脂統制株式會社

〔所在地〕 市内赤坂區潮池町一二  
 〔電話〕 赤坂 自五三五五 至五三五六番  
 〔營業項目〕 一、合成樹脂製品の需給調整並生産の制當  
 二、合成樹脂製品所製原料の調達並配給  
 三、合成樹脂製品の買収、販賣  
 四、合成樹脂製造業者の企業整備  
 五、同種事業に對する投資  
 六、前各號に附帶する必要又は有益なる一切の業務

〔資本金〕 金壹百萬圓  
 〔拂込金〕 金五十萬圓  
 〔決算期〕 三月、九月  
 〔現在の役員〕 取締役 鹽原順三、同榎並直三郎、同龜山 武雄  
 同兵頭勝、同平井政一、同岡井一、同名越治郎、同利倉純二郎、同鈴木傳治郎、同北島靖、同鎌倉正幸、監査役 川瀬俊男、岡信吉、柴田楠三

〔支店所在地〕 大阪市東區伏見町四ノ三九  
 〔沿革一斑〕  
 昭和十六年九月十二日設立認可せられ、翌十月三十日創立總會を開催して決議確定し翌十一月十日設立登記を完了して應々事業を開始したのは同年十二月一日である

## 山陽木材防腐株式會社

〔所在地〕 市内龜町區丸ノ内二ノ二四  
 〔電話〕 丸ノ内 五四〇三番  
 〔營業項目〕 防腐木材製造販賣（クレオソート注入電柱、杭木、碗木、其他一般木材）  
 〔資本金〕 金二百五十萬圓  
 〔拂込金〕 全額  
 〔積立金〕 金一百四十萬圓  
 〔決算期〕 十一月末日  
 〔前期配當〕 年一割二分  
 〔現在の役員〕 取締役社長 田中好一、専務取締役 皆川三郎  
 取締役 久保萬助、平田松五郎  
 監査役 和泉直太郎、久保井三一

〔出張所並工場〕 廣島出張所 廣島市舟入川口町  
 廣島工場 九州工場 新潟工場 鹽釜工場  
 室蘭工場、坂工場

〔沿革一斑〕  
 木材防腐の叫ばれつゝある刻下の我が國情に照らせば、當社の防腐木材の製造は戦ひ抜き勝ち抜く日本の國力を培養する上に、重要な役割を分擔してゐるのである

## 山陰木材防腐株式會社

〔所在地〕 市内京橋區木挽町二ノ四

## 理研電具株式會社

〔所在地〕 市内本郷區込込町四四  
 〔電話〕 大塚 六九三三・六三三七番  
 〔沿革一斑〕  
 本社は理研高抵抗リケノム販賣所から離脱して一個の獨立した企業 態に採用し現稱の下に營業を發足したのは昭和十二年七月であつた當時から現在に至るまで無線通信機が陸海軍の兵器として如何に重大なる使命を有するかは敢て贅言を要しない、斯る重要な兵器の一部品としての電氣抵抗器（リケノム）及びリケンバリウム）に着眼し、舶來品並能時代に、國産品の爲に萬丈の氣を吐き忽ち市場の寵兒となつたのである物資不足の現在でも當社は確實なる基礎の上に熾然たる歩歩を堅持する所以は、要するに資力の強力と製品の優秀と廉引の正確迅速とに其因するものと看做さればならぬ即ち資本金百五十萬圓（全額拂込済）を擁し重役諸氏には大河内會長を初め専務その他理研關係の諸名士を網羅してゐるから磐石の重き堅陣を構成してゐる

〔電 話〕 京橋 七八〇四番  
 〔營業項目〕 クレオソート注入木材製造販賣、其他木材一般の販賣  
 〔資本金〕 金五十萬圓（全額拂込）  
 〔積立金〕 金二十六萬圓  
 〔前期配當〕 年一割  
 〔現在の役員〕 取締役 藤田一郎、大塚幸七、落倉倉吉、監査役 村井太郎、島根啓八、重郡竹矢村八郎  
 〔出張所〕 島根縣八重郡竹矢村八郎



## 株式會社 大鋸回漕店

- 【所在地】 樺太元泊郡知取町
- 【電話】 知取 一〇二番二〇七番二三九番
- 【營業項目】 一、回漕業
- 【資本金】 金三十萬圓
- 【拂込金】 全額
- 【決算期】 三月
- 【現在役員】 取締役社長 大鋸友吉、常務取締役 大鋸友信、同大鋸英太郎、取締役 村岡政次郎、同川邊謙次郎、同石高正治、同中村力太郎、監査役 佐藤宗市、同小松幸作
- 【支店所在地】 樺太樺皮郡樺濱村
- 【沿革一斑】

帝國の北邊を護る樺太の重要性は、或は政治的に、或は國防的に、或は外交的に、或は産業的に、各方面より論議せられ重視せられてゐることは云ふ迄もない。斯る重要な樺太を中心とする海運回漕の重き職分を分擔して専ら職時下貨物回漕の職務奉公に専念しつつある當店社長大鋸友吉氏とその一門の活躍は、全く敬服に値ひするところで今後の大發展に大なる期待を寄せざるを得ない。

## 泊岸漁業協同組合

- 【所在地】 樺太元泊郡泊岸村大生泊八三
- 【電話】 一九・三五番
- 【營業項目】 一、漁業經營の指導 一、購買、販賣、利用、信用事業
- 【基本金】 一〇、八六〇圓
- 【拂込金】 全額
- 【積立金】 六四、二二七圓
- 【決算期】 十二月
- 【前期配當】 二、九七〇圓
- 【現在役員】 組合長理事 大野善太郎、専務理事 住吉 定雄、理事 熊谷讓作、同佐伯佐吉、同大谷武則、監事 河野興太郎、同高田正孝、同田森利之助
- 【沿革一斑】

保護責任泊岸漁業協同組合の機構は大略前叙の如きものであるが、樺太の地政的重要性に鑑みるならば當組合の有する國家的意義といふものは決して尋常一標のものではない。現在、組合員總數五十一名、職員七名、資本金二二、七八三圓に達して居り頗る力性のある強力なる資力を擁して、活潑なる事業を運営しつつあるのである。

## 衛 藤 文 雄

- 【生年月】 明治二十九年三月二十九日
- 【出身府縣】 大分縣
- 【原籍】 大分縣宇佐郡兩川村
- 【現住所】 樺太泊居町
- 【學歷】 明治大學商科卒業
- 【現在職業】 株式會社五共商會社長、株式會社昭和機械製作所社長、泊居町會議員、泊居商工會々頭、泊居商業組合理事長、樺太廳協力委員、司法保護委員、泊居常務委員
- 【名譽職】 富貴、園藝
- 【趣味】 妻小枝、長男隆吉、次男晏保、長女幸子、
- 【家庭】 次女多代子、三女光子、三男孝俊
- 【經歷】 大分縣人の美質は進取の氣性で萬事發展的であることである。それを身を以て實踐し、遠く我が北邊の護りとして重要な地理的實務を帯びる樺太泊居町に永住し、土地切つての信實家たる榮譽を擔ふものは、藤文雄氏である。明治二十九年三月二十九日生れと云へば本年正に四十八歳の青年工業家であるが、信實厚く活潑闊達が多角的で孰れも重きを爲してゐることは、驚くに足るところと云はざるを得ない。長男隆吉氏は早大政経科に次男晏保君は豊原中學校に共に在學中の秀才、その他令嬢諸嬢も亦勉學中である。

## 樺太酸素工業株式會社

- 【所在地】 樺太 町南二十六番地
- 【電話】 一三三番
- 【現在役員】 取締役社長 増田龜吉、取締役 白石 龜二、同土野三郎、同瀬尾勇治郎、同増田 巳之吉、同金井竹智、同支配人福島定次郎
- 【沿革一斑】

帝國版圖の北端に位し、國防上は云ふに及ばず産業上にも政治上にも重要な我が國屈指の據點として、重視せられるのはこの樺太でなければならぬ。その樺太の産業界に重きを爲すこの樺太酸素工業株式會社は、叙上の理由に依つて單に樺太のみに限らず汎く我が日本産業界の爲めに、國家的使命を帯びる重大性を有することは必然の結果と云はざるを得ない。果せる哉、當社の重役諸氏は、何れも斯る國家的責任を自覺して産業報國の實踐の爲め、身を挺してこれに當り陣頭指揮の態度を堅持してゐるから、營業上の實績は大に見るべきものがあるのは當然である。就中支配人として敏腕を揮ひ社内外に噂々たる令名を博してゐる福島定次郎氏の功績は没すべからざるもので、工場創立と同時に支配人に拔擢せられ今日には當社々運の振奮を双肩に擔つてゐるほど氏の活躍は眼覺しく大に期待せられてゐる。



# 東洋産業株式會社

【所在地】 名古屋市中區廣小路通二丁目

【電話】 本、五一四一—五番

【營業項目】 石炭其他礦産物の採掘、貨物海上運輸業、セメント及セメント加工品

【資本金】 一千百萬圓

【拂込金】 全額

【積立金】 七三五、四五二・四九

【決算期】 五月、十一月

【前期配當】 年八分

【現在の役員】 取締役社長 山内 卓郎

常務取締役 山内 政市

取締役 下出義雄、佐々部晩穂、塚本

長三郎、成田幾次郎、山内庄吉

監査役 今井清之助、高木義正、小島

和四郎

【支店工場の所在地】 東京事務所 京橋區銀座西三ノ一ノ一五

田原工場 愛知縣海郡高濱町

西表島礦業所 沖縄縣八重山郡竹富村西

臺北支店 臺北市表町二ノ六

高雄出張所 高雄市大船町五ノ一

【沿革一斑】

本邦鑛業及びセメント業界にありて特殊の存在を謳はれてゐる東洋産業株式會社は明治三十一年四月資本金十萬圓を以て設立されたる三河セメント株式會社を濫觴としてゐる

而して明治三十九年十一月十萬圓を増資したが、同四十五年一月には三萬圓を減資して堅實なる方針を立て、大正六年十一月三十三萬圓増資、更に大正十四年三月五十萬圓を増資し、昭和七年十一月二十五萬圓減資、次で同九年百二十五萬圓を増資、同十五年五月に至るや東洋々々、南海炭礦、南海汽船の三社に合併統合し社名を東洋産業株式會社と改稱するに至つた

斯くて資本金一千二十萬圓を増資したが同七月百二十五萬圓を減資して現在資本金(全額拂込済)一千百萬圓を擁して堅實な

る社礎を謳はれてゐる

本社は名古屋市中區廣小路に置き、東京事務所を是れ本銀座に設け、支店を臺北市に出張所を高雄下に置いて營業の遺憾なきを期し、工場を愛知縣下に設け、鑛業所は油縣西表島に有してゐる、而して營業とする處は首記の通りであるが特に石炭其他礦産物の採掘經營並に貨物海上運輸業に主力を注ぎ、社首腦部の適切なる經營に依り昭々たる成果を發揮しつつある

取締役社長の要給にありて卓腕を縦横に揮つてゐる山内卓郎氏は、夙に中京産業界の逸材として今名ある人、明治三十一年四月愛知縣田原町の素封家に出生、父君元平翁は三河セメントの功勞者であり基て縣會議員として地方自治に貢献する處があつた、此の名門に生を享けた氏は慶應理財科を卒業後直ちに業界に入り、昭和四年七月三河セメント重役として第一歩に踏み次で常務取締役に推されて不動の地位を占め今日の大を成したが尙春秋に富み今や國家要の重要事業に身心を凝らすは畏敬すべく同社の前途も益々大を期し得る

# 株式 久保田鐵工所

【所在地】 大阪市浪速區船出町二丁目十二番地

【營業項目】 鑄造部門II 鑄管、鑄物、鑄鋼、特殊鑄物

機械部門II 機械類各種、燃機、内燃機、計重機

【資本金】 金二千六百萬圓

【現在の役員】

取締役會長 久保田權四郎

取締役社長 久保田 靜一

専務取締役 久保田 隆造

常務取締役 小田原 大造

同 田 中 勳七

同 片 岡 帝一

取締役 木下高吉、久保田信博、高橋

政藏、大出利市

監査役(常任) 針生利喜多、久保田篤

【支店工場】

尼崎工場 尼崎市西向島町

恩加島工場 大阪市大正區南恩加島町

市岡工場 大阪市港區八雲町

鑄鋼工場 大阪市大正區昌連橋際

機械工場 大阪市大正區南恩加島町

船出町工場 大阪市浪速區船出町

堺 工場 堺市上石津

衝器工場 大阪市大正區南恩加島町

隅田川工場 東京市向島區寺島町

武庫川工場 兵庫縣武庫郡大庄村

北京工場 北京市外石堂山

滿洲久保田 鐵管株式會社 大連鞍山

【沿革一斑】

當社は明治二十二年現會長たる久保田權四郎氏の個人經營にて、造業を興したに端を發し、爾來一貫せる堅實なる經營方針は着々大を築き、昭和五年十二月株式會社組織に改組し、益々生産機構を擴充して業務隆昌を極め、昭和十三年には隅田川精鐵所を合併し、次で増資を屢々行ひて現在にては三千六百萬圓を擁して斷然斯界の巨星と謳はれてゐる

抑々當所は鐵管製造工場として著名で

あつたが、其後に於て諸設備を擴充すると共に種々なる重要重需品、製鐵、製鋼、造船、造機、化學、國防に必要とする運輸機關用品等の製造に従ひ、鋭意國策線に沿つて遺憾なく躍進をなしてゐる。殊に鐵鋼統制以後には著しく時局用途に偏重し、従つて平和産業用途より非常時局需要に向つて顯著なる轉換を致し、同社員一員一同は協力一致、報公の念を以つて各自の責務を遂行し、又、設備も數年來の計畫による機械設備の改善増補に加へ更に時局用途に充用すべき有能精巧なるものを増設して、更に一層、國策に順應すべく種々研究調査を行ひ製造に萬全を期してゐる。而して製造部門は鑄造部門と機械部門に分れ、前者にあつては鑄管(高級鑄管各種)鑄物(工作機械、鑄物、鋼塊用鑄型、定盤、制輪子、各種大小型、物類)鋼(普通、物特殊、物)特殊、物(各種耐熱、耐酸、耐アルカリ、物、化學工業用、鑄)であり、後者にては機械(工作機械、ロール旋盤、船用蒸汽機、穴氣壓縮機、水壓機各種、各種製鐵造船用機械類、紙機、機械造機其他)である



# 近藤航機製作所

【所在地】 市内蒲田區糺谷町二ノ六三八  
羽田九三四・蒲田二六七六番

【電話】 一、航空部品

【營業項目】 金十九萬圓

【資本金】 全額

【拂込金】 金三千五百圓

【積立金】 五月、十一月

【決算期】 一割

【前期配當】 取締役社長 近藤 義一

【現在役員】 常務取締役 前原 啓二

取締役 徳島 佐太郎

監査役 西山傳平、同福田安司

【工場所在地】

第一工場 本社所在地と同じ

第二工場 同區糺谷町二ノ五二七

(電話羽田九三三番)

【沿革一斑】

航空機は現在の寵兒である

單に戰時に於てのみならず、平時に於ても航空機は世界を距離的に短縮し地理的に支配するが、その威力を遺憾なく發揮する

のは云ふまでもなく戰時である

從つて航空機製作の技術的優秀性と、生産力の強大とは、戰爭の大勢を決定するものといふべきであつて、制空權を把握する否とでは戰局を有利に導く上に大なる影響があることは言を俟たない

近藤航機製作所は斯る見地から考察して我が國に抜く日本の爲めに最も力強い銃後生産力の一翼を爲すものと云ふを妨げないのである

資本金は前掲の如く必ずしも強大なりとは云ひ難いが、極めて堅實で基礎の牢平抜く可からざるものがあるのは流石に經營首腦者が孰れも斯界の専門家であり、國家的見地の上につて産業錫國の精神に燃えてゐる結果であるといふべきである

就中、近藤社長の人格と學識と手腕力量の三拍子四拍子揃つてゐるところは、何より當社をして磐石の重きに置く所以である

即ち近藤社長は愛媛縣の人で夙に大阪工業大學に學び、拔群の成績を以てその造船科を卒業し駕學の士であるが、特に航空機の重要性に着眼した氏はその後二回に亘つて歐米に渡航し、先進諸國に於ける斯技を研鑽すること多年、大に智囊を饒かにして歸朝したのである

故に氏の航空機工業に對する識見は頗る高邁であり、併かも進歩的で独自の境地を開拓してゐることを見逃かしてはならない

今や我が國は同敵米英を徹底的に撃滅せんと既に必勝不敗の態勢を獲得してゐるのであるが、彼等は殊に米國は航空機の生産能力を誇示してゐる現状に鑑み、氏の活躍に俟つところ甚だ大なりと云はねばならぬ

# 橋商會 宮本平治

【生年月日】 明治四十四年二月四日

【出身府縣】 石川縣

【原籍】 石川縣石川郡安原村字下福

【營業所】 東京市芝區新橋一ノ八(宇徳

ビル)

【電話】 銀座 二四五三・四四九七番

【現住所】 横濱市神奈川區子安臺三五

【學歷】 早稻田實業學校卒業、早大修

【家庭】 妻、一男一女弟妹三人

【經歷】

先づ經歷を叙する前に、記せばならぬのは當欄の主人公宮本平治氏は、今次事變に勇躍出征して、砲煙の間を出入して赫々たる武功を擲つた陸軍中尉といふ勇士であることである。

この國民として最高の榮譽、男子として本懐の境地を得た氏は、この一事のみを以てして既に立派な國家的人材である然るに尙ほ新興の工業家としても、一と

廉の成功を収めてゐるのであるから、正に二重の榮光に輝くものと云、をいげないのである。

氏は石川縣の人で明治四十四年二月四日を以て縣下石川郡安原村字下福増に於て生れ、郷里の學校を卒業と同時に上京すると早稻田實業學校に入學し拔群の成績を博得して卒業するや好學の氏は進んで早稻田大學に入學した。然し實業界に活動せんとする氏は好機漁すべからずとばかり、決然、同大學を中途退學して斯界の人となつて活躍の第一歩を踏み出したのである。

この毅然たる態度、右顧左 せざる決心こそは、氏をして今日在らしめるに至つた一大要諦であると云ふべきだ。

昭和十一年に至り疾くも現在の橋商會を創立したが、翌十二年に至り日支事變勃發するや氏は勇躍出征して北支支那線に轉々進撃して武功を擲つて、一年後には陸軍中尉

に進級したのである。

引續き尙ほ各戰線に轉戦して武功を重ね、同十五年一月に至り再出度く歸還したのであつて、歸來、直ちに橋商會の經營に全力を集注したのである。

固より商會の基礎が強固であるから、歸還勇士の張り切つた氣込みで渾身の努力を拂つたから、忽ち商會の大發展を遂げたのは云ふまでもない。

そのみでなく、忽ち上海支店、杭州出張所、橋洋行を設置するほどの一大發展をなし事業の擴張を實現するに至つたのである。

併かも研究心の旺盛なる氏は現に製鐵に關する研究に没頭してゐるが、既に自得するところ甚だ多いといふことである。これは近き將來に於て必ず事實を結ぶことは何等疑ふことが出来ない。

家庭には令嗣との間に一男一女あり、外に弟妹三人あり一族和氣満々として良家庭を營んでゐる。將來の發展期して俟つべきである



# 大場 鐵工所

【所在地】 市内本所區石原町三ノ二八  
 【電話】 墨田四三三三・四三〇七番

【營業項目】  
 一、コンヂットチューブ、諸パイプ拔物

一、酸素溶接、スポット溶接  
 一、自動車附屬品、通知機

【代表者】 大場 豊吉

【出生地】 千葉縣船橋市

【沿革一斑】

隣接の關係のみならず地政學的見地からしても、帝都に活躍しつゝある千葉縣人は各社會層に亘つて甚だ多く、且又、甚だ多彩に、景仰せられる成功者は頗る多い。然し乍ら眞に國策の線に沿つて公益優先の標語を實踐する産業人に至つては、必ずしも多いとは云ひ難い。大場豊吉氏はその多からざる内の特記すべき一人である。千葉縣船橋市に呱呱の聲をあげた氏は、學業を完修すると迅くも將來の計を工業界に立てた。上京して斯界の人となり技術練

磨に渾身の努力を傾けたが、早くも獨立の機會を得得し現地に創業し今日に至つたのである。

製品は前掲の如く多岐に亘つてゐるが、就中得意の優秀な技術を誇るものはコンヂットチューブ、諸パイプ、拔物絞物等であつて、酸素及びスポットの溶接技術も亦他に比肩するも甚だ少いと云はれてゐる。

尙ほ又、自動車附屬品及び通信機の製作技術も、氏の獨創的境地を開拓してゐる爲め、他に匹敵するものを知らない程である。

これを要するに、氏の今日大成功を收めた主なる原因は抑も那邊に在るかといふならば、徹頭徹尾、努力の二字に盡きてゐると云はねばならない。郷里千葉縣に於て學修を完了してからの氏の技術練磨に對する寸暇も忽にしない。獨振りは、それこそ涙ぐましい位であつて、全く自個を技術の中に没入して他を顧みない熱と力の坩堝に投じたのである。その報ひが即ち今日の輝し

い成功を齎したものと看做すべきであらうと思ふ。

今日は産業界も亦均しく第一線と同様戰場である。産業界の振否は延いて第一線將兵の戰鬥力を左右することは勿論、やがては最後の勝敗を決定するに至るものである。

故に産業界に於ける技術の良否、生産力の多寡如何は、戰爭の最後の段階を決定するのであるから、その成果の如何は謂はゞ一國の運命を支配するものと云つても、強ち奇矯の言ではないであらう。

斯る意味からして大場豊吉氏の事業に眼を轉ずるならば、吾人は大に意を強うするに足る想ひがするのである。

大東亞戰爭の眞の關ヶ原は寧ろ今後に在るのであるが、この軍士時機に在つて大場豊吉氏の活躍は國家の爲めに大に崇敬に値ひするところであるが、今後一段と發展せられんことを期待して已まぬものである。

# 日本漁業用品商業組合聯合會

【所在地】 市内京橋區築地三丁目（築地ビル内）

【電話】 築地 一五七・四七五番

【營業項目】 一、漁網、漁網一、其他漁業用資材

【資本金】 金五十萬圓

【拂込金】 金二十五萬圓

【積立金】 金四千八百八十圓餘

【決算期】 毎年五月

【現在役員】 理事長 菊谷 茂吉

常務理事 新谷 專太郎

理事 白井 勝三郎

同 中山 敏央

同 大野 正平

同 松本 民治

同 木村 彰雄

監事 階上 金四郎

同 鏑田七右衛門

【認可年月】 昭和十五年五月十五日

【沿革一斑】

帝國の一つに數へられ、併かもその漁撈の技術に於ては世界の最高峰を占むることは自他共に許すところである。斯くの如き漁業日本の名譽と威力とは所謂七ツの海を我が掌裡に掌握してゐるのであるが、これは單に技術の優秀性に依るばかりでなく、その根柢をなすところの勇敢無比なる進取的漁國男子の意氣と、和衷協力する國民性とに因由することを決して忽略に附してはならぬと考へる。斯る意味からしても、當組合聯合會の結成と活躍とは大に吾人の研究すべき對象たる價値を有するものといふべきである。抑も同聯合會の設立認可は、昭和十五年五月十五日であつて、設立の趣旨は、左の如きものである。

## 設立趣旨

一、内地一圓に亘る漁業用資材配給の指導並に統制を行ふを以て目的とす  
 而して現在の所屬組合は、四十四組合で

あつて（但し所屬組合は一縣一單位）極めて範圍であり全國的の有力なるものである。

聯合會設立後、未だ多く語るべき沿革を開してゐないにも拘らず、活潑なる業勢を展開しつゝある所以は、一に理事長菊谷茂吉氏、

常務理事新谷專太郎兩氏を初め、白井勝三郎氏以下五理事、二監事の諸氏が協心戮力して能く國家的使命の重大性を自覺し、一意専心

産業興國の精神の顯現と實踐とに渾身の努力を拂つてゐるからに外ならないのである。この奮闘の精神が全國の組合員に徹底して打つ

て一丸となり、戰爭下に於ける食糧確保と漁業日本の名譽の爲めに、全能力を傾け盡してゐるからである。

切に同時國民食糧の建前上に發展を希望して已まぬものである。



# 北海道石炭販賣株式會社

【所在地】 小樽市稻穂町西六ノ一四

【營業項目】

- 一、石炭の買入及販賣
- 一、石炭の移出入及輸出入
- 一、生産業者に對する資金の融通

【資本金】 金一百萬圓

【拂込金】 金五十萬圓

【積立金】 金二萬五千圓

【決算期】 三月、九月

【前期配當】 年六分

【現在役員】 社長 徳田 康 作

常務取締役 伊藤 健太 同 加藤 秀八郎

取締役 茂木 泰三郎 同 菅原 俊太郎 同

藤田 安之助 同 荒田 太吉 同 岡新六 同

福岡 貞雄

支那人 波多野 直衛

監査役 水野 一壽 同 岡長男 同 安田

眞太郎

【沿革一斑】

當社は石炭配給統制法第一條による商工大臣の指定賣社として、昭和十五年九月十

九日設立せられたるもので、その構成組織は北海道に於ける石炭年産三十萬噸未満の生産者を以て株主となし、次の如き諸事業を遂行し今日まで増しき業績を収めつゝあるものである。

本社の事業

- 一、石炭需給の円滑を圖る事
- 一、價格の適正を圖る事
- 一、石炭統制の運営に就き 國策遂行に協力する事

而して現在本社が所在する小樽市の如く小樽市に在るが、これは昭和十七年二月二十五日の臨時株主總會の決議に依つて、従來東京に設置せるものを移轉せるものである。この移轉は北海道が如何に石炭控上重要據點であるかを明言に物語るもので、當社の負担する使命も亦重大なりと云はねばならぬ。

# 興國人絹バルブ株式會社

【所在地】 市内日本橋區橋町三番地ノ七

【電話】 (代表) 浪花三一九一

【營業項目】

- 一、バルブ、ステープルファイバー、句裝紙
- 一、其他纖維製品、石炭、硫黃及工業藥品類

【資本金】 三〇、〇〇〇、〇〇〇圓

【拂込金】 一九、五〇〇、〇〇〇圓

【積立金】 一、二八三、五六七圓

【決算期】 四月、十月

【前期配當】 年七分

【現在役員】 取締役社長 金井 滋直

常務取締役 小泉 俊三、同 井上 重則

【營業所】

- 一、千成登 營業所
- 北海道岩内町 鷹巣町 一一五番地 (電話岩内八二番)
- 所長 三谷 省 吾
- 一、九州石炭 營業所 福岡縣 二瀬町
- 【工場所在地】

富山工場 富山市 八代工場 八代市 福井工場 福井市

新興纖維工業として王座を占むるものはス・フであることは兒童亦々尙ほよくこれを知らるといふべく、工業日本の申しき發展の前途を擔當するものと云つて差支へない。

斯る代表的新興工業界に在つて、併かも独自の經營方針を樹て、隆々たる社運を誇り、闘ひ抜き勝ち抜く日本の頼母しくも力強い一翼を爲すのは、即ちこの興國人絹バルブ株式會社であつて、社名に冠せる「興國」の二字は正に名詮自稱の内容を立證する左券と評しても強ち、徒らに形容を弄するものではあるまいと信ずる。

その取扱ふところの營業品目は前掲の如くバルブ、ステープルファイバー、句裝紙等を主となし、其他の纖維製品を網羅してゐるが、尙ほ石炭、硫黃及びその他の工業

斯くの如く時局的脚光を浴びて颯爽と黒マイヤの根源地たる北海道に營業の大據を構えた當社は、人的物生産的兩面に亘つて必勝不敗の態勢を確立してゐるが、殊に營業首腦者に斯界の第一人者を網羅してゐることが、何よりも當社の多幸多望なる將來が約束せられてゐるものと看做して差支へあるまい。

即ち社長には徳望家で淵達の氣象を謳はれる徳田康作氏を推戴し、その輔佐役として伊藤、加藤兩氏の常務取締役を初めとして茂木氏以下の各重役諸氏は彼れも或は手腕に於て或は識見に於て、或は實行力に於て各々その特徴を有してゐるから、その人的構成には一點閃然する處なく、空壁の重役陣を布いてゐる爲め、確乎不動の社礎を築き上げてゐるのは當然と云はねばならぬ。當局は益々深刻の度々加へつゝある刻下の情勢に照らし、當社の發展は國家大局の爲め大に期待せられてゐる。

藥品類をも内包してゐるので頗る多彩を極めてゐるのである。

併かも業勢の華々しきに至つては特筆に値すゝと、毎々、毎年四月及び十月の毎期決算期には潤澤なる利益を収めてゐるが、最近の益金處分に於ては年七分の株主配當を行ひ、剩餘金は専らこれを後期に繰越しを行ひ、只管、社礎の強化に努めてゐるのである。

この一事に照らして見ても、如何に當社の經營首腦者が國家的見地に立脚し私益を第二義的として産業興國の實踐に主力を注いでゐるか窺知し得られるであらうと思ふ。

即ち取締役社長金井滋直氏は斯界の徳望家であつて、事業經營に對する腕の冴えは正に他の匹敵を見ざるところと云はれてゐる。又小泉、井上兩常務取締役の兩翼は實に其の人を得たるものといふべく三首腦の鼎立は實に心強き極みである。



# 耕北合資會社

社長 北原喜一郎

【出身地】 北海道岩見澤町

【現住所】 札幌市南二條西四十二ノ三三三

【電話】 札幌九二二番

【現在職業】 耕北合資會社社長

- 一、不動産買賣業
- 一、鑛山業

## 【經歷】

世に成功者と呼ばれる者は多い。が然し自力自成で自己の運命を開拓し、自己の事業を築き上げた者でなければ、眞に成功者の名を悉にする者とは云ひ難いであらう。

本欄の主人公北原喜一郎氏こそは、正真正正の成功者たる資格を有する人材といふに吝かでない。

抑も氏は父祖以來、岩見澤町に於て土曜一流の呉服商を営み、町民の間に該博なる信用を積り付けてゐた巨商であつたが、生來、豪壯なる氣風の氏は帳場格子の裡に端坐して、徒らに十呂盤に弄する靜的なる營業に終始することを屑しとなかつた。

そして、決然と轉身を志し、同町二條二丁

目に移轉して舊來の家業を一擲し土産買賣の事業に身を投じたのである。

この百八十度の轉身は並々ならぬ決斷力の所有者でなければ出来ない處であり、且又、餘程、胸に成算のある者でなければ決行し得られるものではない。

北原氏はこれを敢てしたのである常人の能く爲し得ない營業的轉向を、何の躊躇もなく邁り進めたところに、氏の非凡なる人物の程が窺はれるではないか。

爾來、凡ゆる困苦と闘ひ、所謂、荆棘の途を截り拓いて我々營々として精進したその不屈の精神力は、遂に今日の盛大を招來したものと云はねばならぬが、その間に時に盛衰の起伏もあれば消長も横たはつてゐたことは敢ていふまでもない。然し、それを悉く征服し盡した氏の絶大なる貫徹力に至つては、寧ろ驚嘆すべきものがあらう。

年と共に事業は發展に次ぐに發展を以て

し、氏の盛名は益々時傳せられるに至つた。

ので、事業の擴大に伴つて營業所の移轉を告げた爲め、昭和十三年に至り札幌市南二條西十二丁目耕北合資會社を創設開業するに及んで、氏の事業的領域は更に一段と陸離たる光彩を添へたのである。

その營業的勢力は、全道隅なく伸展するばかりでなく、海峽を超へて本土に伸び、東北六縣にも及ぶといふ隆々たる業勢を張るに至つたのである。

併かも時局の進展に鑑みて先見の明ある氏は銅、鐵、アルミニウム其他特殊鐵の重要性に着眼し、これが採掘製錬に着手したのであるが、後志國島敢に千走鑛山、瀬棚郡宇ピリカエ大黒鑛山、久遠貝取湖に兩國鑛山、遠く津輕海峽を越えて青森縣東津輕郡原別に金堀鑛山を経営稼行し、何れも有望なる鑛業として將來に期待を寄せられてゐるのである。近々將來に於ける氏の活躍こそ正に刮目してまつべきであらう。

# 北海道漁業組合聯合會

【所在地】 札幌市北三條西六丁目

## 【營業項目】

- 一、販賣事業
- 一、購買事業
- 一、金融事業
- 一、利用事業
- 一、指導事業

## 【現在役員】

會長 榎太郎  
専務理事 谷脇重助  
同 神谷實  
常務理事 富藤主計  
同 梅谷周造  
同 米澤勇  
同 高野源三  
同 岩井治三郎

理事 中村西松、加藤誠二、奥田徳兵衛、金澤濱次郎、竹村幸太郎、新谷廣治、松永富男  
監事 田中秋四郎、金澤藤吉、武田勝之助、野豐作太郎、大山澄次郎

岩城禮司、吉田鐵藏

## 【支所所在地】

小樽支所 小樽市南濱町六丁目  
樽山支所 樽山郡江差町  
函館支所 函館市東濱町四  
日高支所 浦河郡浦河町  
釧路支所 釧路黒金町七丁目  
根室支所 根室郡根室町  
北見支所 紋別郡紋別町  
宗谷支所 宗谷郡伊内町

## 【沿革一斑】

本會の創立は昭和九年十月開催の全道水産團體長會議に於て設立の議起りたるに始まり、その後漁業法の改正に依る漁業組合組織設定の急速なる進捗に伴ひ、設立の機運熟し、昭和十二年五月一日道内百三十四組合及四聯合會の設立参加を以て北海道廳に設立認可を申請し、同年五月十七日附之れが許可を受けたのである。

而して實際、事業を開始したのは同年九

月十日よりで、第一事業年度（昭和十二年

度）は將來の堅實なる發展を圖る爲め、専ら所屬組合との連絡、確實なる取引先の獲得及び内部機構の確立に努め、事業は自己資金の活用程度に止め、第二事業年度（昭和十三年度）に於ては本會擴充計畫を樹立し、先づ購買事業に活動を開始し順次各種事業に着手し、次で第三事業年度（昭和十四年度）には事業の順調なる進展と積極的活動を期する爲めに地方聯合會（茅部、山越郡、樽山、松前、龜田、上磯郡、北見、宗谷）の解散に依る事業繼承を完了し名實共に本道の聯合會たる體制に整へ、第四事業年度（昭和十五年度）以降は全事業に亘り積極的活動を續け今日に至つたものである。今や戦局益々深刻の度を加ふる現狀に鑑み、本會の同滑なる發展を期待して己まぬものである。



# 北海道瓦斯用木炭株式會社

【所在地】 札幌市北四條西二ノ一  
【電話】 札幌 二三三一・五五八四番

【營業項目】

- 一、瓦斯用木炭の生産及販賣
- 一、鑛工業用木炭の生産及販賣
- 【資本金】 金一百萬圓
- 【拂込金】 全額
- 【積立金】 金七千四百五十七圓餘
- 【決算期】 三月末日
- 【前期配當】 年六分
- 【現在役員】

取締役社長 黒澤 西蔵  
専務取締役 川西 輝 昌  
常務取締役 比治 茂  
同 二瓶 榮 吾

【創立年月】 昭和十六年十二月二十四日  
【沿革一斑】

近來、木炭の需要は頓みに激増しつゝあることは、一面戦争遂行、一面建設費の二大事業を併進しつゝある事實に照らして

當然過ぎる程當然であるが、これが円滑なる解決に對しては、官民共に全力を傾注せねばならぬのである。

斯る意味に於て當社の事業を考察するに當社の創立趣旨に徴しても國家的使命を帯びて居るばかりでなく、發展の徑路に照應して見ても産業興國の精神の裏地に資するところ頗る甚大なるものがあるのである。

叙上の如く創立趣旨が既に然り、今日までの事業経過亦然りであるから、今後に於ける當社の發展は期してまつべきであらう。次に當社の事業内容に就て一瞥を與へるに、瓦斯用木炭の生産に主力を注ぎ、最近にては鑛工業用木炭の生産にも同様の主力を傾注しつゝあるが、これ等は孰れも皆優良で、炭品の他に比肩すべきものない絶對性は、流石に専門的の事業の名を辱めぬものがあると言つてよい。

殊に刻下の如く大戦を續行中の我が國に

在つては、戦前に比し、瓦斯の使用量の膨脹せることは正に瞶目に値するところであつて、これを補給する爲めにはどうしても木炭瓦斯の生産に努めねばならぬのである。

所謂、戦ひ抜き勝ち抜き爲めには凡ゆる代用品の活用こそ喫緊事と云はねばならぬが、瓦斯生産の爲めに當社の如く良品にして効用價値大なる良品なる木炭を多量に生産し、軍民兩面に亘つて潤澤なる供給をなしつゝあるのは、これ正に産業興國の實質に實踐せる好成績と云つて然るべきであらうと思ふ。

尙ほ當社獨得の製法に係る木炭は、瓦斯用に特殊の効果を齎すのみならず、鑛工業に對してもそれに劣らぬ効用價値を發揮して、凡ゆる工場鑛山から噴々たる好評を博してゐるのは、寧ろ當然の結果と云はねばならない。今や戦争は第二段階に移行したのであるが當社の發展こそ國家的待望的の云つてよい

# 北海道石炭統制組合

【所在地】 札幌市大通西二十丁目四六ノ

【電話】 札幌五二四三番

【設立趣旨】

本組合は石炭統制會の統制指導の下に石炭鑛業の統制運営を圖り且石炭鑛業に關する國策の遂行に協力することを目的とする

【現在役員】

理事長 林 敬 一

【沿革一斑】

率直に云へば戦争は即ち燃料戦である。この動力の強弱が取りも直さず一國の闘ひ抜く勢力を左右するものである。

現在、我が日本が國家の總力を擧げて闘ひ抜く爲め、七年間戦ひ續けて赫々たる驚天動地の武勳を樹てつゝある主因は、素より大御稜威の下忠勇なる將兵の賜ものに外ならないが、その忠魂義魄をして存分に發

揮せしめ得る物的諸條件が與つて力ある一事を快して不問に附する譯には行かぬであらう。

更らに影響を誇る我が物的諸條件の内でも、最も重要性を帯ぶるものは何かと云へば、云ふ迄もなくそれは燃料の問題であり燃料は即ち石炭を意味するほどその代表的なものである。

斯る前提の下に、本邦に於ける石炭事情を考察するに、北海道に於ける石炭が、日本の石炭を代表するものであるだけに、大に吾人の意を強うするに足るものがあるのである。

本統制組合は叙上の如き北海道に於ける石炭業界を打つて一丸となし、國家的使命の達成に努めつゝある重要機關の一つと云つてよい。

その區域はその定款にも明記してある通り、札幌鑛山監督局の管轄區域を所管とせるものであつてその組合員の構成分子は次

の如きものである。

即ち定款第一章總則の第五條を抜萃すれば左の通りである。

第五條 本組合は道区内に於て石炭鑛業を營む鑛業權者（一人以上の鑛業權者共同して石炭鑛業を營む場合）に在つては鑛業法第七條の代表者（一）にして石炭統制會の會員に非ざるものを以て之を組織す

とあり、又、當組合の事業を達成する目的として左の數項をあげてゐる。

- 一、石炭の生産計畫の設定及遂行に關する事項
- 二、石炭鑛業に關する資料、資金及勞務の確保及び配分に關する事項
- 三、石炭鑛業の整備確立に關する事項
- 四、石炭鑛業に於ける技術の向上、能率の増進、經理の改善其他事業經營の合理化に關する事項
- 五、組合員の事業に關する指導及検査に關する事項
- 六、石炭鑛業に關する調査及研究に關する事項
- 七、其他本組合の目的を達するに必要な事項



# 北産食品工業株式會社

【所在地】 北海道留萌町原野二線七番地

【電話】 特 二六〇番

【營業項目】

- 一、竹輪、蒲鉾製造並に販賣業
- 一、水産物の加工製造並に販賣業
- 一、農産物の加工製造並に販賣業
- 一、漁業經營及び金融、代理業
- 一、前記各號に附帶する一切の業務

【資本金】 金十八萬圓

【決算期】 毎年七月

【現在役員】

- 取締役社長 堺 太一
- 常務取締役 大野 市三郎
- 同 荒井 常世
- 取締役 井藤 鶴一
- 同 松澤 正平
- 監査役 吉田 春吉
- 同 街道 代喜治

【沿革一斑】

今次の如く世界的大競争を遂行して行く

上には、軍需民需の凡ゆる部に亘つて全面的物資の増産と確保を樹立することは必要不可欠の問題である

就中、國民全體に直接關係のあるものは食糧問題であつて、これが圓滿にして積極的な解決を與へると否とは、正に競争の勝敗を決定する重要な鍵であると云つても差支へあるまいと信ずる

この見地からして當社の事業は、國ひ抜く今次の大東亞競争をして輝かしい結果に招來する爲には絶對に必須條件であつて、謂はば時時國民の生命を托せられた國策的事業と云つても、強ち溢美の言ではあるまいと思ふ

何となれば、營業項目の條に掲出せる條項を一覽すれば重事顯然たるところであるが、北海道の特産ともいふべき水産物を資材とする各種の食品を加工製造し、美味にして遊樂に富み、保体上最も勸進價値に富んでゐる良質であるばかりでなく、貴約

の點から検討しても極めて豊富なる生産能力を有してゐることも、本特記せねばならない當社の特徴である

即ち一般國民生活の面に於て、日常吾人の食卓を賑はし萬人より好せられる彼の竹輪蒲鉾を初めとして、その他水産物を原料とした各種各味の水産加工食品は、當社の獨特なる製造技術に依つて製造せられたもので、その價値は既に一般市場の價値を決定的に獲得してゐる處である

併かも製造品種は常に水産物のみに止まらずして農産物の加工製造にも及んで居り、これ又「海の幸」の加工に對して「山の幸」の價値を遺憾なく發揮せる獨特の製造法を講じ萬人をして思はず美味を叫ばしめ、舌鼓を打たせしめるに足る美味なる時時食品中の太宗たらざるはないのである

尙ほ營業項目には一般漁業經營とその金融をも兼營して、これ又相當以上の好況を呈してゐるのであるから、當社經營者職者の識見と敏腕に驚嘆せざるを得ないのである

# 無限責任 増毛漁業協同組合

【所在地】 北海道増毛郡増毛町大字稻葉

町三ノ三七

【電話】 増毛 三〇・七三番

【營業項目】

- 一、水産に關する施設一般
- 【資本金】 金一一六、四九〇圓
- 【拂込金】 金六二、九五三圓餘
- 【積立金】 金四四、四一七圓餘
- 【決算期】 毎年十二月末日
- 【現在役員】

- 組合長理事 石田 露松
- 専務理事 浦野 尚規
- 理事 相馬 仁太郎
- 同 藤田 九郎助
- 同 工藤 豊吉
- 監事 小林 忠三郎
- 同 竹内 文三郎
- 同 石田 重藏

【沿革一斑】

増毛町の我が日本は、名實共に世界的

漁業國であり、その日本の漁業を代表するものは云ふ迄もなく北海道であることは何人も知悉せる通りである

その北海道の漁業は、正に世界の所謂七ツの海を殆んど洩れなく活躍してゐるほどわが日本の漁業は地球の凡ゆる海域を堂々と邁歩してゐるのである斯の如く世界に冠たる我が北海道漁業中でも、最も活氣あり漁獲量の夥しい地域が域を根據とせる北海道増毛町の漁業協同組合の事業は、謂はば日本漁業の一面を代表せる重要機關であると推すに吝かではないその營業項目は「水産に關する施設一般」といふことになつてゐる通り、組合員の營業色彩は漁業全體に亘つて網羅してゐるので、それだけ内容は潤澤であり豊富を極めてゐる

營業運轉の資金は十二萬圓未滿であつて

必ずしも巨額とは云ひ得ない迄も、組合の目的を遂行する爲めの事業を円滑に運轉する爲めには十分であるのは云ふ迄もない

併かも積立金として約五萬圓を擁して居り資力の點では誠に堅實にして強力性のある機關であると云ふを妨げないのである

こは一に組合首腦者にその人を得たると、人の和の霽々然とした協力一致の暖ものと看做して差支へあるまい

即ち組合長で理事である石田民の信望と事業的背骨とは、氏の高潔なる人格と相俟つて押しも押されぬ一城一國の主たる實績を有してゐることが、當組合の事業をして活潑にして効果甚甚たる主因と云つてよいと信ずる、この組合長を輔佐するに浦野専務理事を以つてし、その他相馬氏外五氏の現在役員は何れも北海道漁界の一體感者であることが最も強力なる人的構成の要素であると云はねばならぬ



# 沿海州機船底曳網組合留朋支部

【所在地】 北海道留朋町南山手通

【電話】 留朋 三五三番

【現在役員】

- 支部長 小澤 友平
- 幹部 吉田 平作
- 同 瀧谷 久二郎
- 同 小川 喜代次
- 同 留朋産株式會社

【沿革一斑】

世界漁業の最高峰を占むる我が日本の漁場としては、北海を中心とする凡ゆる水域に及んでゐるが、最も有効にして豊富なる水域は沿海州一帯であることは何人も知悉せる通りである。

このわが水産漁場の本場であり核心を爲すところの沿海州一帯を事業の對象とせる常沿海州機船底曳網組合留朋支部は、その事業の振否如何は延いて一國産業の消長に影響するところ甚だ大なりと云はねばならぬ。

斯くの如き重要使命を帯びて結成出現したのが沿海州機船底曳網組合であつて、その國家的使命を達成してよくその價値を確保維持して行く爲めには、勿論、練達せる漁撈技術に依ることは云ふ迄もないが、尙ほその要素として老練家の技能を遺憾なく發揮せしめるに足る各種の用品の與つて力あることは、これヲ斷じて輕視すべからざるところである。

即ちその主幹となるべきものは先づ第一に網であり、網であらう。勿論、漁撈に使用する網の種類は多岐多種で一律にこれを論斷すべきものではないが、就中底曳網の如きは特殊の魚介を對象とする漁業に使用するものであつて、これなくしては到底漁撈の目的を達成し、所期の魚介類を稱得することが出来ないものである。

當組合の本部の結成は叙上の如き國家的目的を齎して出現したものであるから、その留朋支部は云ふまでもなく留朋を中心と

せる限られた地域的のものであるとは云へ、その根本に内包するところの趣旨には何等異なるところがある譯ではないのである。

果せる哉、當留朋支部の役員諸氏は、何れも實際家であるのは勿論であるが、その事業經營の根本義に於て徹頭徹尾奮闘精神を堅持してゐることである。

この産報の精神が組合支部の役員間に依つて醸成せられ昂揚せられてゐるばかりでなく一般現場の漁撈者の一人々々に對しても能く滲透してゐることも、斷じて看逃がしてはならぬところである。

従つて漁撈事業に對する意氣込みと、その收穫とは、益々向上發展の一路を辿りつゝあることも、決して異しむに足らない處であつて、殊に闘ひ抜く刻下の我が國情に照らせば沿海州漁物の確保と増産計畫の實踐とは、決して勿語に附すべからざるところである。

切に當組合支部の發展と積極的活躍を待望して措かないものである。

# 留朋鮮魚介配給統制株式會社

【所在地】 北海道留朋町大字留朋村六九九ノ一

【電話】 事務所 二二二番

第二荷捌所 三九五番

【資本金】 金十八萬圓

【拂込金】 金九萬圓

【決算期】 自一月一日至十二月三十一日

【現在役員】

- 取締役社長 武田 勝之助
- 常務取締役 高野 良二
- 取締役 小澤 友平
- 同 加地 民藏
- 同 白石 廣太
- 同 大野 岩松
- 同 沼田 久平
- 同 中村 米松
- 監査役

【沿革一斑】

勝ち抜く競争を續ける國內的諸機構上に必要欠くべからざるものは多々あるが、最も急を要し、最も圓滑を要し、最も磨礪

を對象とするものは何かと云へば、何よりも先づ物資殊に國民食糧品の配給問題であるのは、寸分論議の餘地はあるまいと思ふ。

何となれば食糧は戦時に於ける武器彈藥の製作に次ぐ、否なそれと殆んど同程度の重要性を持つものであるからである。

俗に『腹が減つては戦さが出来ぬ』と云はれてゐる通り、國民全般の日常食糧の確保こそ、闘ひ抜く競争の根本的動力となるものである。

殊に魚介類は我が日本人の食糧品中王座を占むるものであるだけに、これ等の配給機構を整備せられ、圓滑にその機能が運營せられると否とでは、國民の競争遂行上に直接影響するところであるから、この問題の理想的解決こそ、最も必要であり重大である。

當社は即ち叙上の重大なる目的遂行の爲めに組織せられ、設立せられたるものであつて、わが漁業の本場である北海道に於け

る留朋を中心とせる漁獲物の配給を統制する重大使命を帯びて設立せられたるものである。

従つて創立以來の營業成績は、極めて良好であつて、逐年、大に見るべき實績を収めつゝあるのはいふ迄もないが、その主なる原因は勿論重役諸氏の識見と、非凡なる計畫と、更らにその実行力とに歸せねばならぬと思ふ。何となれば取締役社長の武田勝之助氏の深厚なる信望と奮闘精神の濃刺たる一事がその根柢を爲すところであるが、高野常務取締役の献身的な態度と、その熱誠振りとはよく武田社長を輔佐して餘すところないのである。

それのみならず小澤取締役を初めその他の五重役諸氏が協力一致して社運の伸展に努力するばかりでなく、その營業趣旨の根本精神が、産報諸國の大本に即してその國家的線に沿うて進行しつゝあることである。

故に當社の過去及び將來を一貫して透徹する精神は總て國家的であることであるから、今後の發展こそ期して俟つべきである。



# 無限責任 留朋漁業協同組合

【所在地】 北海道留朋港

【營業項目】 一、水産に關する施設一般

【資本金】 金六萬二千六百四十圓

(二千八百八十口)

【拂込金】 金三萬三千四百五十圓

【積立金】 金三萬三百二十二圓四十七錢

【現在役員】

- 組合長 武田 勝之助
- 理事 渡邊 哲四郎
- 同 菊地 春吉
- 同 中村 未松
- 同 三國 武保
- 監事 小松 哲之助
- 同 木村 捨吉
- 同 柳澤 源藏
- 主事 關 彌四郎

【沿革一斑】

過般、留朋漁業組合五十五年の記念祝典を擧げた當組合は、單に當組合の生長發達を意味するばかりでなく、實に北海道

の漁業發展の徑路を物語り、延いては本邦漁業の進展の跡を加實に立證する一斷面と看做すべきであらう。

即ち明治年間に於ける留朋町の歴史は、同時に漁業の歴史でもあるのであつて、本組合が明治二十年漁業組合準則の制定に基き、留朋郡留朋三泊禮受村漁業組合として創設せられ、爾來本町漁業並に町勢發展に寄與したることは極めて偉大なりと云はねばならぬ。

即ちこれを尙ほ詳細に記するならば、明治十九年に發布された漁業組合準則に依り翌二十年一月一日に創立されたものである最初の役員は頭取(現在の組合長)は武田庄右衛門氏、副頭取岩田岡藏氏、森野重次郎氏、取締役金澤安太郎氏、村田佐吉氏、鈴木清吉氏等の諸氏であつた。

而して創立當時の棟建網は六十三ヶ統、鮭建網十二ヶ統、鱈建網六ヶ統、組合員總數六十二名に過ぎなかつた。爾來、事業の

進展に伴れて組合員數は漸次増加の一途を辿り、大正年開に入つては千名を突破するに至つたのである。

然るに、その後第一次歐洲大戦當時に至り日本商業資本主義の目撃しい露頭の餘波を蒙り、漁業家が續々商業資本主義の圈内に移行した爲め、當町の漁業家の性格は變化し、輪廓に異變を招來するに至つた。

その後尙ほ幾多の變遷を経て今日に至つたものであるが、現在には四百八十七名の組合員を擁し、事業としては川北加工工場の經營、魚卸賣市場を經營して配給機關の使命を達成し、年額九十萬圓を突破する巨額に達してゐるがこれ又逐年遞増の傾向を示してゐるのは云ふまでもない。即ち現に二萬五千圓の豫算を以て南嶺壁隣水地帯に移轉大増築の工事中であるが、近々竣功を告げる筈で大に期待せられてゐる。

尙ほ又特記すべきは運 送船海幸丸三四噸四、七(豊林八十八馬力)の新造である。この海幸丸の活躍こそは當組合將來の發展を擔ふものとして大に刮目せられてゐる。

## 住 友

## 實

【生年月日】 明治四十三年三月一日

【生身府縣】 德島縣

【原 籍】 東京市澁谷區小川町五二

【現住所】 北海道岩内町御野内町一六六

【電 話】 岩内 一〇七番

【學 歴】 秋田鑛山專門學校採鑛科卒業

【家 庭】 妻幸江 長男三芳

【經 歴】

我が國は今や乾坤一擲の一大征戰に一路邁進しつゝあるが、これを完全に遂行し所謂聖戰の眞意義を完全に顯現達成する爲めには、凡ゆる國民は凡ゆる職業の立場よりして國策に相應すべきは勿論であるが、就中、直接、産業方面に携つてゐるものは一層産業振興の實踐に渾身の努力を拂はねばならぬのである。

こゝに前半生の奮闘記録を抄記せんとする住友實氏は、鑛業資源の開發に對して、

國策の遂行に挺身する新進氣鋭の第一人者と推すに躊躇しない。

氏は德島縣の人で明治四十三年三月一日を以て呱呱第一聲をあげた。郷里の中學校を卒へると秋田鑛山專門學校に入學し拔群の好成績を以てその採鑛科を卒業した。

爾來地下の埋藏資源の開發こそ國防國家を確立する上に於て缺くべからざる。ことを痛感すると同時に、これを以て終生の事業とせんとする堅き信念を抱いて研究と調査に没頭すること多年に及んだ。

その結果、遂に北海道積古西單半島に於ける道内は勿論全日本を通じて稀に見る良質の一大銅鑛を發見したのである。

そしてこれが開發に不眠不休の奮闘努力を重ね、涙ぐましい東奔西走の後その埋藏物の價値を利用厚生途に活用するに至つたものである。

即ち氏の伯父に當る大阪市在住の木材問屋である住友與平氏に相談し、住友一族の

住友産業株式會社を設立し、氏自ら現場に詰切つて事業の發展に全能力を傾けて挺身したのである。

然るにその卓識と努力とは國策會社たる帝國開發株式會社の認むるところとなり、昭和十七年十月賣買問題が提起せられたのを機會に、大資本を投資してこれが積極的に採鑛開發に乗出すこととなり、慎重審議の結果、同年十二月遂に帝國開發株式會社と共同經營に決したのである。

叙上の徑路を踏んで今日に至る發展的コースを辿つたものであるが、氏は今や現在の國防國家建設の爲めのみならず、當面の征戰完遂の爲めに一塊の銅鑛をも増産せしめねばならぬとの産報的精神を以て事業の第一線に立ち、殆んど氣力なき奮闘振りを知る程の人は驚嘆せざるはなしである。

今や戰爭は愈々長期戦の第二段階に移行したのであるが、それには銅鑛のその他の金屬類の増産に一路邁進せねばならぬ重大なる秋であるから、氏の活躍に期待する處頗る大なるものがある。



# 山崎福松

【生年月日】 明治十九年四月八日

【出身府縣】 新潟縣

【原籍】 新潟市關屋上本村町

【現住所】 同上

【電話】 新潟 三三六五番

【現在職業】

- 一、油煙製造所經營
- 二、ピッチ、コークス、煉炭製造、ク

レオソート製造販賣

【沿革一斑】

新日本を産んだ幕末維新の黎明期に在つて、日本五港の一として門港せられ、日本海に臨む唯一の良港たる名實兼ね有する新潟港は、正に日本開國の一方の要衝であると云はねばならぬ。

その新潟港今日の股賑を招來した原因には幾多の因由が潜在してゐることは云ふ迄もないが、その天恵の地の利を別としても同港に於ける各種商業界の眼望しい發展に負ふところ甚大なるは他言を要せぬところ

である

本欄の主人山崎福松氏の事業はこの意味に於て決して不間に附すべからざるものと云ふべきであらうと思ふ。

即ち新潟港は波濤の荒き日本海を控え、海風の烈しい地政的制約に依る爲め、一般の住宅家屋の建築上に於ても北國獨得の技術的考察を要することは云ふまでもなく、事實、北國特異の屋上補強が謀じられなければならず、古來より北國建築の獨自性を發揮してゐるのは必然の結果である。

この意味に於て山崎氏の屋根油煙製造は元祖たる權威だけに、新潟の地方特色を特色づける上に於てもその特異性を闡明する上に於ても、決して見逃がしてはならぬものと信せられるのである。

即ち新潟地方に在つては往昔に在つては瓦葺なき郡部が夥しかつた爲め、これが鐵を補ふ爲めに特殊の屋根油煙を以て塗裝し、水火共に効果絶對的な実績を有するもの

が、山崎氏の多年研究せる獨得の成果である。

氏が斯る輝しき特殊の屋上塗裝事業を創始したのは大正十年五月であつて、今日まで實に二十二年の歲月を閲みして居り、實効の顯著なることは全く驚嘆に値するところと云つてよいと思ふ。

即ち油煙製造所を經營して今日に至つたものであるが、偶々、今次の大戦が勃發して以來、他の物資の缺乏の爲め、益々その需要を増加する傾向を馴致したので、時局的需要性を發揮し、新たに時代の脚光を浴びて産業報國的意義を顯揚しつゝあるのである。

その他、ピッチ、コークス、煉炭製造、クレオソード製造をも兼營し逐年その事業は多彩多岐となり事業の發展眼望しいものがあるのである。

斯る意味に於て山崎氏の事業は新潟の産業を論じ、新潟の地方特色を談ずる上に於ては決して見逃してはならぬ存在である。

尙ほ氏の長男山崎松治氏は曩に應召せられ目下第一線に於て軍中で、赫々たる武勳を擲つゝある盡忠の勇士である。

# 株式會社 新潟商會

【本社所在地】 大連市岩代町三一

【新潟支店】 新潟市沼垂中央埠頭大通

【電話】 新潟 一五二一番

【營業項目】

- 一、食料品
- 二、雜貨

【資本金】 金十萬圓

【拂込金】 全額

【決算期】 毎年九月三十日

【前期配當】 年六分

【現在役員】

取締役社長	高杉 石藏
専務取締役	高山 藤七郎
常務取締役	濱田 又次
同	高山 弘榮
同	清水 久吉
同	高杉 儀平
同	小林 力三
同	高橋 助七
同	堀川 權六
監査役	堀川 權六
同	堀川 權六

【創立年月】 昭和十年

【沿革一斑】

本社を大陸の咽喉たる大連市に置き、内地の支店を日本海最高の良港たる新潟市に特設し、兩々相俟つて海外貿易殊に大陸貿易に記録的好況を展開しつゝあるのは即ちこの株式會社新潟商會である。

抑も當商會の設立は昭和十年であつて、今日まで約八年に達してゐて、經營年處の點よりすれば必ずしも長期なりとは云ひ得ない迄も、既に牢乎たる地盤を確得し、營業振の活氣騰溢たることは一瞥に値ひするところと云はねばならぬ。

これを一言にして評するならば、新潟産業の發展に寄與するところ甚大なる功績者と云ふべきであつて、同港に於ける海外貿易を促進せる拍車となつてゐることは、當商會の特色中の特色といふべきであらう。

これは一に經營首腦者が何れも土地一流實業家で、對社會的にも亦重要な地歩を占めてゐる人格者揃ひである爲めに外なら

ないが、就中、取締役社長高杉石藏氏の徳望と拘攣力の大きなるにも因るけれども、社長を輔佐してよく今日の盛況を招來した専務取締役高山藤七郎氏の功績は決して忽略に附すべきでないと思ふ。

即ち高山専務は現に新潟市會議員の名譽職に在り、事業としては東江第一の三連莊を經營するのみでなく、新潟化工株式會社、新潟製氷會社、北新組、銀鳩シン製作會社等の外數社の重役として活躍してゐる聲望四隣を壓する第一流の實業家である。

斯くの如き土地切つての人物が經營の主座を占めて居り、事業の國家的意義を能く諳得するばかりでなく、これが實踐現に最善の努力を拂うてゐる爲め、産業報國の精神昂揚の點より考察して見ても大に注目すべき業績を擧げてゐるのである。

日滿華の三國が愈々親睦の度を加へ、所謂同生共死の誓を爲す今日、當社の事業は益々國家的意義を深化せるものと云はざるを得ない。



# 磯部鍛工所主 磯部三一

【生年月日】 明治二十七年九月三日  
 【原籍】 新潟市  
 【現住所】 新潟市元下島町  
 【學歴】 新潟商業學校卒業  
 【經歷】

新潟の新興實業家を談ずる場合に、決して見過がしてはならぬ新銳の人物に磯部鍛工所主の磯部三一氏の存在することである。新潟商業學校を卒業すると多年鐵工界に在つて活躍し着々と地盤を築き上げ、遂に今日の如き確乎不動の業績を収めるに至つた。現在の事業は大正六年九月二十四日で今日まで既に二十七年の星霜を経てある土地屈指の老舗株であつて、現在、専ら軍需品の製作に全力を傾注し國家的意義の高揚に顯著なる業績を擧げてゐる。

磯部氏は資性明朗で潑刺たる氣性の持主であるが、従業員の保體上より將又明快なる趣味の涵養を目的として工場スポーツを創始したことは、氏の性格の一面を物語るものと云つて着支へない。従つて多くの工員達より慈父の如く敬慕せられて居るが、明朗活潑なる氏は自ら随頭指揮をして工場體育の確立に努めてゐる。正に近代的實業者の典型といふべきであらう。

# 合資會社 増田セメント工業所

【所在地】 新潟縣中津原郡石山村大字馬越六一四  
 【電話】 新潟局 二五七二番  
 【營業項目】 一、セメント製造  
 建設工事請負 一、前各項に關聯する事業に對する投資

【資本金】 金七萬圓  
 【拂込金】 金五萬八千圓  
 【積立金】 金壹千圓  
 【決算期】 毎年十二月三十一日  
 【前期配當】 年六分  
 【現在役員】 代表者無限責任 増田善吉、事務有限責任 増田義一、無限責任社員 田代一郎、有限責任社員 田代潤治

【沿革一斑】 戰爭遂行上、必要不可欠のものは勿論多々あるが洋灰の需要が軍部民間の別なく激増しつゝある事實に鑑みれば重要物資中の重要品として時局の脚光を浴びてゐるものと云ふべきである。現在、營んでゐる事業内容は前掲の如く三大別に岐れてゐるが、その主力を傾注してゐる洋灰製品に至つては優良にして効用價値の絶大なることは、既に市場の寵兒として嘖々たる聲價を獲得してゐる事實に徴しても明かな處である。因に事務の増田義一氏は現に新潟市會議員として市勢自治の爲めに盡せる功勞は没すべからざるものがあり、且又、赤誠實新潟支部長としても活躍するところ甚大、名實共に新興實業家の典型と云つてよい。

# 新潟縣酒類販賣株式會社

【所在地】 新潟市東仲通二番町  
 【電話】 新潟三七八一・三九六二番  
 【營業項目】 一、酒類の買入及販賣  
 二、前號の事業に附帶する事業  
 【資本金】 金一百二十五萬圓  
 【拂込金】 全額  
 【積立金】 金八千圓  
 【決算期】 六月、十二月  
 【前期配當】 年六分  
 【現在役員】

取締役社長 白井秀吉  
 常務取締役 田中大五郎  
 同 吉澤仁太郎  
 取締役 平澤順次郎  
 同 渡邊代太郎  
 同 久須美武司  
 同 兵藤助太  
 同 丸山彦太郎

同 原誠作  
 常任監査役 山本平吉  
 監査役 五十嵐篤三  
 【支店所在地】 新潟(新潟)新渡田(新渡田)卷(卷)三條(三條)長岡(長岡)小千谷(小千谷)十日町(十日町)柏崎(柏崎)高田(高田)安塚(安塚)糸魚川(糸魚川)村上(村上)相川(相川)  
 【沿革一斑】

今次の大戦勃發以來、時局の深刻化に隨伴して物資の配給機構の整備は益々その重要性を發揮し來つたことは、何人も知悉せる通りであつて、これが振否如何、良否如何は延いて國力の消長に至大なる影響を與へるものである。殊に酒類に就てはその原料が國民主食の米穀である關係上、最も重を要し、適正を必要とし、整備を不可缺のものとするのは敢て餘蘄の餘地はない處である。

この國家的要請に應へるべく當社は昭和十六年六月二十九日設立せられたもので、専ら酒類の配給を一元的に整理統合せしめ、適正にして同滑、迅速なる配給を圖りつゝあるのである。

この創立の趣旨を實踐する爲に、前項に列記せる通り新潟支店を筆頭として同縣下の各樞需都市に夫々支店を特設し、常に本社との連絡を保つて所期の營業目的の貫徹に萬全の策を建て、一路邁進しつゝあるのである。

これを要するに新潟縣はその商表に於てもその人口に於ても全國屈指の雄縣である關係上、酒類の消費量も亦驚くべき莫大の量に達してゐるのである。

斯る縣勢の實情に照らして同滑且つ適正なる配給を行つてゐる當社の營業的功績こそ、特策大書すべきものであつて、これに重役諸氏の時局認識の深厚なることと、産親精神の旺盛なるに職由せるものと云はねばなるまい。



# 新潟縣石炭株式會社

# 新潟瓦斯株式會社

【所在地】 新潟市西堀前通七番町  
 【電話】 新潟 三八五八・三九六六・三九六七番  
 【營業項目】 一、新潟縣下石炭販賣及配給  
 【資本金】 金五十萬圓  
 【拂込金】 全額  
 【決算期】 毎年三月  
 【現在役員】 取締役社長 敦井榮吉、專務取締役 荻部 長藏  
 常務取締役 上原正良、取締役 井口庄藏 同佐  
 藤金太郎、同小林力三、同高橋助七  
 監査役 鈴木七五三、同飯村俊雄

【支店所在地】 長岡 支店 長岡市觀音院町  
 直江津支店 直江津町寄區

【沿革一斑】 全國屈指の大縣として新潟縣の隆々たる縣勢は暗目に値する處であるが、その縣民が公私に消費する石炭量の莫大なることも亦驚嘆すべきものがある、當社は即ちその消費の面に於て最も重要なる石炭の販賣並に配給を分擔するもので、曩に設立せられた新潟縣石炭統制株式會社を昭和十七年四月改組し益々國策の線に沿つて活潑有効なる業績を擧げつゝあるのである。

【所在地】 新潟市下元島町  
 【電話】 新潟 八二五番  
 【資本金】 一、〇五〇、〇〇〇圓  
 【拂込金】 八三〇、〇〇〇圓  
 【決算期】 三月 九月  
 【前期配當】 年八分  
 【現在役員】 專務取締役 藤宮 良策  
 取締役 石田友一、同敦井榮吉、同 高橋長八郎  
 同 上原徳一  
 同 長岡、三條、新渡田、鷹釜の各瓦斯會社

【沿革一斑】 産業面と云はず一般民需と云はず、刻下最も重要なる關心を持つものは燃料としての瓦斯の需要である、當社は斯る國家的重要部面を分擔して、當該の大縣たる新潟縣下の瓦斯需給を同滑迅速ならしめてゐる代表的國策的會社である。その發祥は遠く當時は日本瓦斯會社と稱したものであるが、大正三年に於り現在の社名に變更したので爾來時局の變遷に伴ひ活潑なる業務の展開し來つたが、殊に今次の大戦に際して愈々その本然の使命達成に邁進してゐる、因に藤宮專務は獨り協會中學明大卒の學歴を以て當初三條瓦斯會社に入社、昭和十五年當社に轉じて社務の樞機を掌握した新鋭である。

# 東亞鑛株式會社

【所在地】 新潟縣燕町東太田四、九六五  
 【電話】 燕 二六三番  
 【營業項目】 一、鑛工鑛  
 一、共柄鑛製造販賣  
 一、精密鑛  
 【資本金】 金十五萬圓  
 【拂込金】 金七萬五千圓  
 【決算期】 六月、十二月  
 【前期配當】 年五分  
 【現在役員】 專務取締役 古市 七郎  
 取締役 高橋 藤助  
 同 相場 長一郎  
 同 服部 佐二郎  
 監査役 池田 榮司

【沿革一斑】 工場主任 服部 善治  
 米の國、雪の國たる新潟縣は又一而鑛工具類の生産地としても遠近に暗傳せられてゐるのである。殊に西浦原郡燕町を中心とする鑛製作の技術に至つては、苟くも斯業に關心を拂ふ者ならば、何人も熟知せる通りであつて、當社は實にその中でも老舗株であり代表的の會社である。即ち昭和十一年十二月の創立に係はるものであるが、多年研究練磨せる鑛工鑛の製作技術に至つては、全く斯界を測歩する獨自のものであつて、單に同縣下斯界の草分けであるばかりでなく、精巧にして効率の高い優良品の提供者である。斯る由緒ある社歴を有する關係上、製作に當つては總て良心的であつて技術の末端に至つても苟くもしない入金懸念なるものであるから、逸品良器としての名譽は社名

を辱しめぬものと云はねばならぬこれ全く經營者時局に深甚なる認識を有することと、産業を通じて國に國家に一身奉公せんとする赤誠の餘澤に依るものと看做すべきであらうと思ふ。殊に現在の專務取締役たる古市七郎氏は前經營者の服部氏の歿後、多年活躍しつゝあつた深藤工業を退社して當社の後事を双肩に擔ひ、豊富なる經驗と献身的努力とに依り益々好調を展開し今日の如き、牢平たる社礎を築き上げたものである。謂げ當社の隆々たる發展は凡そ二つの基礎の上に打ち建てられたものと云つてよい、即ち矜るべき古き社歴と、それを時局の波に順應せしめて適時適應の事業的更新、擴充を圖つて來たことである。現に、當社は時局の深刻化に即應する爲め、軍需工場を新設して國家の急に應せんとする生産機構の整備に邁進しつゝあるから、近くそれが實現の曉に於ては更に一段の光彩を添えることは火を賭すよりも明かである。



# 見附織物工業組合

【所在地】 新潟縣南蒲原郡見附町大字新町二〇二

【電話】 見附 一〇一・三二〇 四六三番

【事業項目】  
一、織物生産統制、検査、共同販賣  
資材供給  
一、其他工業組合一般事務

【資本金】 六萬三千圓  
【拂込金】 金一萬五千七百五十圓

【現在役員】  
理事長 齋藤 爲次郎  
専務理事 宮島 長次郎  
理事 島田 俊二  
同 鈴木 政治  
同 佐々木 仙一郎  
同 皆川 正次  
同 岡部 一松  
同 加藤 辰五郎  
同 岩坂 吉造

【支部所在地】  
長岡支部 縣下長岡市坂之上町 (電話七二一)  
高田支部 縣下高田市仲町 (電話七三三番)  
見附分室 縣下見附町學校町 (電話二二四番)

【設立認可年月】 昭和十七年三月二十四日

【沿革一斑】  
島と云へば反動的へ「佐渡」を聯想するほど日本海の至寶佐渡島は、民謡「おけさ節」に依つて餘りにも有名である。然し佐渡は單に情緒纏綿たる民謡の島ではない。國史上尊々御方が配所の月に幾季を歎じ給うた史實は申すも畏々御事である。尙ほ又佐渡の金山と謳はれた江戸以來の金鑛は、佐渡の旅窓をして益々多彩ならしめるものであつて、眇たる日本海の一島嶼に過ぎないが、その存在の魅力は都鄙を問はず滲透しはるるのである。

新潟縣の産業的色彩を具さに検討するに、米穀を第一として鑄鋼工業品、チエーリツプ類花卉類、織物類等甚しく多彩を極めてゐるが、就中、織物に關する特産物は古來より越後名産として遠近各地に傳せられ來つたことは、聊かなりとも新潟縣の産業文化に活眼を開く者ならば、何人も是認するところと云つていい。

斯る同縣下特有の名産たる織物類の圓満なる發達に寄與すると同時に、時局の急速なる轉變に即應して産業發達の實績を收めんとして設立せられたものは即ち當組合である。

今その内容を詳記せんに舊見附内地向絹人絹織物工業組合、舊見附内地向生絹人絹織物工業組合、舊見附輸出絹人絹織物工業組合、舊長岡絹人絹織物工業組合等を統合し、打つて一丸として時局に順應する機構に整理強化したのは昭和十七年四月一日より實際的に事業の運営に努め今日に至つたものである。

因に昭和十七年十二月中の生産高數は一五九〇、三八五、價格一五、五三六、三八四圓の巨額に達してゐるのである。

# 佐渡汽船株式會社

【所在地】 新潟縣佐渡郡津町大字夷二六七

【電話】 夷 五番

【營業項目】 一、船舶運輸業

【資本金】 金五十萬圓  
【拂込金】 金二十三萬七千五百圓

【前期配當】 年五分

【現在役員】  
取締役社長 松榮 俊三  
常務取締役 本間 市太郎  
取締役 野澤 卯市  
同 佐藤 一平  
同 白勢 量作  
同 鈴木 芳大  
同 後藤 惣作  
同 松野 敬五郎  
同 佐藤 徹次郎

【事務所】 新潟市下大川前五町 (電話新潟二三三〇番)

【沿革一斑】  
島と云へば反動的へ「佐渡」を聯想するほど日本海の至寶佐渡島は、民謡「おけさ節」に依つて餘りにも有名である。然し佐渡は單に情緒纏綿たる民謡の島ではない。國史上尊々御方が配所の月に幾季を歎じ給うた史實は申すも畏々御事である。尙ほ又佐渡の金山と謳はれた江戸以來の金鑛は、佐渡の旅窓をして益々多彩ならしめるものであつて、眇たる日本海の一島嶼に過ぎないが、その存在の魅力は都鄙を問はず滲透しはるるのである。

當社はその歴史的、民謡的な佐渡と新潟とを船舶を以て繋ぐ最も安全にして迅速なる航路なのである。

即ち當社が既に就航せしめてゐる汽船は左の如き數隻の優秀船である。

當社就航汽船  
一、おけさ丸 一、第二佐渡丸  
一、みゆき丸 一、第八佐渡丸

一、及びす丸

以上は何れも快速力を有し、客室その他の諸施設は善美を竭して居り、波荒き秋冬期の航行にも短ら座せるが如き快適と安全感とを與へる優秀汽船のみである。

従つて四季を通じて佐渡への遊覧客は毎航滿載の好況を呈してゐるが、現在、時局の重大性に鑑みて應急の施設を施し、職域を通じての奉公に邁進しつゝあるのである。

常務取締役本間市太郎氏は佐渡出身者で、昔では新潟署長として令名を馳せたが、その後、退官して業界に轉身し、當社の支配人として聘せられたのは昭和十一年である。

それ以來、献身的奮闘をなし社運の伸展に貢献するところ甚大なるものがあつたのである。

果然、株主間の信望を逐年獲得し來り、昭和十六年遂に推されて常務取締役の要職を占め益々海運國の爲め渾身の努力を拂つてゐる新興氣鋭の異材である。



# 北海道鐵鋼器具工業組合

【所在地】 札幌市北三條西二丁目七番地  
 【電話】 札幌 六一二〇番

【設立目的】

一、鐵鋼器具の生産及配給に關する事業の統制及び事業改良發達を圖るを以て目的とす

【現在役員】

理事長	泉谷 順治
専務理事	日尾 慶次郎
理事	池田 稔
同	中西 寅次郎
同	大池 九左衛門
同	富田 秀之助
同	出村 喜作
同	渡邊 福松
同	田村 時太郎
同	西山 光修
同	庭田 儀一
同	吉田 力太郎
主事	濱田 健治

【沿革一斑】

今次の大戦は振古未曾有の近々感である爲め、最後まで完勝を期するには、國家の凡ゆる總力を動員しその機能を百パーセントに發揚するものはこれを發揚し、その消耗を切り詰めるものはこれを極度に切り詰めて、闘ひ抜く能力を可及的に増強、確保することが第一條件である

この意味に於て大東亞戰爭勃發以來のわが國の國內諸機構は、殆んど間然するところのないほど完璧なりと云つても、決して過言ではないのである

これは一に國民全體が時局の重大性を自覺せる爲めであつて、殊に産業方面に携はる所謂産業人は職域奉公の精神、即ち燃ゆるが如き産業熱の赤誠を、胸に、滿ち溢れてゐるからに外ならぬのである

その最も顯著なる現はれは、各種の産業組合に於ける整然たる機構の改善であり強力であつて、こゝに現況を略叙せんとする

當組合の如きは、産精精神發達の最も著しい例證といふを妨げない

當組合は大戦の深刻化に伴れて國家の機構改革の要請に即應して、政府の指示に従ひ、企業の合理化、重要資材たる鐵鋼及び附帶資材の消費適正化、並に能率増進に依る生産力擴充等の全般的に亘つて機能の發揚に努め、今日まで大に見るべき好成績を收めつゝあるのである

これを要するに、當組合は北海道を區域としてゐるが、その設立趣旨は國家的であり、その事業の目的は國策第一主義に在るのであつて、今日までの赫々たる業績は單に北海のみに限られたる區域に局限せらるべきではないのである

併かもこゝに忘れてはならぬことは、當組合の事業をして斯く發展せしめた役員諸氏の並々ならぬ努力であり、その功績である

時局益々深刻化する現狀に鑑みて現在役員諸氏の奮闘を切に期待する所以である

# 株式會社 白熱鑄工所

【所在地】 小樽市東澤町六丁目六十七番地

【電話】 小樽 一三三三番

【營業項目】

一、ストーブ、放熱器  
 一、ボイラー、内熱器  
 一、鑄工品、鍛工品  
 一、以上の製作、設計並に施工

【資本金】 金十八萬圓  
 【拂込金】 金十四萬圓

【現在役員】

取締役社長	清水 孫四郎
専務取締役	湧井 東朝
取締役	清水 昌夫
同	長谷川 富藏
同	清水 幸一
同	佐野 徹治
同	山田 新一

【設立年月日】 昭和十四年十二月三十日

【沿革一斑】

未曾有の大戦を完遂する爲めに、第一條件として叫ばれてゐることは燃料問題である、然しその根本の問題は燃料物資の増産と同時に、完全燃焼を圖ることに在るのである

要するにこの問題を解決するのは一方に資源の確保であり、一方に如何にして完全燃焼を實現するかに在るのである

然るにこの後者の問題に對して明快なる解決を與へたものは、何かと云へば即ち湧井東朝氏の發明に係はる白熱ストーブであると云つてよい

抑も當社の發祥は、現在當社の専務取締役たる湧井東朝氏が自ら創案發明せる白熱ストーブを企業化し、その製作と販賣とを目的とする三萬圓の合資會社を創立したのは、昭和十三年十一月一日である

該品の特色とするところは、如何なる質混入の塊炭、粉炭、コークス、豆炭と雖も

將又如何なる粗悪なる燃料と雖も、完全に燃焼せしめ、迅速且つ何等の煙を發することなく清潔に炊事を完遂することを得る特色を有してゐることである、而かも衛生的であり經濟的である特徴をも兼備してゐる關係上、極めて經濟的で時局に即應するものと云はねばならない

殊に、燃料拂底の昨今、粗悪なる燃料の使用を儀儀なくせられてゐる現狀に照らすならば、本品こそ家庭生活の一大福音といふべきであらう

従つて販賣以來その價値が漸次一般市場に認められるに及んで、需要頗る増加せる爲めこれに即應すべく内容の擴充を圖り株式會社に改組したのが即ち翌十四年十二月三十日であつた

當社獨創に成るこの白熱ストーブは、埼玉縣川口市金山町十二番地に於ても製造に努め又、軍需工場、北海道、樺太等の各炭礦に於て生産せるもので市販に堪へざる粗悪炭を全炭山の家庭用として使用し、到るところ噴々たる好評を博してゐる斯界の寵兒である



# 北海道タイヤ車輛有限會社

【所在地】 札幌市南一條東一丁目五番地

【電話】 (代表) 札幌四四三二番

【營業項目】

- 一、各種ゴムタイヤ再製、販賣
- 一、各種ゴム車輛製造
- 一、各種自動車解體部分品販賣
- 一、各種小型ゴム車輛組立
- 一、各種ゴム製品販賣

【現在役員】

取締役社長 曾我部直治、専務取締役 加賀谷政  
 員、取締役長尾雄一、同窪田節次郎、同 工藤實  
 同 坂下榮四郎、同 遠藤五一郎、監査役 菊池  
 米太郎、同 笠川直 同 橋本喜三

【現況概要】

當社の事業の概要は、前項に列記せる通り各種のゴムタイヤ再製、各種ゴム車輛製造、各種自動車解體部分品、各種小型ゴム車輛組立及び各種ゴム製品等の販賣に全力を注いでゐるもので、殊に再製ゴムの如きは時局的色彩を多分に有する商品で業勢隆々として大に將來に嚮望せられてゐる。

支店 所在地

小樽支店 小樽市色内町六丁目七十九番地  
 (番)

# 札幌鮮魚介配給統制株式會社

【所在地】 札幌市北一條東三丁目二番地

【電話】 札幌一四七・四三九番

【現在役員】 取締役社長 西出久太郎 常務取締役 高田米

藏、同 石田平造

【販賣所】 第二販賣所 札幌市東一條一丁目四番地

電話札幌四七五・二八九四番

【現況概要】

北海道の大鎮たる札幌市を中心とする鮮魚介の配給は、戦時下市民並びにその周囲一圓の住民の食糧確保の立場から云つて、極めて重大なる問題である。これは單に一市一地方の問題に止まらず、延いては國民全體の競争参加の能力を消長する鍵であるからである。

斯く觀點から當社の統制事業を検討するに總べて順調に行はれ配給の迅速にして適正なることは一般市民より好評を寄せられてゐるところであつて、今後、一層その機能を敏活ならしむので各方面から今より大に期待せられてゐる。

# 北海道コークス工業株式會社

【所在地】 札幌市北一條西二丁目一番地

【電話】 札幌 六〇二二番

【營業項目】

- 一、コークスの販賣並に同事業に對する投資及有價證券の取得利用
- 一、其他附帶業務一切

【現在役員】

取締役社長 弓削 榮三郎  
 専務取締役 宮崎 清一  
 取締役 平泉 治男  
 監査役 高橋 友治  
 同 西村 貞吉

【各種機關】

荷捌所 札幌市北七條西二ノ七  
 (電話札幌四五二八番)  
 倉庫 同市北九條西二ノ二  
 出張所 函館市萬代町二二一  
 (電話函館八七番)

白石燃料工業所 札幌郡白石村驛前  
 岩見澤コークス工業所 岩見澤元町一四  
 小石コーライト工業所 天鹽國猿拂村字小石  
 北工海運商會 函館市萬代町二二一  
 青森市鹽町四一

【各所主任】  
 函館出張所 主任 船山 清藏  
 札幌營業所 主任 澤崎 四郎  
 岩見澤工業所 主任 高橋 繁雄  
 長寶丸船長 西川 仁三郎  
 北工海運商會 主任 吉澤 與吉  
 北工海運商會 駐在員 津幡 實

【現況概要】  
 その資本金は必ずしも巨額とは云ひ難いが然し事業の性質上十分に強力性があり、事實上、圓滑に運営せられてゐる實況に照らせば當社の經營方針は極めて合理的に、且又、時局に即應する建前であることが窺

知せられるのである。事業の趣旨、目的に對しては前項に摘記せる通り、コークスの販賣並に同事業に對する投資及び有價證券の取得利用、その他これに附帶する業務一切に亘るものであるが、これ等は何れも能率的に運営せられ、圓滑に併かも迅速に取扱はれてゐるのはこれ全く經營首腦者の手腕凡ならざる爲めに外ならないのである。そのみならず總べての營業機關が整備せられて居り、それ等に配するに有能有爲の人材を嚴選して夫々配置してゐることである。  
 この人的配布が宜しきを得てゐることは、前叙の通り各出張所、營業所、工業所等の主任が孰れも貢獻的に社業の爲め磨身してゐる事實に照らして見ても明かなところと云つていいと思ふ。  
 時局は益々深刻の度を加へつゝある現況に鑑みれば、當社の負擔する國家的意識は愈々深化するものと云はねばならない。



保証 北海道機械器具工業組合聯合會

【所在地】 札幌市北三條西二丁目二番地  
 【電話】 札幌 六二二〇番

【營業項目】  
 一、北海道に於ける機械器具の生産及配給に關する事業の総合的統制運營を圖る  
 助業の改良發達を圖るに在り

【現在役員】  
 理事長 中山 五平  
 副理事長 岡田 往一  
 専務理事 泉谷 順治  
 理事 内田 梅吉  
 同 網島 和  
 同 木村 義吉  
 同 土田 健夫  
 同 日尾 慶次郎  
 同 平澤 榮治郎  
 同 石川 直司  
 業務課長 石川 直司

【現況概要】  
 競争は凡ゆる面に於ける總合力の闘争で

ある。

殊に今次の如き乾坤一擲の大戦争に在つては、その然るべき理由を痛感せざるを得ないのである。

この意味から民間に於ける總べての産業組合、工業組合、さては商業組合の機構はこの國家目的に向つて統合整備せられねばならぬのである。これは内地は勿論その地理的條件に依つて邊陲、外地、島嶼と雖も各々その特異性に依り深淺あることに注意せねばならぬ。

北海道は云ふ迄もなく我が帝國北邊の守護に當る要地である、平時に在つても政治より産業より將又國防より總べての角度から見て重要性を帯びてゐるのであるが刻下の如く大戦中に在つては殊に然りと云ふべきである。

當聯合會は、營業項目の條に記述せる通り北海道に於ける機械器具の生産及び配給に關する事業の総合的統制、運營を圖ると

共に、斯業の改良發達を圖る 目的を以て創立せられたものである。

従つて結成以來、所期の目的に向つて着々として實績を擧げつゝあるが、これは一に現役員的首腦者が何れも産業報國の精神に燃えてゐる時局即應の人のみであるからで、この指導精神が全組合員の間によく滲透してゐることが、本聯合會の輝しい業績を收め得た重要な原動力であると云つていい。

即ち理事長の中山五平氏は斯業界切つての人望家であり、多くの組合員を統率する手腕、力量は他に比ぶべきものを知らない程であると云はれ、又、副理事長として中山理事長を輔佐する岡田往一氏、専務理事の泉谷順治氏等の卓識と献身的態度には何人も崇敬の念を禁じ得ないところと云はれてゐる。

尙ほその他の理事、監事の諸氏も一人として斯業組合聯合會の國家的使命を自覺せざる者はなく、自覺してその重責實現に挺身せざる者はないのである。

北海道地區商業組合聯合會

【所在地】 札幌市南十條西二丁目  
 【電話】 (代表) 札幌五二〇二番

【事業要項】  
 一、組合相互の連絡協同  
 一、需給調整と物資の適正配給、統制、共同施設  
 一、指導、調査、研究

【資本金】 金二百十萬八千四百圓  
 【拂込金】 金二百五萬四千二百圓  
 【現在役員】  
 理事長 岩崎 國治郎  
 常務理事 田中 鷹丸  
 同 葛原 佐吉  
 理事 本間與三郎、齋藤清一郎、  
 小山辰雄、赤尾善三郎、  
 五十嵐一郎、藤井晋吉、  
 菊地善吾、花輪富治、坂  
 元來助、川入源市、安部  
 廣治、加納次太郎、深谷  
 次郎、寺島喜一郎、清水

【各種機關】  
 常任監事 三輪崎壽太郎  
 監事 石垣末松、谷口雅雄、松本耕三郎、吉原峰夫  
 兼務、水牧茂一郎

【各種機關】  
 藥粧課 札幌市北二條東八丁目 (電話札幌五二四九番)  
 東札幌荷捌所 札幌市白石村字上白石 (電話札幌五二九二番)  
 苗穂荷捌所 札幌市北二條東八丁目 (電話札幌五二四九番)  
 東京支所 東京市日本橋區蠟燭町一ノ二一 (電話茅場町三三三二番)  
 大阪支所 大阪市西區京町堀上道三ノ三〇 (電話土佐堀四六六五番)  
 小樽出張所

小樽市堺町六一

(電話小樽一八八一番)

旭川出張所

旭川市二條通三丁目 (電話旭川三三八九番)

【沿革一斑】

昭和十四年五月十六日の結成創立に係はるもので、その趣旨は前項に記述の通り北海道全域に亘る総合的、強力的なる商業組合の聯合機關である。  
 その地區は八市を除く全道一圓に及び現在所屬組合数は總數二六二組合に達し、その所屬組合員数は實に二一、七三三名の多きを算してゐる。

而して出資金の總額は二百十萬八千四百圓に對し拂込金は百五萬四千二百圓、保證金額二百十萬八千四百圓、運轉資金一千萬圓、昭和十七年度配給豫定額金一億圓といふ巨額に達し益々活潑なる機能を發揮してゐる。



## 共成株式會社アルギン酸工場

【所在地】 小樽市有幌町五十八番地

【營業種目】

- 一、アルギン酸
- 一、マンニット
- 一、鹽化加里
- 一、粗製沃度

【現在社員】

- 取締役社長 齋原 英太郎
- 常務取締役 宮下 外吉
- 取締役工場長 芝 健三
- 技 師 渡邊 修吉

【工場所在地】

- 第一工場 小樽市奥澤町四丁目四十六番地
- 第二工場 函館市外鰯田港町三十四番地

【沿革一斑】

共成株式會社アルギン酸工場は當社が昭和十一年以來基礎的研究を開始し昭和十三年十一月より函館外鰯田村に試験工場を設

置し爾來滿二ヶ年餘に亘る工業化試験を行ひ、粒々辛苦の結果遂にその完成を見たる當社の獨創的なる工業藥品製造工場である。抑もアルギン酸工業は曩に米國英で諸國佛蘭西ソビエツト等に於て既に發達せるものであるが、近年わが國に於ても研究せられるに至り、現に東北興業株式會社外當社を加へて四社の製造工場を數へるに至つたのである。然し乍らその原料たるべき昆布の無盡藏と云はれる北海道にその位置を占め、且又、その製造方法に於て昆布の成分全部を綜合的に採收し、アルギン酸、マンニット鹽化加里、沃度の四化學工業藥品を精製する独自の技術を誇るもので、正に當社以外にはその比を見ざる國家的至寶と云つていい。

即ちアルギン酸は昆布の主成分たる「コロイド」を抽出せるものであり、これが用途は重要原料であるばかりでなく且つアル

コール原料たる濃粉の代替として織物糊料に實用化せられ、輸入品たるアラビヤゴム、ゼラチン、トラガントゴム、膠等（輸入額二五〇萬圓）の代用として頗る有効なる成績を收めて居り、その他ゴム工業製紙工業に重用せられ硬化軟化、清糲劑、セメント硬化劑等に用ひられて時局柄各方面に重視せられ圓滑なる運轉に寄與する處甚大である。

又マンニットは六價のアルコールでグリセリンを二個結合したる構造を有し故に之を硝化せるものは強力なる爆發力を發揮し、併も攝氏零下二〇度迄不凍の特性を有してゐる。

わが陸海軍に於ても夙に研究中と仄聞するが主産なき爲め採用迄には及ばずと云はれてゐる。又更に之を無水フタル酸と加熱して重合せば無色透明な人造樹脂を生ずるのである。尙又、鹽化加里は戰時下化學藥品として最重要なる物資の一として、又沃度は醫藥として不可欠たるは周知の處である。

叙上の如く當工場の四大製品は時局的價値の最も顯著なるもので、製品は熟れも當社獨特の研究調査に成れるもので、正に國家的意義ある産業と云はねばならぬ。

## 合同電氣工業株式會社

【所在地】 大阪市東淀川區十三西之町三ノ七

【電話】 北五六九九番

【營業項目】 一、電氣工業請負 一、特許エンクローズド・ヒューズ製作

【資本金】 金十萬圓

【拂込金】 金六萬五千圓

【現在役員】 取締役社長 辻甚四郎 常務取締役 望月 良

取締役 首藤 隆 監査役 徳水重男

【營業所】 大阪市北區堂島（堂ビル一階）

（電話北五八九〇―九番）

【工場】 本社工場 市内東淀川區十三東之町三ノ一二三四

（電話北七七七番）

【沿革一斑】

昭和五年、辻電氣商會を初めて設立創業して以來、年と共に發展に次ぐに發展を以てし益々輝しき業績を展開したのであるが偶々今次の大戦に際して業界に改新一大旋風捲き起されるや、獨眼にして機を觀るに敏なる氏は、内容、諸施設に大改善を加へて大擴張を斷行し、社名を現稱の如く合同電氣工業株式會社と改めたのは、昭和十六年であつた。

尙ほ優秀品として噴々たる好評を博してゐるエンクローズド・ヒューズの特許權を把握してゐるが、當社製品の總代理販賣店として合資會社花商會がある（大阪市東區南本町二ノ四三番地、電話（代表）船場一六一四番外）

## 特殊變壓器株式會社

【所在地】 大阪市西淀川區東塚本町一ノ四九

【電話】 北 七一〇七番

【營業項目】 各種自動車用イグニッションコイル

【資本金】 金十九萬八千圓

【拂込金】 金十四萬八千五百圓

【積立金】 金一千二百圓

【決算期】 毎年十一月

【前期配當】 年六朱

【現在役員】 代表取締役 富田伊之助

【營業所】 大阪市西淀川區野里町三九〇ノ五

（電話淀川自五一―至五三番）

【沿革一斑】

昭和十三年七月十日の創業に係はるもので今日まで未だ五年未滿に過ぎないが、この短期間によく超飛躍的發展を遂げた所以は一に製品の獨目的優秀性に歸因するものと云ふべきであらう。

即ち昭和十一年五月、自動車製造事業法の實施せられて以來、外國産自動車輸入の制限となり次第支那事變勃發、大東亞戰擴大と引續く時局の深刻化に隨伴して部分品の國産化を餘儀なくせられた爲め、當社は疾くもこの國家的要求に即應せんと自動車イグニッションコイルの製作に獨創的技術を考案して大成遂に斯界の覇者となつたのである。軍關係、民間各會社、滿蒙各方面に提供し、目下五十萬圓増資の計畫中である。



# 新潟産業

【所在地】新潟市

【新潟市主腦者】

市長 井上 英  
助役 岩滿 重  
商工會議所會頭 藤田儀平

【概況】

日本海に望む北陸第一の良港として新潟市の存在は、國防國家の見地からしても、將又産業的見地からしても、時局柄、何人も再認識の要あることは云ふまでもない。抑も新潟市は往昔より美人と橋の良津として遠近に喧傳せられ、文人墨客の來り遊ぶ者甚だ少くなかつたのである。

従つて古くより殷盛を極めてゐたが、明治二十二年疾くも市制を布かれ、明治時代に於ても北陸屈指の名都たる市態と内容を有してゐた。超えて大正十五年三月、多年に亘つて施工中の新潟築港工事が愈々完成を告げたので、一段と對外對内の兩面に於ける良港としての機能を發揮するに至つ

たのである。然るに昭和七年に至り友邦滿洲國が建設せられるに及んで、日本海を距て、一衣帯水の關係に在る當港の使命は一躍國家的といふ高度にまで向上した。

即ち政治、産業、軍事の諸點よりして極めて重要性を帯び來り、殊に日滿交通の最短距離としての要衝となり、延いては東京新京を繋ぐ捷徑路たる重要都市となつたのである。

併かも在來動もすれば生産より消費都市たる觀があつたが、近來各種の産業が頓に發達した爲め生産都市に躍進し、將來日本海切つての國際港たらんとする輝しき發展を約束せられるに至つたのである。

今、當市に於ける各種産業界を大觀すれば次の如きものである。

## 工業界概況

新潟鐵工所、小野鐵工場島本鐵工場、西山鐵工場、磯部鐵工場、板谷鐵工場、昭和石油、日本石油、誠後石油、日東

硫曹、新潟硫曹、日東紡績、日本油脂、日本鋼管、北越バルブ、北越製紙、新潟製氷、朝鮮アスファルト、増田セメント、新潟電氣工業、伊藤ニードバルブ工場外造船場共に百二十三工場

## 交通運輸界概況

新潟合同バス、新潟電鐵、佐渡汽船、日本海汽船、日本通運支社、高助運輸、鐵道船部(以下略)

## 會社、銀行界概況

新潟瓦斯、日本海倉庫、日滿倉庫、新潟臨港開發、滿洲電氣、新潟商會、縣炭、日滿炭、新潟港灣、小林デパート、萬代東北配電、各生保支店、第四銀行、新潟信託、日銀支店、勸銀支店、大森無盡(以下略)

## 生産物概況

木工、竹材、和傘、製菓、織物、製材、家具工

以上を一瞥しただけでも當港の股盛振は想像するに足ると思ふ

# 新潟商工會議所

【所在地】新潟市

【現在役員】

會 頭 藤田儀平  
副會頭 小澤國治  
同 石山末松  
理事 濱州一  
商業部長 片桐榮三郎  
工業部長 板谷能太郎  
交通部長 小林誠彌  
庶務部長 齋川富次

【概況】

北陸の要津新潟市は一面わが日本の良津でもある。

この意味よりして當港は將來性に富むところ極めて深くそして多岐に亘つてゐるが殊に商工業の飛躍的發達著しきものがありその市勢の伸張發展と相呼應して商工運營の機能は益々活況を呈するのは、火を指差よりも明かである。

殊に今次の大東亞戰勃發以來は、國內の凡ゆる産業界は物心共に總動員せられ、極度に能力の昂騰に努めた爲め、當港の斯界も亦未曾有の活況を招來したのである。

斯る客觀的情勢に順應して當商工會議所の機能が、彌が上に活潑となつたのは寧ろ必然の結果といふべきであらう。

今その内容を検討するに、次の如き俊髦偉材を以て運營せられてゐるのである。

即ち川庶務課長と小野塚主事とは豫算經理、會議、人事に關する事項を掌執し、吉田、池田兩書記、企畫課兼務の田中主事補の少壯有爲の諸氏はこれを輔佐して萬全の構えを確保してゐる。

又、企畫課長松井主事は敏腕家の聞え高く主として各種の企業計畫、商工業振興更生に關する一切を司り、その善謀良策は既に定評のあるところである。

更に又、事業課長小石主事は商工業組合機構、物資配給機構、物價制定等に關す

る指導斡旋をなし、嘈々たる令名を恣にしてゐる。

最後に、調査課長佐久間主事は、商工業一般、港灣關係、倉庫貨物等の調査事項を分擔し、これ又好成績を収めてゐる。

以上は當商工會議所内の主要なる機構と人とを略叙せるに止まるものであるが、併しこれ等の整然たる陣容、堂々たる人的要素を一覽しただけでも、その活氣横溢たる運營振が想像に難くあるまいと思ふ。

今や時局の進展に伴つて國內の諸態勢が更らに一段の強化と能動的活躍が要求せられてゐる現狀に鑑みるをらば、當商工會議所今後の華々しい活躍こそ當市市勢の伸縮を左右するものと斷じて、強ち附會の論ではあるまいと思ふ。

この意味よりして藤田會頭、小澤、石山兩副會頭を初め諸役員、中堅的職員の益々協力一致打つて一丸となつて職域奉公の爲め挺身せられんことを冀つて己まぬものである。切に各役員、職員諸氏の自重自愛を祈る所以である。



# 今井春吉

【現住所】 新潟市稻荷町

【現在職業】

今井製造所長

合資會社新潟機械工作所社長

導師者技能者養成所長

【経歴】

米の新潟を論じ、良津の新潟を語り、更らに美人の新潟を談ずる者は多い。

然し錫工の新潟に及ぶ者は決して多くはない。斯界の偉材にして特殊の存在と論はれる今井春吉氏を評傳する場合は、是非とも錫工業として、將又、不具者の技能養成といふ社會政策の實踐家としての氏を語ることに依つて、初めて新潟の全貌が闡明せられるのである。

東北六縣の導師者に兩者育を施し、一と廉の産業職士に育てあげ、生産力擴充に邁進する戦時日本に貢献するところ甚大なるものがあるが、この奇篤なる社會政策の實

行者は即ち今井春吉氏である。併かも導師の宿命的な不具者を對象とする技能養成を施して、普通の工務員と殆んど徑庭のないほど練達した旋盤工や仕上工たらしめた氏の苦心は並大抵のものではなかつた。

現に氏は今井製造所を經營する傍ら合資會社新潟機械工作所の社長として活躍してゐるが、自ら職階に作業服を纏ひ多くの工員に伍して陣頭指揮をなしてゐる敢闘振り、正に時局型の新鋭工業家といふべきである。

抑も氏は弱冠十八歳の頃、青雲の雄國を胸に新潟に來つたが、先づ工業家たらんとせざば宜しく基礎的勞苦を嘗みざるべからずとの堅い信條の下に、同市の某工場に身を投じて一介の職工となつた。

その實直にして明暗の別なき精勤振りは忽ち今井氏の傾投するところとなつて懸望せられその養嗣子となつたのである。そして今井製造所の更生躍進に精魂を打ち込ん

で奮闘努力したのであるが、その涙ぐましい精勵努力は阪神地方の有力なる資本家の協力を得るに至り、事業は益々好調を呈して進展するに至つた。

現に氏は今井製造所を本據となし上述の如き諸種の事業を經營してゐるが、尙ほ特記すべきことは百萬圓の資本を以て工員養成所を設立し、既に四期繼續四百萬圓の巨資を投じて養成せる工員は一ヶ年二百人、五ヶ年繼續（資格者、初等卒以上中等修了、滿十四歳以上二十五歳）とし、養成技術種目は旋盤、仕上、鑄物、木型等の各種を網羅して居り、同市場に一萬坪を算する廣大なる地域を擁して工場、練成道場、講堂、宿舍、食堂、娯樂室、炊事場、浴場、倉庫、屋外運動場、禮拜神社等の諸設備は一として間然する處なく全く完璧を極めた皇民道場の觀を呈してゐるのである。尙ほ特典として八年間修了者に對しては褒賞として千五百圓の授與、結婚祝、三十歳以上の者に舎宅を給與するなど福利施設は他の模範となすべきである。その他、社長の令兄は會計責任者となり、又支配人近藤誠司氏は社長の信望を双肩に擔ふ敏腕奮闘の新鋭である。

# 燕洋食器工業組合

【所在地】 新潟縣西蒲原郡燕町

【電話】 燕 七二・三三〇番

【現在役員】

理事長	中野 壽一
理事	久保田 重松
同	遠藤 松次郎
同	棒 吉右衛門
同	大泉 平作
同	小柳 才作
同	井上 新吉
同	棒 布美雄
同	遠藤 初太郎
同	小林 鐘之助
同	山崎 文言
同	相馬 一清
同	中山 由市
同	中山 正一
同	梁取 松次
同	相田 平藏
監事	
同	

【沿革一斑】

北陸の雄たる新潟縣は不思議な國である。何故ならば新潟の兩面を併有し、よくそれを渾然と融合せしめて、常に時代の先驅者たる輝しい實績を擧げてゐるからだ。即ち『米』の國としての越後は既に歴史的であるが、新しい産業の方面には鐵工具類の主産地として、チューリップの世界的花園として餘りにも有名である。殊に新興の産業都市たる燕町の洋食器に至つては正に國際市場を逐々濶歩する國家的名産と云つていい。

この燕工業の沿革を繙ねたならば種々文獻があるが、今はその時でもなければ餘白も持たぬので率直に洋食器工業の發祥に筆を進める。即ち大正五年の頃と云へば第一次歐洲大戰勃發直後であるが、その當時わが國民生活の凡ゆる面には怒濤の如く洋食が奔流して來た。と同時に海外よりの輸入が杜絶した爲め、洋食の流行に即應すべく着眼したのが、俊敏、岩燕の如き素捷こい

燕町の工業家であつた。レール、電線等の古資材に活を入つて銀色燦然たるホーク、ナイフに再生製造してその眞價を市場に問ふたところ、果然晴々雷聲の好評が到るところに揚げられたのである。

そしてその販路は單に内地ばかりでなく、歐洲品を制壓して隣邦滿洲國、支那はいふに及ばず南北米國、臺灣、さては東場の歐洲をも席捲する盛況を呈するに至つた。

爾來、二十餘年の貴い工業過程を重ね、従業員總數千五百名、生産高年額三百萬圓といふ驚くべき新興工業の金字塔を打つ建てたのである。

今や、大戰勃發を轉機として海外輸入の杜絶は勿論、凡ゆる金屬類の古物活用の戦争第一主義に順應して、欣然と百八十度の轉向をなし、現在、鍛造化工部、伸縮部、機械化工部の共同作業所を新設し、組合員の指導と産業報國の實踐に全組合員擧つて一丸となり、一踏邁進しつつ、茲に新しい時局の息吹を見たのである。



## 保証責任 北海道鑄造工業組合

【所在地】 札幌市北二條東十一丁目  
 【電話】 札幌 六〇九八番

同 中島 與次郎  
 同 林 眞次  
 同 川島 徳次  
 同 内島 保一  
 主事 八巻 清喜

- 【事業要項】  
 一、鑄物工業の生産調整  
 一、共同販賣の統制  
 一、鑄鋼、故銅其他の原材料の配給統制

一、營業に關する指導、研究及調査

【現在役員】  
 理事長 田中 弘  
 副理事長 金森 與太郎  
 理事 雷野 兵二  
 同 湧井 東朝  
 同 湊 常藏  
 同 下野 政勝  
 同 高田 勇  
 同 加藤 泉之助  
 同 藤原 六治郎  
 同 大野 元作  
 同 山口 定吉

【現況一斑】  
 北海道の鑄物工業は近來益々股盛を極め來つたが、その大戦完遂に分擔する重責は極めて大なるものがある。  
 即ちその處理する營業項目は、前掲の如きもので、これ等は戰爭目的の爲めに缺くべからざる必要品のみであるから、當組合の果たすべき業績の如何は、延いて征戰完遂の上に影響するところ甚だ少くないのである。  
 殊に鑄鋼、故銅その他の原材料の配給統制は、刻下最も急を要するものであつて、當組合が主力を傾いで圓滑にして効果的な運営を營んで、成績の大に觀るべきものがあるのである。

斯くの如く好調を呈してゐるのは、これ全く役員諸氏の深き時局認識と、國策遂行に挺身する奮闘精神の烈々たるに依るものと看做して差支へあるまいと信ずる。即ち理事長田中弘氏は斯業界切つての人望家であり、單に事業に優秀なる成績を獲得するばかりでなく多くの組合員をして悦服せしめるに足る、渾然殊の如き人格者である。  
 尙又、副理事長金森與太郎氏の機略縱横な事と、精勵格闘なるとはこれ又他の師表と仰がれてゐるところである。  
 それと雷野兵二氏を初め十三名の理事諸氏や森口初太郎氏初め五名の監事諸氏は何れも協力一致して國策の完遂に萬全を期してゐるから、創立以來、年を逐して輝き成果を獲得してゐるのも無理からぬところと云つていい。  
 今や國運を賭して闘ひ抜く大戦の眞只中であるが、これを最後の勝利に導く爲めには當組合の果たすべき使命は甚だ大なりと云はねばならない。

## 保証責任 北海道金物商業組合聯合會

【所在地】 札幌市南一條西二丁目十八番  
 【電話】 札幌 五五三九・五三四四  
 五五二三番

【現在役員】

理事長 岩崎 國治郎  
 常務理事 高藤 清一郎  
 同(事業部長) 竹村 衆太郎  
 同(總務部長) 廣岡 久吉  
 常任理事 清水 堯教  
 同 田中 惣治  
 理事 田中 鷹丸  
 同 出村 喜作  
 同 大矢 馨三  
 同 深谷 次郎  
 同 岡島 徳市  
 同 小澤 保貞  
 同 寺木 辰次郎  
 同 岡田 茂

【各共同配給所】

- 一、北海道線材製品札幌地方共同配給所  
 札幌市南三條西一丁目  
 主任 松崎 清助
- 一、北海道線材製品小樽地方共同配給所  
 小樽市内舟町一丁目  
 主任 花井 武男
- 一、北海道線材製品函館地方共同配給所  
 函館市千岸町三一ノ三  
 主任 森 喜藏
- 一、北海道線材製品釧路地方共同配給所  
 釧路市北大通り八丁目  
 主任 田川 雅雄
- 一、北海道線材製品旭川地方共同配給所  
 旭川市二條通八丁目  
 主任 鶴間 愼三郎

と云はねばならない。  
 この觀點からして當組合聯合會の帯びる重責は國家的であり、國防的であると看做しても、決して過言ではないと思ふ。  
 何となれば金物類の用途は、戰爭完遂上には總べてこれを戰爭目的の爲めに傾注せねばならぬ重點主義を執り、ある現下の情勢に照らせば、當聯合會の事業の振否如何は延いて國家の隆替を左右するものと云ふべきであらう。  
 幸ひに現理事長の岩崎國治郎氏は精率力の旺盛で、信望の絶大なるはよく重責を完うして餘りあるものである。併かもそれに輔佐役として配するに敏腕家の聞え高い富藤清一郎氏を常務理事に据え、竹村、廣岡、清水、田中氏等その他の諸氏が熟れも手腕、力量、識見、實力等何れの點から論討してもよく國家的使命を達成し得る陣容を形成してゐること、何人にも絶對的信賴感を與へずには措かないと思ふ。



# 北海道地方木材株式會社

【所在地】 札幌市北四條西五丁目一番地  
 【電話】 札幌 五七二六番  
 【設立年月日】 昭和十七年五月十八日  
 【資本金】 金一千五百二十五萬圓  
 【現在役員】

社長 三戸卓助  
 副社長 山村專三  
 常務理事 渡邊保次  
 同 坂井三吾  
 同 眞弓政久  
 理事 戸塚昌宏  
 同 大塚良教  
 同 濱岡透  
 同 篠田弘作  
 同 辻才次郎  
 同 伊藤豊次  
 同 菅原鐵之助  
 同 西川憲造  
 同 坂口茂次郎  
 同 西出五三郎

【出張所々在り】  
 北見出張所  
 旭川出張所  
 旭川市常盤町一丁目商工獎勵館内  
 室蘭出張所  
 室蘭市開運町四番地  
 函館出張所  
 函館市地蔵町三番地信用組合事務所  
 帶廣出張所  
 帶廣市西一條南十二丁目十勝木材  
 業組合聯合會内  
 釧路出張所  
 釧路市川上町十丁目  
 瀧川出張所  
 瀧川町字空知太

同 本名 猛  
 監事 宮崎 尙  
 同 帖佐 猛  
 同 村山 喜作

還經出張所  
 紋別郡遠輕町  
 留萌出張所  
 留萌町字川北四十榮助三郎方  
 名寄出張所 名寄町  
 濱頓別出張所  
 枝幸郡頓別村字濱頓別  
 小樽出張所 (目下準備中)

【沿革一斑】  
 今次の戦争に勝ち抜く爲には凡ゆる金屬類が不可欠であるのは勿論だが、それと同時に木材の分擔する役割も網大であり、その効用價值はこれ又網對的である

この意味に於て本邦木材産業の太宗と仰がる、北海道の斯業界の負ふべき國家的使命は極めて重且つ大なりと云はねばならぬ、當社は千五百萬圓以上の巨資を擁し全道に亘つて營業機關を設置して木材報國の爲め人も物も總べて動員して挺身これ努めてゐる産業的功績は、誠に大なるもので今後の發展は刮目して俟つべきであらう

# 北海道雜穀澱粉商業組合聯合會

【所在地】 札幌市北五條西六丁目一、二、三、番地  
 【事業目的】 本道産雜穀澱粉移出並に道内配給業務  
 【設立年月日】 昭和十五年八月十九日  
 【資本金】 金二百萬圓  
 【所屬組合數】 十四組合  
 【支所々在り】 小樽市東雲町  
 釧路支所 (雜穀澱粉移出業務一切)  
 釧路市浪花町

【現在役員】  
 理事長 三谷 榮次郎  
 常務理事 松本 誠司  
 理事 (總務部長) 弓輪 久治  
 同 (事業部長) 櫻井 與三郎  
 主事 (經理部長) 岩間 重吉  
 主事 (企管課長) 長尾 昇

主事補 (調査課長) 大堀 光夫  
 同 (庶務課長) 關谷 兵治  
 同 (仕入課長) 山田 忠夫  
 囑託 (配給課長) 山田 義夫  
 主事補 (澱粉課長) 大堀 光夫  
 同 (種理課長) 清原 正順

【現況一斑】  
 關ふ日本の北邊を護る北海道の重要性は政治は軍事に産業に凡ゆる角度から立證せられるが、その特産物たる雜穀澱粉類を取扱ふ商業機關を擔當する當雜商聯は、時局の進展に隨伴して益々活潑なる業績を収めてゐる

現に、當時の運轉資金は僅に一千萬圓以上、時には一億三千二百萬圓の巨額に達した実績を獲得してゐる程で、これに徴しても當會が如き有力有効なる成果を擧げつゝあるが、凡そ想像するに難くあるまいと思ふ。

尙ほその所屬する組合の數は總計 十四組合で、その各地に於ける同種商業組合の所在地は左の如きものである

蘭空知 (岩見澤町) 小樽 (小樽市)  
 十勝 (帶廣市) 旭川 (旭川市)  
 釧路 (釧路市) 北見 (北見市)  
 噴火灣 (伊達町) 札幌 (札幌市)  
 後志 (俱知安町) 函館 (函館市)  
 北空知 (瀧川町) 天鹽 (土別町)  
 北海道輸出豆類 (小樽市) 北海道地區 (札幌市)

以上がその組合員の略稱であつて、全道の樞要都市を洩れなく網羅してゐるのである  
 これを要するに、全道に營業網を張つてゐるが各種雜穀、澱粉の移出商業組合に於ける相關的連絡を保ち、その創立の趣旨的に向つて一路邁進しつゝある活氣横溢する事業振り、流石に本道に放つてゐる丈けあると、何人も頷かせられるのである  
 これは全く三谷理事長の統率指揮の宜しきと、松本常務理事の献身的努力とを樞軸とする各役員打つて一丸となる烈々たる奮闘精神の發露に外ならない



# 北海道食糧營團

【所在地】 札幌市北五條西六丁目二番地  
 【電話】 札幌 一九〇五・二〇六〇

二七七二番

【營業項目】

一、道内に於ける食糧の増産、配給其  
 他一切の事業

【現在役員】

理事長 小谷 義雄  
 専務理事 水澤 猛  
 同 向島 清一  
 常務理事 川田 稔  
 同 上田 民介  
 理事 古谷 辰四郎  
 同 小川 彌四郎  
 同 吉田 貫一  
 同 長谷川 忠二郎  
 同 了輪 久治  
 同 小林 篤一  
 同 早川 基  
 監事 服部 崎市

同 土橋 信江  
 同 永田 昌純

【沿革一斑】

時局の進展は凡ゆる我が國內諸機構に一大變革を餘儀なくせしめた。闘ひ抜き勝ち抜く爲めには必然的戰時態勢であつて、北邊の軍事的産業的の兩面より重大使命を帯びる北海道としては、先づ道民全體の食糧確保が何よりも先決問題である。

その先決問題を背負つて立ち上つたものが即ちこの食糧營團の果たすべき事業なのだ。

營團は創立以來、今日まで多くの歳月を閲してゐないにも拘らず、眼見しい業績を収めてゐる所以のものは、抑もなにかといふならば、それは先づ人的要素の卓越してゐることである。

何となれば、斯業に理解あり、卓識あり善謀を有する人材を悉く網羅して餘すところない堅陣を拵つてゐるからである。

先づ小谷義雄氏を初めとして、専務理事水澤猛氏は總務部長を兼ねて營團の事業運営の采配を揮ひ、信望の厚いこと各職員敬仰の標的とされてゐる。

又、均しく専務理事の向島清一氏は業務第一部長を兼任し、これ又、精勵を以て存分に才腕を揮つてゐるのである。

この兩専務理事の兼務と相呼應して、常務理事二人共同しく兼務して勤勉と挺身の生きた範を團内職員に示してゐる。

即ち常務理事川田稔氏は業務第二部長として實際業務處理の第一線に立ち、又、常務理事上田民介氏は総務部長を兼ねて繁雜なる團内の諸經理を易々として裁斷するところ、正に快刀亂麻の腕の冴えを聯想せしめるものがあるとの社内外専ら評判である。

叙上の如く首腦部の役員諸氏が、進んで營團事業の運営に自ら馬首を陣頭に進めてゐる精進振りは驚嘆すべきで、將來の發展期して俟つべきだ。

# 株式會社 北海道興農公社

【所在地】 札幌市苗穂町三三六

【營業項目】

製乳事業  
 一、煉粉乳、二、バター、三、チーズ  
 四、カゼイミ、五、乳糖六、特殊マーガリ七、アイスクリーム八、其他市乳生クリーム、製菓

農畜産業

一、牛肉罐詰 二、各種肉加工 三、皮革 四、兎毛皮 五、粉醬油 六、各種農産罐詰 七、化製

農地改良事業

一、酸性土壤改良用石灰採掘  
 二、暗渠排水用土管製作  
 三、軌道客土  
 四、種苗事業

農機具製作事業

一、畜力農具並機械農具の製作  
 二、農具の改良研究

【資本金】 金一千七百萬圓

【現在役員】

取締役社長 黒澤 西蔵  
 常務取締役 佐藤 貢  
 同 瀬尾 俊三  
 同 大野 勇  
 同 佐治 正一  
 同 板垣 信之  
 同 大川 義男  
 同 若林 常次郎  
 取締役 深澤吉平、岡村文四郎、河井浩、植垣彌一郎、幡野直次

常任監査役 井上 外幾雄  
 監査役 今野末松、小出義男

【沿革一斑】

産業の北海道を論ずる場合に、各種の製乳、農畜産業を結合して一大産業王国を形成してゐる當公社の存在に、何人も驚異の眼を奪てない者はあるまい。

當社は昭和十六年三月十七日、保證責任北海道酪農販賣利用組合聯合會の事業と、明治製菓株式會社、明治乳業株式會社、森永煉乳株式會社の道内煉乳事業を結合繼承して設立したものである。

次で昭和十七年一月、北海道廳、保證責任北海道信用購買販賣利用組合聯合會、北海道拓殖銀行の出資を見るに至り現在の如き巨資を擁する堂々たる大會社としての内容外觀を定倫したのである。

これを要するに農地の生産擴充と、食糧物資の増強とは闘ひ抜き現下の日本としては一日も忽にすべからざる重大國策である。

この國家的使命を帯びて、我が北邊の大寶庫北海道を事業的對象として叙上の如き巨資と整然たる機構と廣汎多岐に亘る事業とを營んで、着々と實績を擧げつゝある所以は一に經營主腦者の協力の賜物であり、善謀にして産精精神に基づく活躍に依ることは多言を要しない處である。



# 北海道機械加工修理工業組合

【所在地】 札幌市北三條西二丁目七番地

【電話】 札幌 六二二〇番

【現在役員】

理事長	綱島 和
専務理事	山口 定吉
主事	木原 喜藏
主事補	越石 勇
理事	生水 利一
同	中島 與次郎
同	半田 長定
同	諸星 宗輔
同	内島 保一
同	立花 熊七
監事	石黒 直之
同	磯原 喜千
同	山村 清

【現況概要】

今次の如き大戦は凡ゆる部面の總力を動員せねば、到底、最後の勝利を獲得し得ないほど大規模な戦争であり、これが近代職

の特徴である、支那事變勃發當初は未だこの近代職の特徴は著しく發揮せられなかつたが、漸次戦局は擴大せられ遂に大東亞戦へと發展するに及んで、その本然の威力を限りなく發揮するに至つたのである。

この特徴に即應ずべく、間髪を容れず敏速に且つ果敢に國內の凡ゆる機構は兩組織せられ、整理統合して戦時即應の強力なる態勢を強化したのである。

併して在來の同種、同業の組合は益々團結を強固になし在來の活動を活潑ならしめて相互の協力を益々堅めるに至つたのであるが、當組合の發展も正にこの未曾有の時局に即應するものといふべく、大に見るべき成績を収めてゐるのである。

即ち本組合は機械の加工修理に關する事業の統制を圖ると共に、斯業の改良發達を圖るを以て目的とし、本組合の地區は北海道一圓にして機械加工修理を業とする者、内燃機關の加工修理を業とする者（船舶用

内燃機關加工修理業者を除く）及び電気機器の加工修理を業とする者（船舶電気機器加工修理業者を除く）を以てこれを組織するものである。

以上は當組合の組織内容であるが、これに徴しても當組合は北海道全道に亘つて同業者を統各し結束せしめてゐる強力にして能動的の團體であることが窺知し得られるのであつて、機能の積極性に富んでゐること、組合員相互が全く一體となつて文字通り協力努力となつてゐることなど、他の工業組合には多くその類例を見ない特色を發揮してゐる。

これといふのも理事長綱島和氏を初め、専務理事山口定吉氏、主事木原喜藏氏、主事補越石勇氏等の實際に事業を執掌する人々の努力に依ることは勿論であるが、又、生水利一氏等六理事、石黒直之氏等三監事の和衷協同に俟つところ決して少くないのである。

即ち當組合の發展は人の和に依つて根柢を堅め、時局即應の奮闘精神をして一貫せる賜ものと云はねばならぬ。

## 棒 吉右衛門 商店

【所在地】 新潟縣西蒲原郡燕町

【電話】 燕 三番

【代表者】 棒 吉右衛門

【出張所】 東京出張所 市内神田區松住町二番地

（電話下谷一〇二三番）

【沿革一斑】

恐らく洋食器業の淵業たる新潟縣燕町の斯工業を論ずる者は、棒吉右衛門商店の事業に言及しないものはあるまい。

爾く當店の事業は燕町の洋食器形に大なる店礎を据えつけてゐるのであるが、當地方では當店を一口に『金吉』さんと呼び馴れて尊敬の念を捧げてゐる、即ち『櫻日本』印を生命として洋食器の外、諸製品を一手に引受けて販路を單に内地のみならず遠く海波を蹶つて海外諸市場に進出してゐる、當店第一流の巨商である。

道て帝都に於ける經濟雜誌主のダイヤモンド社長石山氏をして『棒氏なくして新潟縣下の新興事業興り難し』にまで口を極めて激賞せしめた程で、當地方に於ける新規事業計畫は悉く先づ棒氏の許に持ち込まれ氏の採否裁断を仰ぐこととなつてゐる實情である。

それ程の氏の信望は甚だであり、氏の勢力は旺盛遍通である。實際、氏の遣り口を見るに、徒らに世の所謂企業家の如く醜態とな策を弄するところ微塵もなく、克く大局高所より觀察して時

局の要求に適するか、國家的要求に應ずべきものか否かを慎重に検討を重ねた後、熟慮 行、よしとばかり疾風迅雷的に着手する痛快極まる明断と腕の冴えは、郷黨の一人として驚嘆せざる者はないと云はれてゐる。

## 新潟電鐵株式會社

【所在地】 新潟市一番堀通二番地ノ一

【電話】 新潟 二八四四番

【營業項目】 鐵道運輸業

【資本金】 金二百十萬圓

【拂込金】 全 額

【前期配當】 年六分

【現在役員】

取締役社長	白勢量作	常務取締役	今井幸吉
取締役	山田助作	同	田中繁太
同	野澤吉太郎	同	岡田

【沿革一斑】

周知の通り新潟縣は我が本島に於ける屈指の大縣であるが、これが交通運輸の動脈たる鐵道事業はその所表に比例して重大性を有してゐる、その重大性を際當して時局下完全に國家的使命を果たしてゐるのは即ち當社である昭和八年八月十五日の創業であつて、縣の樞軸新潟市と産業都市たる燕町とを連繫する鐵道を布設して、産業新設の活潑なる運營發展に資しつゝある功績は極めて甚大である。



## 合資會社 田中商會

【所在地】 新潟市流作場一七九二  
 【電話】 新潟 九七〇番・一四八五番  
 【營業項目】 自動車並同部分品、用品販賣、自動車修理加工  
 【現在役員】 代表社員 田中堅太郎  
 【沿革一斑】 昭和十一年一月二十六日の創業に係はるもので、代表社員田中氏は弱冠よく業界に乗出し、疾くも強固なる社礎を確立した成業者である。  
 明治大學法學部を卒業すると業界の第一線に躍進し、凡ゆる困難と闘つて今日を築上げた努力は、更らに多俸なる將來を約束せるものと云つてよい。

## 西山鐵工鑄造株式會社

【所在地】 新潟市川端町六四四  
 【電話】 新潟 三五四三番  
 【營業項目】 産業機械鑄造會關係、鑄山、化學製鐵機械、軍需品  
 【資本金】 金十九萬八千圓  
 【拂込金】 全額  
 【現在役員】 社長 西山豊治 專務 西山正之助  
 取締役 枝村修一郎、今井春吉  
 監査役 西山清三郎、藤木平一郎

## 日滿煉炭會社

【本社所在地】 新潟市外雅文  
 【電話】 七七五番  
 【事務所所在地】 新潟市新島通三小林力三商店内  
 【電話】 新潟 五九八番  
 【現在役員】 取締役社長 小林力三 專務取締役 高橋由松  
 燃料國策の叫ばれてゐる戰時日本の産業界に於て、煉炭の分擔する産業的使命は頗る大なるものがあり、その効用價值の高いことも亦瞳目に値するところである。

斯る國家的要求の一端に應ずべく、産業報國の純乎たる動機に依つて日滿煉炭會社の經營に當つてゐる小林力三氏は、當縣下の實業家として異彩を放つ一人と云ふを妨げないであらうと思ふ。  
 氏は新潟の人名門の出で、新潟高等學校の出身者で令兄の後繼者となり海運業、石炭商を営み來つたが昭和十六年十月當社を創設し自ら社長の重責を帯びて奮闘、今日の盛大を招來したものである。  
 尙ほ餘力を割いて東北鐵鐵の專務、縣炭統制會社、小宮炭礦各取締役となり年少氣鋭の令名を馳せてゐる。又專務高橋由松氏は明治四十五年當社に入社以來精勵一日の如き功勞者で、現に小宮炭礦の取締役に兼ね、小林社長唯一の輔佐役として重きをなしてゐる。

【沿革一斑】 昭和四年五月、西山鐵工所を創立したがこれを根幹として漸次擴張せられ、同十三年五月には西山鐵工鑄造株式會社を創立、同十七年四月に至り兩社を併合するに及んで現稱の社名に變更したものである。  
 現在に工場を新潟市沼垂山下二三六二番地（電話三八六五番）に特設し、機械工作、製鐵、鍛造の三部門に岐れ整然たる設備を誇つてゐる。西山專務は三十一歳の元氣潑刺たる青年工業家で、營業の總帥として活躍し大に將來に嚆矢せられてゐる。

## 高桑重一

【生年月日】 明治二十八年三月十八日  
 【出身府縣】 新潟縣燕町大字燕  
 【現住所】 同上燕町大字燕三〇八〇  
 【電話】 燕 一四九番  
 【現在職業】 洋食器、飛行機部分品製作  
 【經歷】 土地の名産として生れた氏は、學修を完了すると大正十三年三月より洋食器製作を開始し『燕の洋食器』たる隆々たる市場的名聲を擧るるに並々ならぬ功勞があり、爾來、昭和十六年まで専門的に主力を斯業に傾注し來つたのである。然るに今次大戰の進展に伴つて資材の不抵と、軍需品重點主義の國策に即應する爲め、同十七年より決然飛行機部分品の製作に轉向したのである。現に資本金を増加して株式會社に改組擴大の準備中であるから、近き將來には一段と生彩を添へるに相違ない。因にタキ子令夫人内助の功甚だ大である。

## 新潟合同自動車株式會社

【所在地】 新潟市流作場二四四〇番地  
 【電話】 (代表) 新潟 三四一〇番  
 【營業項目】 乗合自動車に依る一般運輸業  
 【資本金】 金一、六〇〇、〇〇〇圓  
 【拂込金】 全額  
 【決算期】 一月 七月  
 【前期配當】 年六分  
 【現在役員】 取締役社長 中野四郎太 專務取締 等々力治  
 藤太 常務取締役 手代木能三郎  
 取締役 高杉石蔵、村田三郎、安藤文平 (以下抄略)  
 支配人 高橋友次郎  
 【支店所在地】 新藤田、新津、水原、白根、巻、加茂、彌彦、河原田、兩津、相川、小木  
 【沿革一斑】 昭和七年六月九日、株式會社新潟商會、新潟乗合自動車株式會社及び他の自動車株式會社の三社を併合し、資本金三十三萬五千圓を以て創立したもので、更らに翌八年十月二十五日に至り新潟市街自動車株式會社及新松交通遊覽株式會社の二社とも合併、同十二年六月九日には又々白根自動車株式會社及び佐渡乗合自動車株式會社を合併益々社業の擴大を展開した。然るに同十七年に至り更に下越乗合、新發田市街、赤泊自動車等の三社をも併せ遂に現況の如く總運轉桿程七百九十七軒八に及ぶ同縣下交通界の王座を占めるに至つた。



# 株式會社 深海隆明商店

【所在地】 新潟縣西蒲原郡燕町  
【電話】 燕 長 四八・二二〇番  
【現在役員】 深海 隆明  
【經營會社】

- 一、株式會社丸七鐵工所
- 二、株式會社丸七煙管製作所
- 三、株式會社丸七鐵製作所

【營業種目】

- 一、鐵工所製作品、石油鑿井機
- 一、オーショントン・ポンプ専門製作
- 一、煙管會社製品、内地、滿洲、大陸向各種煙管製作
- 一、鐵會社製作品、鐵工鐵、組鐵、製材鐵、ロータリー特殊鐵

【支店所在地】 東京、三條  
【經 歴】

世の産業風土記に筆を執る者をして、驚嘆の眼を瞠らしめるものは、先づ新潟縣の近來眼瞶しい産業的進出振りであらう。殊に西蒲原郡の燕町は平面的を都市觀か

らすれば、決して華々しい存在ではないが、一度ひ産業の角度から凝視するならばそこに驚くべき新鮮の息吹きと、底力とを見出すにはあられない。

本欄の主人公深海隆明の事業は、實にその中樞をなす、燕産業の圓心である。

同家は先代より繼承せる煙管製造の由緒ある本欄であつて、技巧の優秀にして巧藝價値の高い逸品であることは夙に愛煙家の間に定評あるところであるが、現經營者の隆明氏に至つて大に時代の進路に先驅的飛躍を試み、組業の本據を業軸として前掲の如き三大會社を兼營し、三面六臂の火を發する活躍振りは全く氏ならではの底望めな一處と云はれ、郷人氏を呼んで『燕の小林一三』なる愛稱を以てする所以も茲にあるので、又宜なりの感があるのである。即ち現在前項列記の三會社を併せ營んでゐるが、三社には皆な夫々の特色があり、一は家祖傳來の矜るべき煙管製造であり、

一は土地の特産として自慢の鐵製作であり一は時局に即應する新興鐵工である。この三會社の製品を一手に統轄して内地外地の廣範圍に亘る販路を取扱ひ、需給の迅速圓滑を期してゐるのは、即ち事業の基地たる株式會社深海隆明商店である。

氏は未だ青年の霸氣燃える新銳の士で、頭腦透徹、思慮又綿密、常に時代の動きと國家の要請に對して深甚なる洞察力を有し、何時何ん時なりともそれに即應する物心兩面に裕かなる用意を忘れない、謂はば典型的時代の先驅者である。

それに配するに才色兼ね有する令夫人を以てせることは、この老舗の若主人として時局の地方的擔當者として諸條件を完備するものと評して差支へあるまい。

夫妻共に信仰心厚く毎朝自ら禮拜して多くの店員、社員、従業員に範を示す陣頭指揮は當社將來に更ら輝しき發展を豫約せるものといふべきであらう。

# 特殊變壓器株式會社

【所在地】 大阪市西淀川區東塚本町一ノ

四九

【電話】 北 七二〇七番

【營業項目】

- 一、各種自動車用イグニッションコイル
- 【資本金】 金十九萬八千圓
- 【拂込金】 金十四萬八千五百圓
- 【積立金】 金一千二百圓
- 【決算期】 毎年十一月
- 【前期配當】 年六朱

【現在役員】

代表取締役 富田 伊之助

【營業所】

大阪市西淀川區野里町三九〇ノ五  
(電話淀川自五一一至五三番)

【沿革一斑】

云ふまでもなく大阪の産業的割合は極めて大きい。當に大きいばかりでなく時局の

進展に隨伴して重化して行くのである。

この重大化に即應してよく産精精神の顯現に實踐を示しつゝある力強い一翼に、この特殊變壓器株式會社がある。

當社は支那事務變換の翌年即ち昭和十三年七月十日の創業に係はるものであつて、今日まで未だ五年未滿の短年月を閲したに過ぎないのであるが、その輝しき業績はこれに反比例して瞠目すべき成功を収めてゐる。

この驚くべき發展は抑も何に依つて招來せられてゐるか云へば、甚だ簡単に回答を與へ得るのである。曰く製品の優秀性これである。この簡單にして明瞭なる原因は一見容易なるが如くでその實極めて至難の業である。自己宣傳や自分免許の『優良』なるレッテルを貼るのでなく、眞に市場の聲價を獲得するには並々ならぬ研究と苦心の潜在することを看過がしてはならぬ。

當社はこの至難なる背後の諸條件を悉く具備したからに外ならない。

即ち昭和十一年五月、自動車製造事業法の實施せられて以來、外國産自動車輸入の制限となり、次で支那事務變換の勃發、大東亞戰爭擴大と引續く時局の深刻化に隨伴して部分品の國産化を餘儀なくせられたのである。

斯る客觀的情勢に依つて外部的に刺戟せられたばかりでなく、内部的には當社首腦者の不斷の研究と粒々たる苦心とに依つて独自の製作技術を發見して優秀なる製品を實現するに至つたのである。

即ち自動車イグニッションコイルの製作に創見的技術を遺憾なく發揚し、遂に斯界に一大問題を投ずるが如き優良無比なる逸品を完成するに至つたものである。

現に製品は軍部方面を初めとして民間の各會社、滿支各方面に汎く提供して嘖々たる好評を博してゐるのは、その苦心と全社協力一致の奮闘を知るならば何等異しむに足らないところである。尙ほ現在の資本金は二十萬未滿であるが目下五十萬圓増資の計畫成り着々その實現に向つて進行中と傳へられてゐるから、その實現の曁に於ては定めし目覺しい發展をなすのは火を賭るよりも明かであらう。



# 東部精密ネヂ工業組合

【所在地】 東京市芝區海岸通一ノ二〇

【電話】 直通芝 四七〇一番

【事業概要】

- 一、製品の検査
- 二、統制
- 三、營業に關する指導、研究及調査
- 四、營業に必要な物の供給
- 五、其の他の施設

【資本金】 金二十三萬九千六百圓

【拂込金】 金十一萬九千八百圓

【決算期】 毎年三月三十一日

【現在役員】

- 理事長 愛澤 信公
- 同 佐藤 義明
- 同 佐野 治郎作
- 同 石津 貞次郎
- 監事 藤田 節三
- 同 篠原 政一

【組合地區】

靜岡縣、長野縣、富山縣及石川縣

以東の各道府縣

【設立年月日】 昭和十八年二月五日

【組合員數】 二九五工場

【沿革】

一口といふ俚諺にも、心の『ネヂ』を捲くといふ。この『ネヂ』こそ物心兩面に執つて重要ならざるはないのであつて、戦ひ抜く現在の我が日本の最後の宗勝を決定するものは、云ふ迄もなく精神力の緊張即ち心の『ネヂ』と生産力の『ネヂ』とである。

この『ネヂ』の問題は技術的にも、製作的にも忽諸に附すべからざるもので、本組合はこの生産力の増強を圖り、精巧精密なる諸機械には缺くべからざる文字通りの『ネヂ』の製作に關與する工場の綜合的組合である。

その結成創設は極めて最近に屬してゐても昭和十八年二月五日、監督當局より設立認可を受け、翌三月八日を以て設立登記

を完了して、茲に颯爽として發足したものである。その事業とするところは前掲の如く製品の嚴密なる検査を初めとして統制、營業に關する指導、研究及調査、營業に必要な物の供給、其の他の施設といふ五大項目に亘つてゐるが、これ等を總べて綜合的に統轄して處理し運営し、極めて活潑なる業勢を示してゐるのである。

而して現在、その組合地區は靜岡縣、長野縣、富山及び石川縣以東の各道府縣悉くを網羅する廣範圍に及んで居り、組合名の『東部』なる文字に背かざる内容を包括してゐるのである。

而して組合員は本年四月二十五日現在に在りては二九五工場を數へ、これ等は何れも代表的大工場、模範工場のみであるから本組合は如何に本質的に重要視せられてゐるか容易に窺知し得られるであらうと思ふ。

斯くの如く設立以來僅々二ヶ月足らずに過ぎない現在、爾く重要組合としての價値を遺憾なく顯現し得た所以は、全く愛澤理事長を初め各役員諸氏の献身的努力の賜ものに外ならない。

# 立山重工業株式會社

【所在地】 富山市下奥井一番地

【電話】 代表富山自四一九一番

至四一九六番

【營業項目】

- 一、工作機械
- 一、車輛
- 一、運搬機
- 一、土木機械
- 一、製鋼
- 一、銑鑄
- 一、各種機械鑄物

【資本金】 金六百萬圓

【拂込金】 全額拂込

【決算期】 三月 九月

【現在役員】

- 取締役社長 吉田 清平
- 取締役經理部長 金岡 好造
- 取締役技術部長 月岡 東一
- 取締役東京出張所長 磯波 仙太郎

取締役 本江 義忠

同 廣田 傳次郎

同 須田 藤次郎

同 中井 敏雄

同 内山 彌次郎

同 富川 保太郎

同 佐藤 久雄

同 山内 貢

同 蓮沼 長藏

【工場】 富山市下奥井一番地

【出張所】

東京出張所 東京市麹町區有樂町一ノ三

(富士アイス三階)

大阪出張所 大阪市西區京町堀上通り一

ノ三〇(京一ビル内)

名古屋出張所 名古屋市中區宮出町四

四

北陸の否日本の藥都として富山市の名は餘りにも有名である。

併しそれは既に歴史的價値の範疇に入つ

てゐる。無論、現代でも藥都の價値を少しも減退してゐなければ、變貌してもゐないが、國運を賭けての曠古の大戦を闘ひ續けてゐる現在、人命を救ふ富山市の藥都的使命は、國家を救ひ、國力を培養する産業的給源體へと躍進してゐるのである。

この國家的飛躍の脚光を浴びて、北陸産業界の力強い一兵站基地となつてゐる同市を論ずるに方つて、斷じて見道かしてはならぬのは即ちこの立山重工業株式會社である。

全額拂込済みの資本金六百萬圓の巨資を擁し、これを十分に關便活用して前記の如き七種類に岐れてゐる多角的工業を經營してゐるのである。何れも當社獨特の研究と練磨とに依る優秀性を誇らざるものはないが、就中、精巧なる工作機械、能率的なる車輛、運搬機堅牢なる土木機械、それに製鋼、銑鑄、各種機械鑄物等は全く他の匹敵を見ないところで中央、地方とを問はず噴々たる市場價値を發揮してゐる。



昭和十八年五月七日印刷  
昭和十八年五月十日發行

【昭和十八年産業年鑑】

定價 ● 參 圓

(出文協承認ア380268號)

不 許  
複 製

東京市京橋區木挽町二丁目一番地  
合資會社 産業日本社

編輯兼 發行人 木 村 正文

東京市京橋區木挽町二丁目一番地

印刷人 木 村 正文  
(東東三三七〇)

發行所

東京市京橋區  
木挽町二丁目一番地

合資 産業 日本社

配給元

東京市神田區淺路町  
二丁目九番地

日本出版配給株式會社

電話(六)一八六一番 一八六二番  
京橋(六)九五二番  
振替東京六三九四九番

# 滿洲重工業開發株式會社

本社 新京特別市大同大街四〇六號

支社 東京市芝區田村町一丁目二番地



資本金  
三億二千萬圓

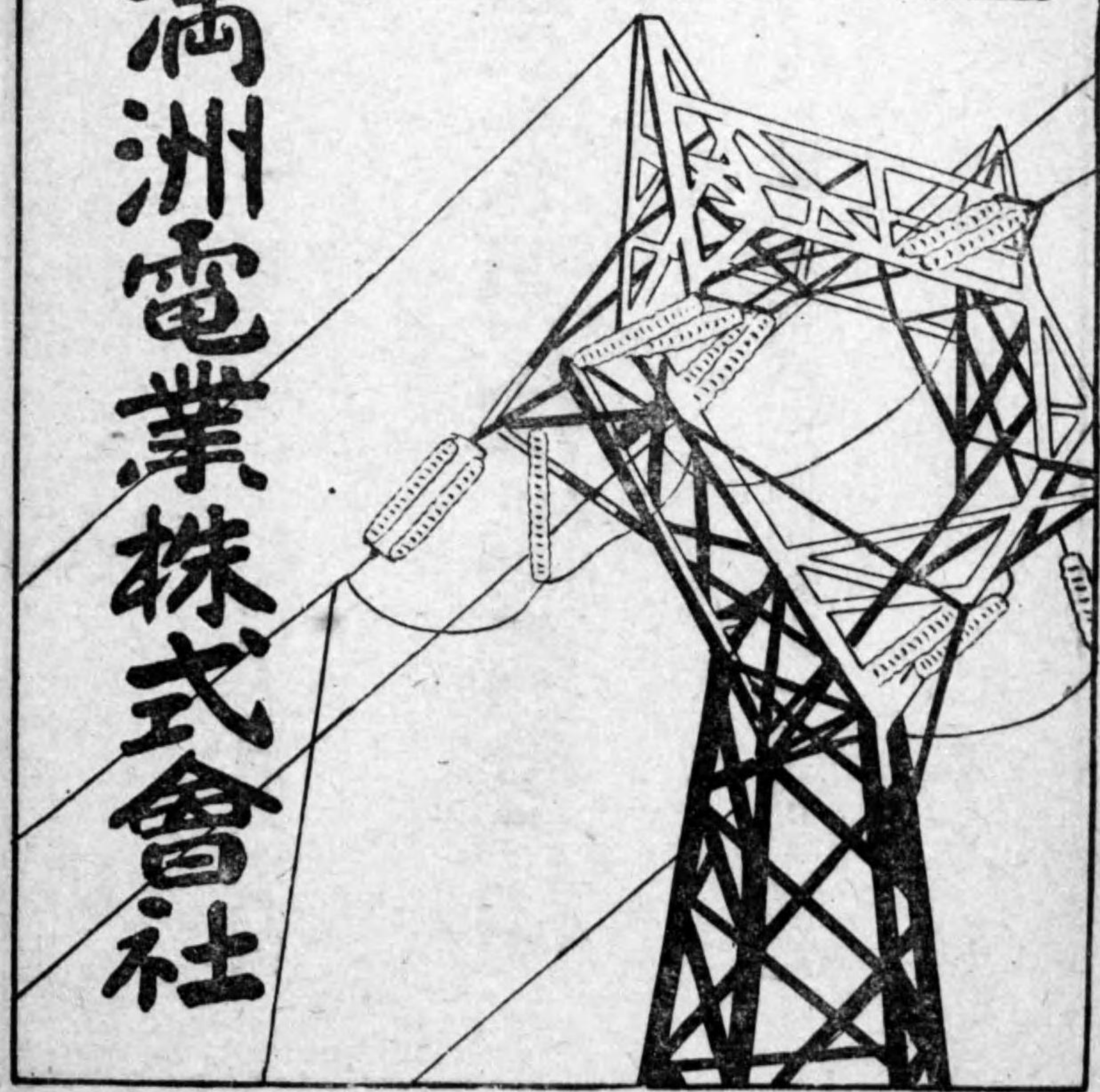
本店  
新京特別市大同大街三〇一

支店所在地  
大連・奉天・哈爾濱・新京・營口・鞍山・安東・吉林・齊々哈爾・錦州・西安・牡丹江・延吉・佳木斯・承德・四平街・洮南・東安・北安・海拉爾及通化

事務所在地  
東京



滿洲電業株式會社



資本金 一億圓



滿洲電信電話株式會社

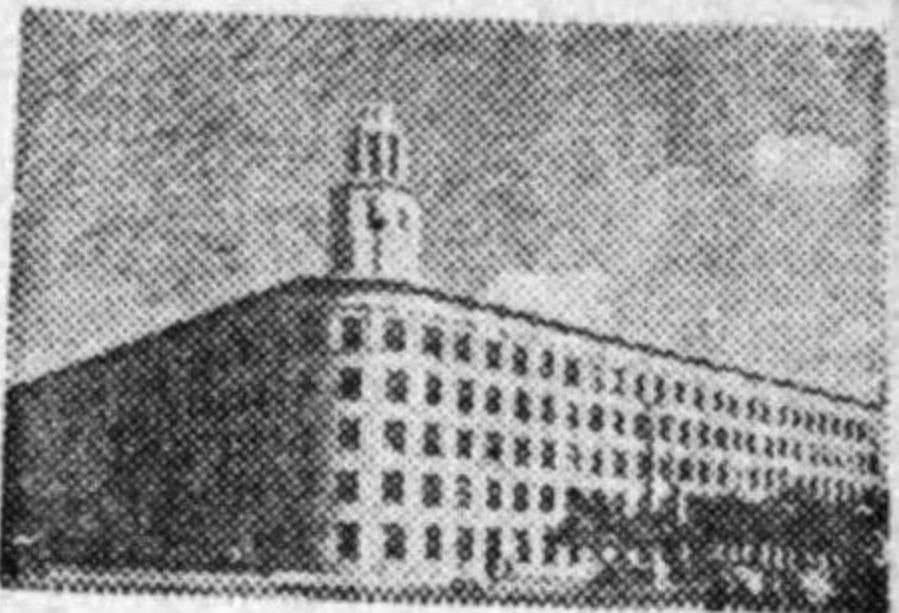
本社 新京 大同 廣場

總裁 廣瀨 壽助

副總裁 齊默特色木丕勒



社本京新



滿洲國內重要生産資材の  
配給及び輸出入統制機關

採取商取  
銑鐵・海綿鐵・鋼塊・鋼半製品・普通鋼鋼材  
特殊鋼・線材製品・鑄鐵管・鐵鋼製品・合金  
鐵・屑鐵・粒鐵・非鐵金屬・石炭・骸炭  
煉炭・化學工業製品・鑛油類・鑛石類



# 日滿商事株式會社

理事長 小川 逸 郎

本社 新京特別市大同大街二〇二號

各地營業所  
支社 東京  
支店 新京・哈爾濱・奉天・撫順・鞍山・營口・阜新・安東・本溪湖・大連・京城・大阪・名古屋・門司  
事務所 北京  
出張所 海拉爾・齊齊哈爾・佳木斯・鶴崗・東安・鶴崗・牡丹江・圖們・吉林・四平・西安・通化・錦州  
支所 公主嶺・北安・鐵嶺・遼陽・大石橋・瓦房店・旅順・札魯諾爾東寧・開原・承德・平壤・八幡・天津  
出張員 川崎を始め日滿支稱要地に亘り三十八箇所

資本金 貳億圓



# 昭和製鋼所

本社及工場所在地 滿洲國鞍山市



大連市佐渡町三〇番地



株式進和商會

代表取締役 小南 夫 一

新京特別市豊樂路一一〇番地



株式滿洲進和商會

代表取締役 小南 夫 一

鐵道車輛線路用品  
機器類設計並製作  
鑄鐵鑄鋼<sup>其他</sup>各種合金鑄物



株式大連機械製作所

取締役社長 高田 友吉

本店及工場 大連市臺山町二二三番地

電話代表共通四一九一五五  
夜間及振替 大連二〇〇二

奉天營業所 奉天大廣場二井ビル四階・電話一一一五〇七  
奉天支店工場 奉天市大和區康泰街二段四地號電話二二三〇三  
新京駐在員詰所 新京豊樂路一一〇進和商會內電話二一八四六



# 營業科目

各種船舶建造及修理・陸船用諸機械汽罐・鐵道附屬品及車輛・製鋼鑛山土木及化學工業用機器・ロードローラー・鍛工鑄物製品煖房用ボイラータンク類・橋梁其他構作物ノ設計製作修理現場組立据付工事並ニ海難救助作業



## 大連船渠鐵工株式會社

本社 大連市濱町三番地

電話 (2) 七一九五番

造船工場 同上・車輛工場 同乃木町十一番地・製材工場同甘井子

### 事務所

新奉鞍東大  
 京山天京  
 大同大街二〇二天興ビル  
 瀋速通二八都ビル  
 北三條  
 赤坂區葵町滿鐵支社內  
 西川區口町日滿倉庫內

### 輸出入

金物・機械・自動車タイヤ・ロープ・ベルト・礦油・其他  
 工事工場並船舶用品・麥粉・砂糖・米・毛糸・其他諸雜貨  
 木材・セメント・煉瓦・建築用大理石・金具・防水材料其他建築材料

### 保險部

火 災・海 上・運送・傷害・自動車・生命・各保險代理

### 倉庫部

一般貨物保管・通關代辦

### 礦業部

石灰石・苦灰石・硅石・螢石・滑石・崗石・砂・砂利・各種鑛山經營・調查鑑定

### 工事部

土木・建築・設計監督・工事請負

總本社 大連市山縣通二二三番地(電話代表二二二七一一七二番)  
 支那本社 青島・上海路六〇 電話代表二一四四八八



## 株式會社 福昌公司

專務取締役 相生常三郎

滿洲本社 新京特別市八島通四二電話代表三一三八一  
 支 店 上海・天津・北京・青島・奉天・新京・哈爾濱

### 出張所

萬家鎮、海城、鞍山、撫順、四平街、吉林、北安鎮、綏化、黑河、齊齊哈爾、牡丹江、佳木斯、錦州、瀋陽、大連、石門、漢口、蘇州、無錫、鎮江、無錫、大同、太原、石門、漢口、京、蘇、州、無、錫、鎮、江、無、錫、大、同、太、原、石、門、漢、口、大、阪、市、北、區、中、之、島、三、三、旭、ビ、ル、東、京、市、赤、坂、瀨、池、三、一、山、王、ビ、ル



本店 大連市大山通二六

# 株式會社 大連鐵工所



大連市榮町二番地

電話伏見(3) 代表一八七二・一八七二  
園一八七三

受信略號 タイレンテツコウ 電信略號 (タイテツ)

製罐部 大連市外周水子驛東方三丁・電話園四〇一六九番

出張所 新京東二條通り七〇番地・電話(3) 園六〇九〇番

# 滿洲興業銀行

新京特別市大同大街



### 營業

### 品目

羅紗、サージ、毛布、毛糸  
 モメリヤス、フェルト、防寒靴  
 天津絨氈、帽子、其他毛製品各種  
 創立 大正七年十二月  
 資本金 一 千 萬 圓



# 滿蒙毛織株式會社

社長 椎名義雄

本社 滿洲國奉天市鐵西區  
 北京事務所 北京東安門大街一六號  
 蒙疆辦事處 張家口明德大路一四八號  
 京城支店 京城府南大門通三丁目二三  
 大連、錦縣、齊齊哈爾、  
 海拉爾、安東、石家莊、  
 濟南、張家口、大同、厚  
 和、包頭、東京  
 新京事務所 新京特別市至善路四一六號  
 東京事務所 東京市麹町區內幸町一丁目東拓ビル  
 名古屋支店 名古屋市西區光善寺町八十三番地  
 營業所 新京、哈爾濱、奉天、天津、北京、  
 大連（メリヤス部）  
 工場 奉天、北京、天津、厚和、名古屋、岡崎

出張所

資本金 壹千萬圓

# 滿洲鑄物株式會社

社長 根本富士雄  
 專務 田中 漸

本社 奉天市大東區珠林街二段第七號  
 支店 東京・大阪・新京・出張所 大連



滿洲帝國新京特別市大同大街



滿洲大倉商事株式會社

營業種目

砲金加工一式  
亞鉛鍍金  
電柱用金具  
ボールトナット  
土建物各種  
鍛造物各種

工作

GS日本電池會社製品  
車輛用部分品・鐵鋼材  
諸機械及工具・チツソライト板  
電氣機器及配線器具材料  
工業用ゴム製品・諸雜貨  
專賣特許ガソリン洗油代用品  
ソルボン電氣醫療機各種



滿天洋行

奉天市大和區隅田町十一番地・電話(2)一一三三番  
振替奉天四二〇〇番・登録受信略號マンテンヨウコウ  
倉庫部 隅田町十番地・工場 奉天市鐵西區祐丁街・出張所 新京興安大路電話(二)一一六二番



滿洲國奉天市小東邊門外

# 滿洲工作機械株式會社

取締役社長 根本富士彌  
專務取締役 家納正

# 滿洲乾電池

通信用・無線用・燈火用



# 滿洲乾電池株式會社

本社工場 奉天市鐵西區裕工街壹段二十四號・電話奉天(3)長六六六七・六〇四七番  
振替奉三五九四番電略ホウテンマンカン  
新京駐在員 新京特別市大同大街康徳ビル・電話(2)六二七〇番  
大連駐在員 大連市山縣通り一六五番地・三菱商事株式會社大連支店內  
電話(2)八一五一番  
東京駐在員 東年市品川區品川三丁目・株式會社品川電氣商會内  
電話高輪(4)長五四・五五・五六番



滿洲國唯一の  
カーボン製造所

奉天市大和區紅梅町三三

# 興亞電極株式會社

電話 (3) 五〇三九番

取締役社長 佐伯長太郎  
專務取締役 黒萩徳利

# 滿洲輕金屬製造株式會社

本社 撫順市山本町

# 株式會社本溪湖煤鐵公司



滿洲國新京特別市大同街

# 滿洲房產株式會社

滿洲國新京市大同大街

# 滿洲畜產株式會社

資本金 二千萬圓

本社 奉天市大東區大東邊門外

# 株式會社 滿洲工廠

取締役社長 根本富士雄

專務取締役 水內忠



滿洲土木建築協會

新 京 特 別 市

株式會社  
榑

谷 組

新 京 特 別 市 中 央 通



(目 種 業 營)

賣 販 品 製 ム ゴ 用 業 工  
賣 販 作 製 マ ー シ 型 大 具 馬 ・ 靴 軍 軍 海 陸

# 所 業 工 謨 護 城 磐

市 又 成 吉

號 二 町 平 琴 市 天 奉 所 業 營  
番 〇 五 五 六 ・ 番 九 四 四 二 ( 3 ) 話 上  
號 二 町 平 琴 區 和 大 市 天 奉 場 工

# 社 會 株 式 業 工 屬 金 洲 滿

號 五 一 段 三 街 工 嘉 區 西 鐵 市 天 奉  
二 四 六 三 ・ 五 三 〇 一 ( 五 ) 話 電

一 年 產 二 百 五 十 萬 平 方 碼

TRADE MARK



# 滿 洲 東 洋 リ ノ リ ユ ム 株 式 會 社

理 想 的 床 敷 材 料

リ ノ リ ユ ム

カ タ ロ グ 上  
呈

## 營 業 品 目

- リ ノ リ ユ ム
- リ ノ タ イ ル
- リ ノ ウ オ ー ル
- リ ノ マ ッ ト
- リ ノ リ ユ ム 特 製 糊

奉 天 市 大 和 區 浪 速 通 二 六 號  
電 話 ( 3 ) 三 一 一 二 番



理事長 駒越 五貞

# 滿洲圖書株式會社

新京特別市五馬路第一〇七號  
電話代表(二)一九一一番

製材機械製作專門及製材工具販賣  
三菱電機株式會社製品特約販賣店  
南滿洲鐵道株式會社御指定



# 宮崎鐵工所本店

安東市大和 四番通五丁目一  
電話二二八九 卅・三二八九番  
支店新 京・ハルビン・本溪湖

滿洲國奉天市

# 鐘紡南滿洲出張所

所長 稻田 幾次郎

# 日滿製粉株式會社

哈爾濱市道裡區警察街第五十一號



### 目品扱

傳導用ベルト・輸送用ベルト・V型ベルト  
空氣用ホース及工業用ゴムホース各種其他  
工業用ゴム製品・荷車用タイヤ・チエーブ  
荷車ホキールセット

## 東洋護謨製品販賣株式會社

本社 奉天市大和區千代田通り第三八號

電話(3) 七九〇九・二八八二番

出張所 大連市山縣通一一三番地

電話(2) 五一三一・七四六一番

新京特別市北安路五〇六號

電話(2) 七九四八番

工場 奉天タイヤ工業株式會社・橫濱護謨製造株式會社

取締役社長 萩原 拳吉

同 宇佐美貞義

常務取締役 淵野 竹四郎

同 鷺野甚之助

取締役 川 瀨 一貫

監査役 小原清次

同 吉川辰之助

## 三井物産株式會社 新京支店

新京特別市大同大街二二〇號

## 東洋紡績株式會社 新京事務所

新京特別市北安路五〇六



# 日滿鋼材工業株式會社

奉天市鐵西區南二路二一

電話 代表(2) 六六一七番



株式會社 永順洋行

大連市山縣通八十八番地

電話(2)二八五一・四三三九・四八六八・一六二五

出張所 奉天・吉林・哈爾濱・天津

新京・營口・四平街・青島

# 株式會社 熊平商行

本社 新京日本橋通り

電話(3) 二〇一四・六一二四

新京工場 新京鐵嶺屯・電話(2)一二二五

奉天支店 奉天市加茂町・電話(2)四六六三

奉天工場 奉天市鐵西

大連出張所 大連市常盤町・電話(3)二〇六一

特殊鋼・鋼管・瓦斯管継手バルブボックス  
機械工具地金塗料・電機器具 電線及管

奉天市大和區信濃町十三號

# 宗 岡谷商事株式會社

社長 岡谷 順之助

代表者 今枝 柳太郎

電話(3) 四二一六・四二一七  
四二一八・四二一九

出張所 大連・新京・鞍山・天津・北京



滿洲化學工業株式會社

大連市外甘井子

滿洲曹達株式會社

大連市外甘井子

滿洲石油株式會社

大連市外甘井子

國際運輸株式會社

大連市大山通六十六番地



# 泰東洋行

大連市山縣通二(東拓ビル)

電話長(2)六三四七・四〇九四・七九一七番



株式會社 鳥羽洋行

本店 大連市近江町八番地

(..)



株式會社 鳥羽洋行

本店 奉天市大和區千代田通第三十九號

# 出光興産株式會社

支店 大連

大連市土佐町五七

# 古河電氣工業株式會社

大連販賣店

大連市山縣通一二三番地  
大連郵便局私書函一二二號



營業種目

工作用・鑛山用・土木用諸機械及工具  
皮ベルト及パッキング  
石油・鑛油・植物油・魚油・獸油  
一般化學工業藥品



合資會社

亞東公司

代表者 江上勝次

本社 奉天市大和區千代田通三九番地  
電話 園(三)三三九六番・六〇二六番  
支店 哈爾濱道裡外國七道街十一號  
出張所 大連市・新京特別市・阜新・牡丹江  
佳木斯・大阪市・臺北市・天津市

大連市山縣通り十八番地

株式會社 東裕公司

電話 代表番號(三)五一五七番五一五八番

園五一五九・一二二八・一三三四

振替口座大連六九二  
受信略號 タイレントウユウ  
發信略號 (ト)又ハ(トユ)